

神川町まちづくりアンケート調査
報告書

平成 28 年 10 月
神 川 町



目次

調査の概要及び回答者の属性	1
1 調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の概要	1
(3) 本調査結果報告書の留意点	1
2 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 居住年数	5
(4) 世帯	6
(5) 居住地区	7
(6) 職業	8
(7) 就学先・勤務先	9
(8) 家族構成	10
(9) 隣近所との関わり方	11
調査結果	12
1 望ましい将来の姿	12
(1) 望ましい将来の姿	12
2 住みよさと定住意向	14
(1) 神川町の住みよさ	14
(2) 住みにくいと感ずる理由	16
(3) 住み続けたいか	19
3 満足度と重要度	21
(1) 生活環境やまちづくりの現状についての満足度及び重要度	21
(2) 満足度と重要度の相関関係	29
4 属性にみる満足度と重要度	35
(1) 保健・医療・福祉・介護	35
(2) 生活環境	41
(3) 産業振興	52

(4) 教育・文化	57
(5) 行財政・まちづくり	62
5 町政について	66
(1) 町政への関心度	66
(2) 町政に関する情報を得る手段	68
(3) 町政に関する情報は十分か	70
(4) 日々の生活での悩み・不安	72
(5) まちへの意見・要望を伝える手段	74
6 分野ごとの力を入れるべき事業	76
(1) 保健福祉	76
(2) 都市基盤	78
(3) 生活環境	80
(4) 産業振興	82
(5) 教育文化	84
(6) 男女共同参画	86
(7) 行財政	88
7 重要なこと・優先すべきこと・大切なこと	90
(1) 教育のあり方	90
(2) 生涯学習	92
(3) 少子化対策、子育て支援	94
(4) 住民参加	96
(5) 若者支援	98
8 自慢できるもの	100
(1) 自慢できるもの	100
9 行政について	103
(1) サービスと住民負担	103
(2) まちづくりで参加したい活動	105
(3) 合併についての満足度	107
(4) 他市区町村への「ふるさと納税」について	109
(5) 役所の仕事ぶり	111
10 自由回答	113

調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

新町建設計画の理念をさらに深化させていくために、これからのまちづくりを進めていくうえでの重要な指針となる「神川町第2次総合計画」を策定するにあたり、町民の意向を広く取り入れ、計画に反映させることを目的に実施いたしました。

(2) 調査の概要

調査地域	神川町全域
調査対象	神川町在住の満18歳以上の町民（平成28年7月1日現在）
調査方法	郵送による配布・回収
対象者数(配布数)	2,000人
抽出方法	住民基本台帳から等間隔無作為抽出
有効回収数	656人
有効回収率	32.8%
実施期間	平成28年7月中旬～8月中旬

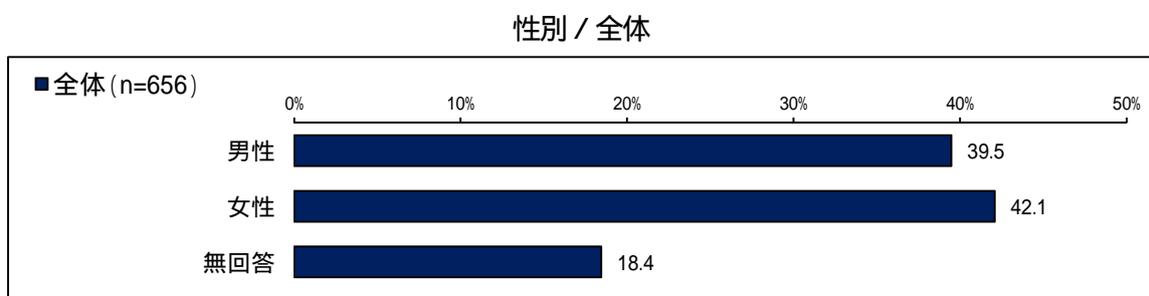
(3) 本調査結果報告書の留意点

- ・比率は百分率（％）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100％を上下する場合があります。
- ・各設問の回答数は、“n”(number of case)として掲載し、各比率は全体の“n”を100％として算出しました。
- ・複数回答の問(「3つまで」等複数の選択肢から1つ以上の選択肢を選んで回答する形式)は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100％を超える場合があります。
- ・今回の調査は、神川町全人口に対して回答数が少数ですが、総務省統計局の標本調査の考えに基づき、回答比率0.5、標本誤差は5％、信頼水準95％(t=1.96)として、統計学的に必要な回答数を満たしているため、有意性は確保されています。
- ・問の中には回答を限定する問があり、回答者の数が少ない問が含まれます。
- ・選択肢の文言が長い場合、本文や表・グラフでは省略した表現を用いています。
- ・本調査結果報告書の構成上、問の順番が前後する場合があります。
- ・属性を回答していない方がいるため、属性の回答数合計と全体の回答数は異なります。

2 回答者の属性

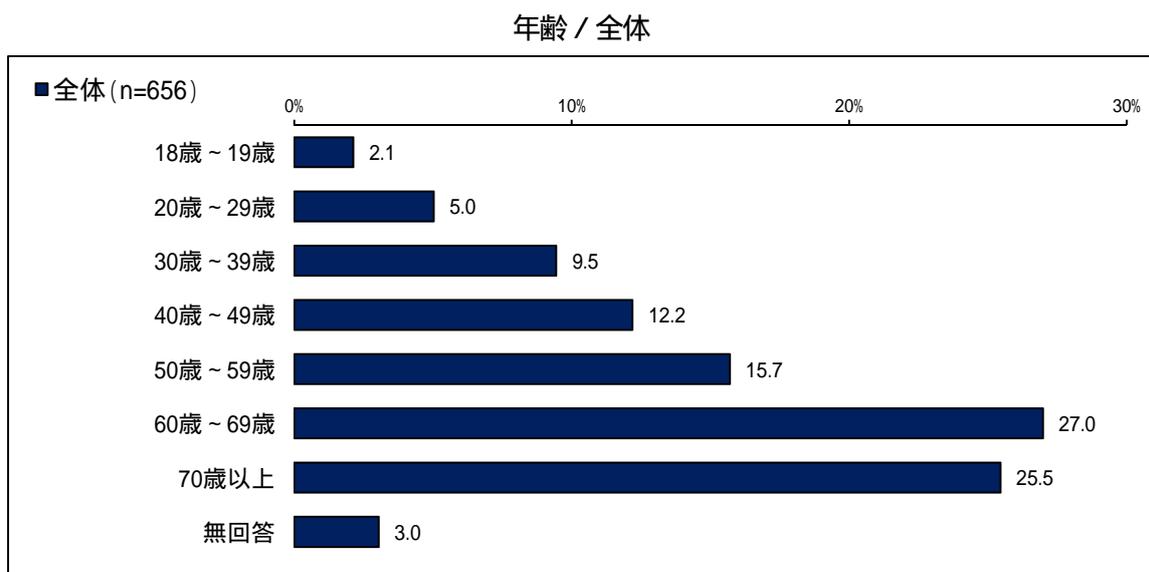
(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が39.5%、「女性」が42.1%で、女性が男性をやや上回ります。



(2) 年齢

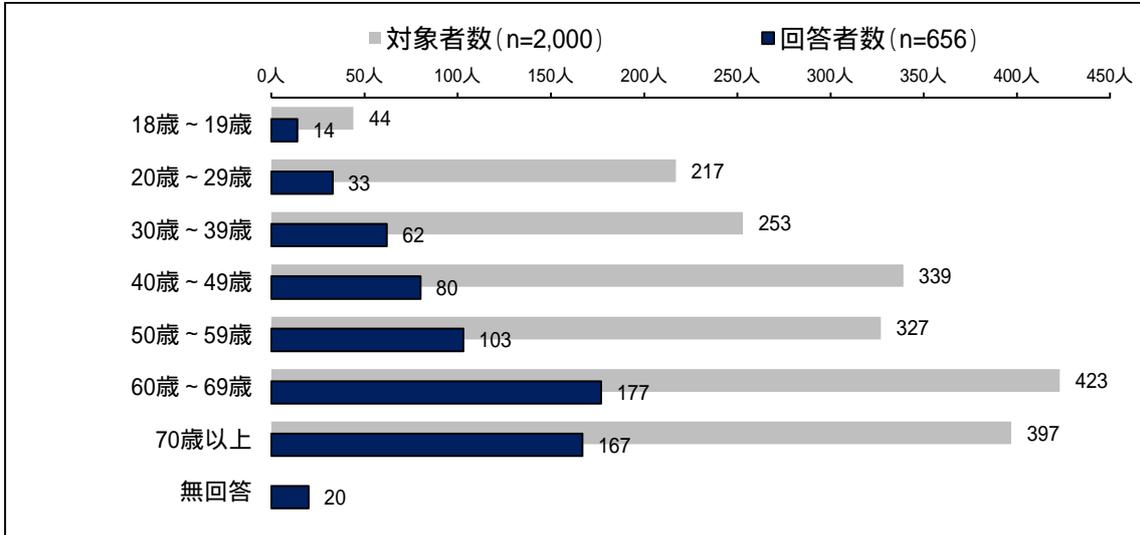
回答者の年齢は、「60歳～69歳」が27.0%で最も多く、次いで「70歳以上」(25.5%)、「50歳～59歳」(15.7%)、「40歳～49歳」(12.2%)、「30歳～39歳」(9.5%)、「20歳～29歳」(5.0%)、「18歳～19歳」(2.1%)の順となっています。



調査票は神川町在住の満18歳以上の町民から無作為抽出で選出し、2,000人の対象者に発送されており、それに対する回答者数は656人となっています。

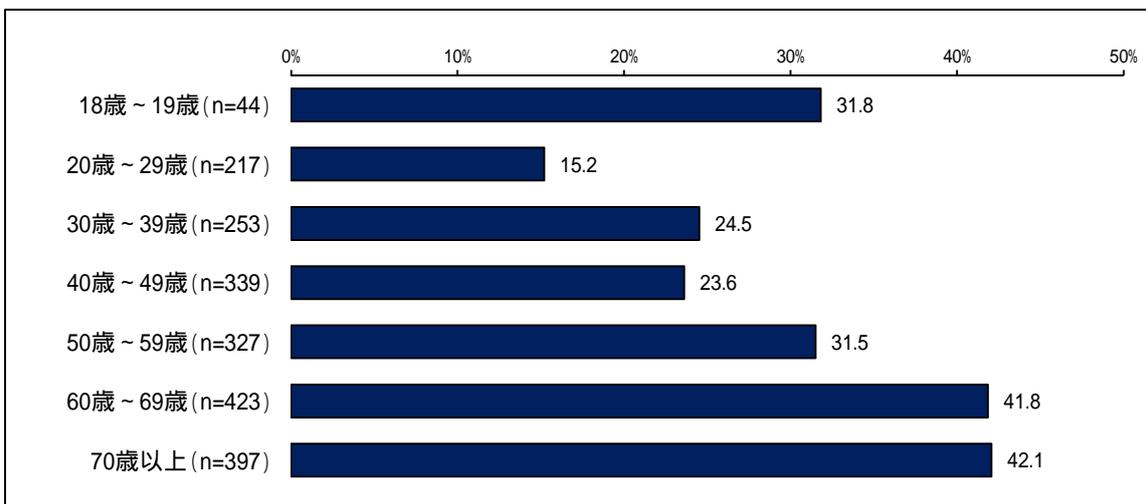
対象者数と回答者数を年齢別にみると、対象者数及び回答者数が最も少ないのは「18歳～19歳」で、対象者数44人に対して回答者数は14人となっています。

年齢 / 対象者数と回答者数の比較



対象者数に対する回答者数の割合を年齢別にみると、「70歳以上」が42.1%で最も多く、次いで「60歳～69歳」(41.8%)、「18歳～19歳」(31.8%)、「50歳～59歳」(31.5%)、「30歳～39歳」(24.5%)、「40歳～49歳」(23.6%)、「20歳～29歳」(15.2%)の順となっており、回答率が最も低いのは「20歳～29歳」の15.2%となっています。

年齢 / 対象者数に対する回答者数の割合



n = 対象者数

年齢別回答者数を居住地区別で見ると、渡瀬小学校区では「70歳以上」(22人)と回答した人数が最も多く、他の年齢層では「60歳~69歳」が最も多くなっています。

年齢 / 全体、居住地区別の回答者数

(単位:人)

		n	18歳 ~ 19歳	20歳 ~ 29歳	30歳 ~ 39歳	40歳 ~ 49歳	50歳 ~ 59歳	60歳 ~ 69歳	70歳以上	無回答
全体		656	14	33	62	80	103	177	167	20
居住地区	丹荘小学校区	329	9	20	40	37	57	83	78	5
	青柳小学校区	195	3	7	17	24	29	65	47	3
	渡瀬小学校区	61	1	4	4	8	7	14	22	1
	神泉小学校区	46	1	2	1	9	8	15	10	0

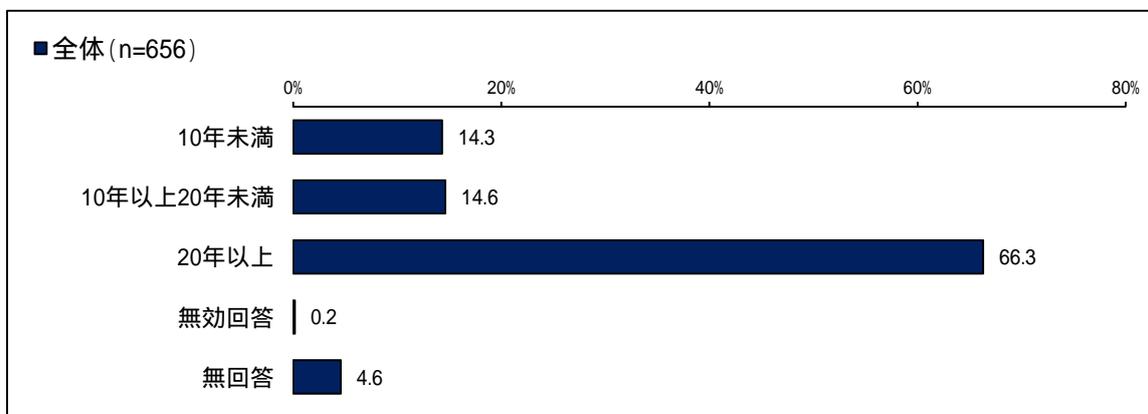
網がけは最も多い項目



(3) 居住年数

回答者の居住年数は、「20年以上」が66.3%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」(14.6%)、「10年未満」(14.3%)の順となっています。

居住年数 / 全体



年齢別で見ると、30歳～39歳では「10年未満」(53.2%)が半数以上を占めます。

居住地区別で見ると、丹荘小学校区では「20年以上」(62.3%)が他の地区に比べて比較的少なくなっています。

居住年数 / 全体、年齢別、居住地区別

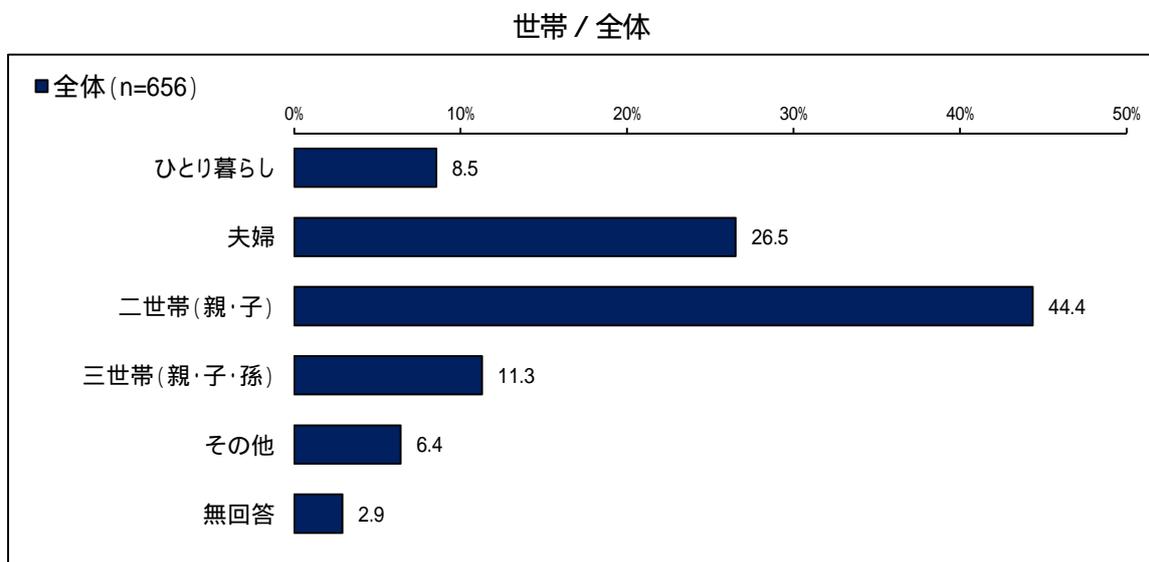
(単位: %)

		n	10年未満	10年以上20年未満	20年以上	無効回答	無回答
全体		656	14.3	14.6	66.3	0.2	4.6
年齢別	18歳～19歳	14	0.0	85.7	0.0	7.1	7.1
	20歳～29歳	33	33.3	15.2	51.5	0.0	0.0
	30歳～39歳	62	53.2	11.3	35.5	0.0	0.0
	40歳～49歳	80	23.8	33.8	41.3	0.0	1.3
	50歳～59歳	103	6.8	18.4	73.8	0.0	1.0
	60歳～69歳	177	7.9	8.5	80.8	0.0	2.8
	70歳以上	167	4.2	6.6	83.8	0.0	5.4
居住地区別	丹荘小学校区	329	18.2	16.4	62.3	0.0	3.0
	青柳小学校区	195	9.2	13.8	74.4	0.5	2.1
	渡瀬小学校区	61	13.1	14.8	70.5	0.0	1.6
	神泉小学校区	46	15.2	10.9	69.6	0.0	4.3

網かけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(4) 世帯

回答者の世帯は、「二世帯（親・子）」が44.4%で最も多く、次いで「夫婦」（26.5%）、「三世帯（親・子・孫）」（11.3%）、「ひとり暮らし」（8.5%）、「その他」（6.4%）の順となっています。



年齢別でみると、70歳以上では「夫婦」（43.7%）が最も多くなっています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では「夫婦」（45.7%）が最も多くなっています。

世帯 / 全体、年齢別、居住地区別

(単位: %)

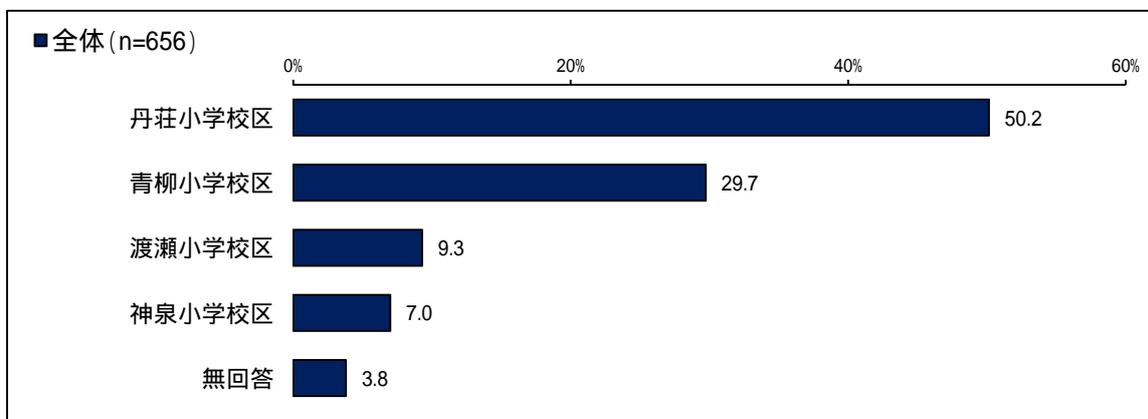
		n	ひとり暮らし	夫婦	二世帯(親・子)	三世帯(親・子・孫)	その他	無回答
全体		656	8.5	26.5	44.4	11.3	6.4	2.9
年齢別	18歳～19歳	14	0.0	0.0	64.3	28.6	7.1	0.0
	20歳～29歳	33	3.0	6.1	69.7	15.2	6.1	0.0
	30歳～39歳	62	0.0	4.8	77.4	12.9	4.8	0.0
	40歳～49歳	80	5.0	13.8	63.8	12.5	5.0	0.0
	50歳～59歳	103	10.7	16.5	52.4	11.7	5.8	2.9
	60歳～69歳	177	7.9	36.2	37.3	10.7	6.8	1.1
	70歳以上	167	15.6	43.7	22.2	9.6	7.8	1.2
居住地区別	丹荘小学校区	329	6.1	27.7	45.0	13.1	7.3	0.9
	青柳小学校区	195	10.3	23.1	47.2	13.3	5.6	0.5
	渡瀬小学校区	61	13.1	23.0	47.5	6.6	6.6	3.3
	神泉小学校区	46	6.5	45.7	41.3	2.2	4.3	0.0

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(5) 居住地区

回答者の居住地区は、「丹荘小学校区」が50.2%で最も多く、次いで「青柳小学校区」(29.7%)、「渡瀬小学校区」(9.3%)、「神泉小学校区」(7.0%)の順となっています。

居住地区 / 全体



年齢別でみると、18歳～19歳・20歳～29歳・30歳～39歳では「丹荘小学校区」が6割以上を占めます。60歳～69歳では「青柳小学校区」(36.7%)が他の年齢層に比べて比較的多くなっています。

居住地区 / 全体 年齢別

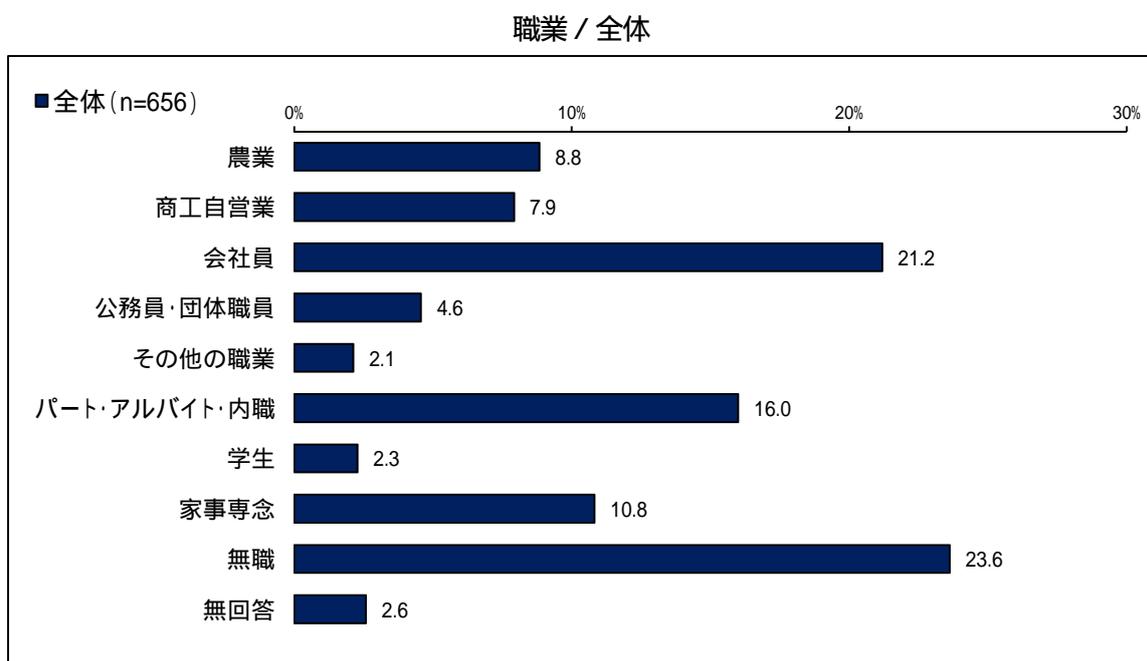
(単位: %)

		n	丹荘小学校区	青柳小学校区	渡瀬小学校区	神泉小学校区	無回答
全体		656	50.2	29.7	9.3	7.0	3.8
年齢別	18歳～19歳	14	64.3	21.4	7.1	7.1	0.0
	20歳～29歳	33	60.6	21.2	12.1	6.1	0.0
	30歳～39歳	62	64.5	27.4	6.5	1.6	0.0
	40歳～49歳	80	46.3	30.0	10.0	11.3	2.5
	50歳～59歳	103	55.3	28.2	6.8	7.8	1.9
	60歳～69歳	177	46.9	36.7	7.9	8.5	0.0
	70歳以上	167	46.7	28.1	13.2	6.0	6.0

網かけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(6) 職業

回答者の職業は、「無職」が23.6%で最も多く、次いで「会社員」(21.2%)、「パート・アルバイト・内職」(16.0%)、「家事専念」(10.8%)等の順となっています。



性別で見ると、男性では「会社員」(33.6%)、女性では「パート・アルバイト・内職」(27.2%)が最も多くなっています。

年齢別・居住地区別で見ると、60歳～69歳・70歳以上では「無職」(27.7%・58.1%)、丹荘小学校区では「会社員」(23.7%)が最も多くなっています。

職業 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

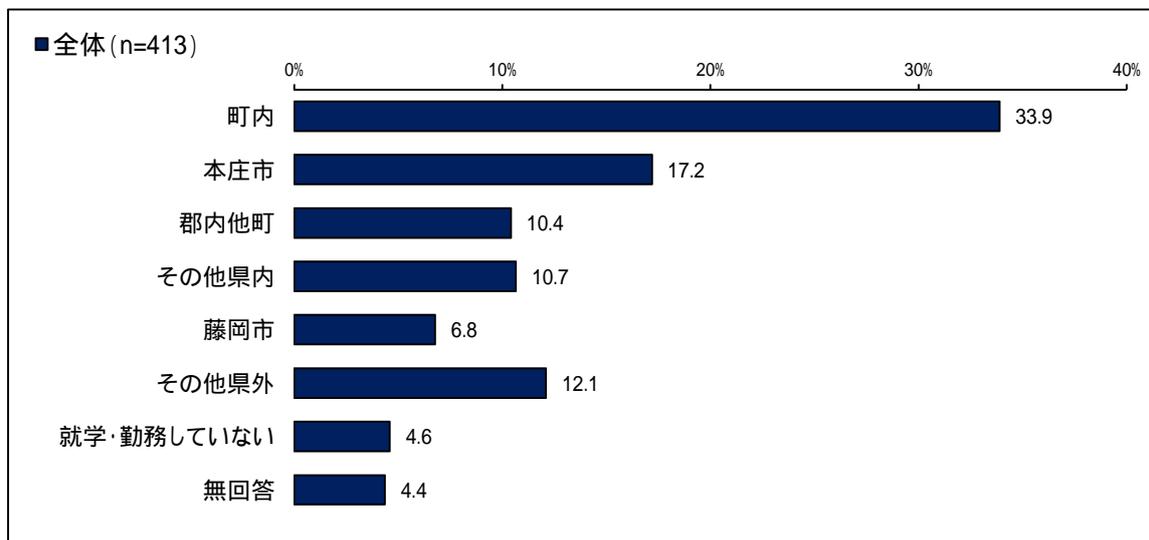
		n	農業	商工自営業	会社員	公務員・ 団体職員	その他の職業	パート・ アルバイト・ 内職	学生	家事専念	無職	無回答
全体		656	8.8	7.9	21.2	4.6	2.1	16.0	2.3	10.8	23.6	2.6
性別	男性	259	11.6	10.8	33.6	5.8	3.5	6.6	2.7	0.4	24.7	0.4
	女性	276	5.8	5.4	12.0	4.0	1.1	27.2	2.9	19.6	20.7	1.4
年齢別	18歳～19歳	14	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	85.7	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	0.0	0.0	42.4	21.2	0.0	18.2	9.1	3.0	3.0	3.0
	30歳～39歳	62	1.6	3.2	48.4	6.5	6.5	25.8	0.0	8.1	0.0	0.0
	40歳～49歳	80	0.0	11.3	45.0	6.3	1.3	25.0	0.0	6.3	5.0	0.0
	50歳～59歳	103	4.9	9.7	35.9	10.7	1.9	24.3	0.0	6.8	2.9	2.9
	60歳～69歳	177	13.6	10.2	9.6	1.1	2.8	19.2	0.0	15.3	27.7	0.6
	70歳以上	167	16.2	7.2	0.6	0.0	1.2	1.8	0.0	14.4	58.1	0.6
居住地区別	丹荘小学校区	329	9.4	8.2	23.7	4.9	1.5	17.6	3.0	10.0	20.7	0.9
	青柳小学校区	195	12.3	8.2	19.5	4.6	2.1	14.9	1.5	11.3	24.6	1.0
	渡瀬小学校区	61	1.6	8.2	19.7	4.9	3.3	14.8	1.6	16.4	29.5	0.0
	神泉小学校区	46	2.2	8.7	21.7	4.3	2.2	17.4	2.2	8.7	32.6	0.0

網かけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(7) 就学先・勤務先

回答者の就学先・勤務先は、「町内」が33.9%で最も多く、次いで「本庄市」(17.2%)、「その他県外」(12.1%)、「郡内他町」(10.4%)、「その他県内」(10.7%)、「藤岡市」(6.8%)等の順となっています。

就学先・勤務先 / 全体



性別でみると、男性は「町内」以外では「その他県内」「その他県外」(同率15.0%)、女性は「本庄市」(22.4%)等が比較的多くなっています。

年齢別でみると、「町内」は年齢層が上がるにつれて増加する傾向がみられます。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区・神泉小学校区では「町内」(54.5%・48.1%)が他の地区に比べて多くなっています。

就学先・勤務先 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

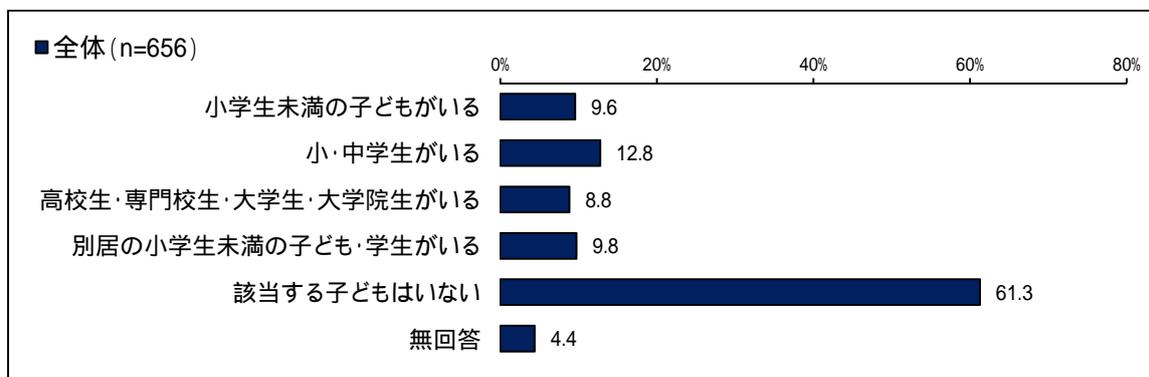
		n	町内	本庄市	郡内他町	その他県内	藤岡市	その他県外	就学・勤務していない	無回答
全体		413	33.9	17.2	10.4	10.7	6.8	12.1	4.6	4.4
性別	男性	193	37.3	13.0	6.2	15.0	5.2	15.0	4.1	4.1
	女性	161	32.3	22.4	13.7	6.2	9.3	9.3	4.3	2.5
年齢別	18歳~19歳	14	0.0	14.3	7.1	21.4	7.1	50.0	0.0	0.0
	20歳~29歳	30	13.3	23.3	10.0	20.0	3.3	30.0	0.0	0.0
	30歳~39歳	57	24.6	22.8	14.0	12.3	10.5	15.8	0.0	0.0
	40歳~49歳	71	36.6	22.5	8.5	15.5	4.2	12.7	0.0	0.0
	50歳~59歳	90	37.8	15.6	13.3	12.2	7.8	11.1	0.0	2.2
	60歳~69歳	100	40.0	15.0	13.0	5.0	9.0	4.0	9.0	5.0
	70歳以上	45	44.4	4.4	0.0	2.2	0.0	4.4	22.2	22.2
居住地区別	丹荘小学校区	225	29.8	19.1	12.4	12.4	5.8	13.3	4.0	3.1
	青柳小学校区	123	32.5	17.1	7.3	10.6	6.5	12.2	5.7	8.1
	渡瀬小学校区	33	54.5	6.1	6.1	9.1	15.2	9.1	0.0	0.0
	神泉小学校区	27	48.1	14.8	11.1	0.0	7.4	7.4	11.1	0.0

網がけは最も高い項目 18歳~19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(8) 家族構成

回答者の家族構成は、「小・中学生がいる」が12.8%で最も多く、次いで「別居の小学生未満の子ども・学生がいる」(9.8%)、「小学生未満の子どもがいる」(9.6%)、「高校生・専門校生・大学生・大学院生がいる」(8.8%)の順となっています。なお、「該当する子どもはいない」は61.3%となっています。

家族構成 / 全体



性別でみると、男性は「別居の小学生未満の子ども・学生がいる」(13.1%)が女性(7.2%)を5.9ポイント上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では「小学生未満の子どもがいる」(50.0%)、40歳～49歳では「小・中学生がいる」(46.3%)、それ以外の年齢層では「該当する子どもはいない」が最も多くなっています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区では「小学生未満の子どもがいる」(13.4%)、神泉小学校区では「別居の小学生未満の子ども・学生がいる」(19.6%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

家族構成 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

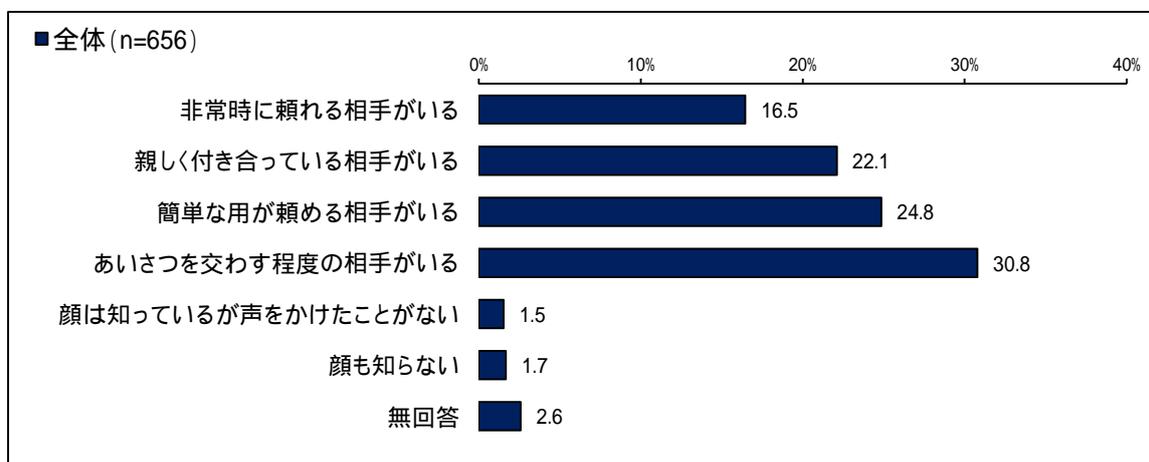
	n	小学生未満の子どもがいる	小・中学生がいる	高校生・専門校生・大学生・大学院生がいる	別居の小学生未満の子ども・学生がいる	該当する子どもはいない	無回答	
全体	656	9.6	12.8	8.8	9.8	61.3	4.4	
性別	男性	259	9.7	13.1	9.3	13.1	59.8	1.9
	女性	276	10.5	14.5	10.9	7.2	61.2	3.6
年齢別	18歳～19歳	14	0.0	0.0	35.7	7.1	64.3	0.0
	20歳～29歳	33	24.2	9.1	3.0	6.1	63.6	0.0
	30歳～39歳	62	50.0	30.6	3.2	3.2	29.0	0.0
	40歳～49歳	80	11.3	46.3	20.0	5.0	35.0	1.3
	50歳～59歳	103	1.0	8.7	14.6	7.8	72.8	2.9
	60歳～69歳	177	5.6	4.0	5.6	10.7	75.1	1.7
	70歳以上	167	1.2	4.2	5.4	16.8	67.7	6.6
居住地区別	丹荘小学校区	329	13.4	14.9	9.1	8.2	59.0	3.3
	青柳小学校区	195	8.7	11.8	9.7	10.3	65.1	1.0
	渡瀬小学校区	61	1.6	11.5	9.8	11.5	68.9	3.3
	神泉小学校区	46	2.2	10.9	6.5	19.6	63.0	0.0

網かけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(9) 隣近所との関わり方

回答者の隣近所との関わり方は、「あいさつを交わす程度の相手がいる」が30.8%で最も多く、次いで「簡単な用が頼める相手がいる」(24.8%)、「親しく付き合っている相手がいる」(22.1%)、「非常に頼れる相手がいる」(16.5%)等の順となっています。

隣近所との関わり方 / 全体



年齢別で見ると、「親しく付き合っている相手がいる」はおおむね年齢層が上がるにつれて増加する傾向がみられます。一方、「あいさつを交わす程度の相手がいる」は年齢層が上がるにつれて減少する傾向がみられます。

居住地区別で見ると、渡瀬小学校区・神泉小学校区では「非常に頼れる相手がいる」(24.6%・28.3%)が他の地区に比べて多くなっています。

隣近所との関わり方 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	非常に頼れる相手がいる	親しく付き合っている相手がいる	簡単な用が頼める相手がいる	あいさつを交わす程度の相手がいる	顔は知っているが声をかけたことがない	顔も知らない	無回答
全体		656	16.5	22.1	24.8	30.8	1.5	1.7	2.6
年齢別	18歳～19歳	14	14.3	35.7	21.4	28.6	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	12.1	9.1	18.2	54.5	6.1	0.0	0.0
	30歳～39歳	62	17.7	6.5	21.0	46.8	3.2	4.8	0.0
	40歳～49歳	80	10.0	13.8	31.3	42.5	1.3	1.3	0.0
	50歳～59歳	103	9.7	17.5	34.0	35.9	1.0	1.0	1.0
	60歳～69歳	177	18.6	26.6	27.1	26.6	0.0	1.1	0.0
	70歳以上	167	22.8	33.5	19.2	18.0	1.2	2.4	3.0
居住地区別	丹荘小学校区	329	13.4	18.8	27.1	35.3	1.8	2.4	1.2
	青柳小学校区	195	16.4	25.1	25.1	31.3	0.5	0.5	1.0
	渡瀬小学校区	61	24.6	27.9	14.8	27.9	3.3	1.6	0.0
	神泉小学校区	46	28.3	32.6	23.9	13.0	0.0	2.2	0.0

網かけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

1 望ましい将来の姿

(1) 望ましい将来の姿

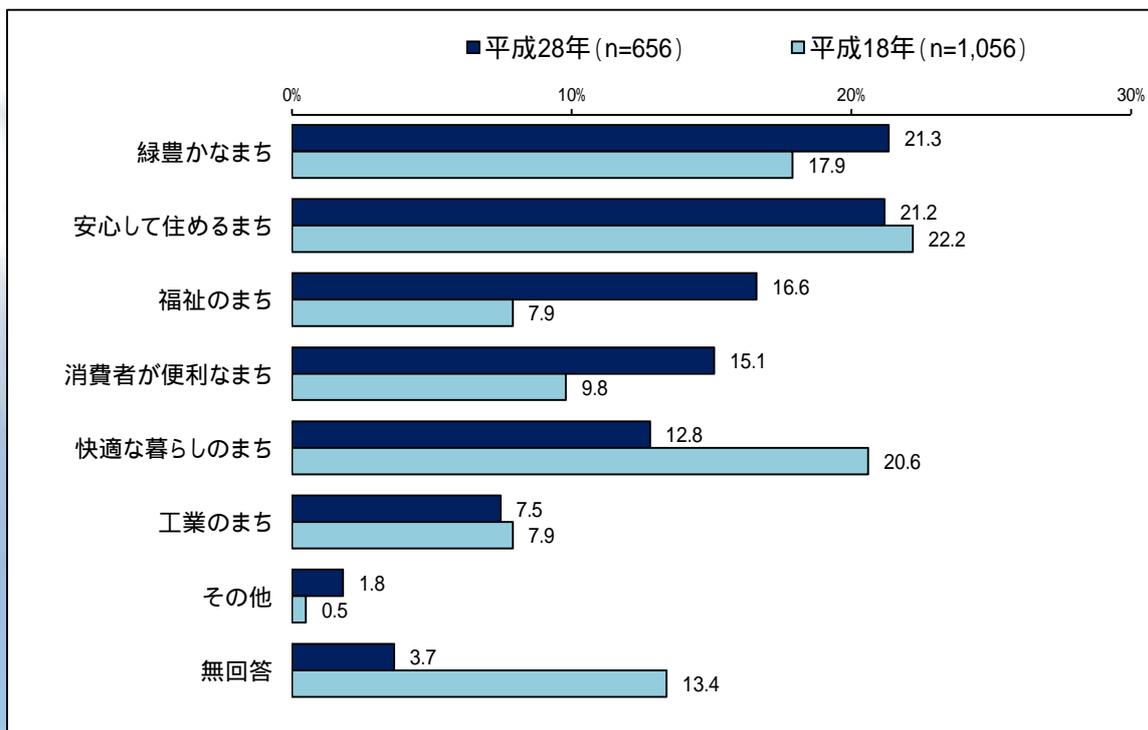
問29. 神川町の将来の姿としてどのような姿を望んでいますか。(最もイメージが近い1つに)

「緑豊かなまち」が最も多く、次いで「安心して住めるまち」が続き、以下「福祉のまち」等の順。

神川町の望ましい将来の姿について尋ねたところ、「緑豊かなまち」が21.3%で最も多く、次いで「安心して住めるまち」(21.2%)が続き、以下「福祉のまち」(16.6%)、「消費者が便利なまち」(15.1%)等の順となっています。

経年比較でみると、「福祉のまち」(16.6%)が平成18年(7.9%)に比べて8.7ポイント増加しています。一方、「快適な暮らしのまち」(12.8%)が平成18年(20.6%)に比べて7.8ポイント減少しています。

将来の姿 / 全体(経年比較)



性別で見ると、男性では「緑豊かなまち」(24.7%)が女性(18.5%)を6.2ポイント上回ります。

年齢別で見ると、20歳～29歳・30歳～39歳では「安心して住めるまち」(45.5%・50.0%)が他の年齢層に比べて多くなっています。

居住地区別で見ると、神泉小学校区では「緑豊かなまち」(34.8%)が他の地区に比べて多くなっています。

若年層は快適で安心して暮らせるまちを望む人が多く、高年層は緑豊かで福祉の充実したまちを望む人が多くなっています。

将来の姿 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	工業のまち	緑豊かなまち	消費者が便利なまち	快適な暮らしのまち	安心して住めるまち	福祉のまち	その他	無回答
全体		656	7.5	21.3	15.1	12.8	21.2	16.6	1.8	3.7
性別	男性	259	8.5	24.7	13.5	12.4	21.6	13.5	1.5	4.2
	女性	276	6.9	18.5	15.6	14.9	21.4	17.8	2.5	2.5
年齢別	18歳～19歳	14	7.1	21.4	14.3	21.4	21.4	14.3	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	3.0	21.2	15.2	9.1	45.5	6.1	0.0	0.0
	30歳～39歳	62	4.8	19.4	16.1	8.1	50.0	0.0	1.6	0.0
	40歳～49歳	80	2.5	23.8	22.5	16.3	18.8	10.0	5.0	1.3
	50歳～59歳	103	7.8	29.1	11.7	14.6	18.4	15.5	1.9	1.0
	60歳～69歳	177	7.9	19.8	18.6	10.7	15.8	20.3	2.3	4.5
	70歳以上	167	12.0	18.0	10.2	15.0	13.8	23.4	0.6	7.2
居住地区別	丹荘小学校区	329	7.6	18.2	18.8	14.9	20.4	14.9	1.5	3.6
	青柳小学校区	195	6.2	24.1	10.8	14.4	21.5	17.9	2.6	2.6
	渡瀬小学校区	61	11.5	21.3	14.8	6.6	23.0	19.7	1.6	1.6
	神泉小学校区	46	10.9	34.8	6.5	4.3	26.1	10.9	2.2	4.3

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

2 住みよさと定住意向

(1) 神川町の住みよさ

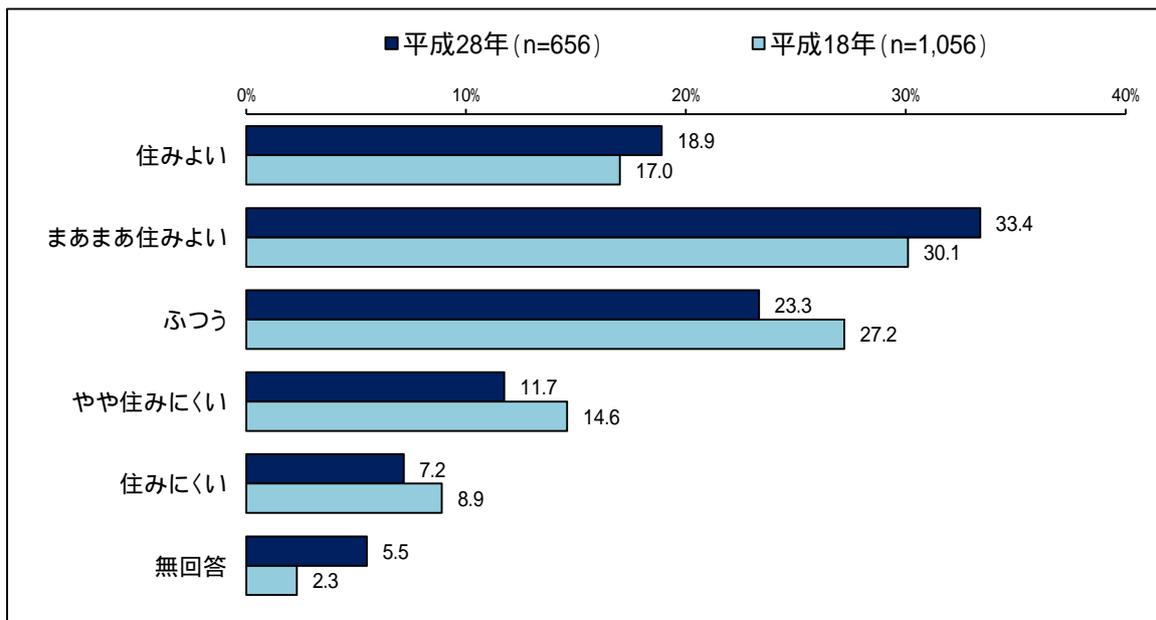
問26. 神川町は住みよいと思いますか。(1つに)

『住みよい』は52.3%。一方、『住みにくい』は18.9%にとどまる。

神川町の住みよさについて尋ねたところ、「まあまあ住みよい」が33.4%で最も多く、これに「住みよい」(18.9%)を合わせた『住みよい』は52.3%となっています。一方、『住みにくい』(「やや住みにくい」11.7%及び「住みにくい」7.2%の合計)は18.9%となっています。なお、「ふつう」は23.3%でした。

経年比較で『住みよい』をみると、平成28年(52.3%)は平成18年(47.1%)に比べて5.2ポイント増加しており、平成18年に比べると住みよいまちになっているといえます。

神川町の住みよさ / 全体(経年比較)



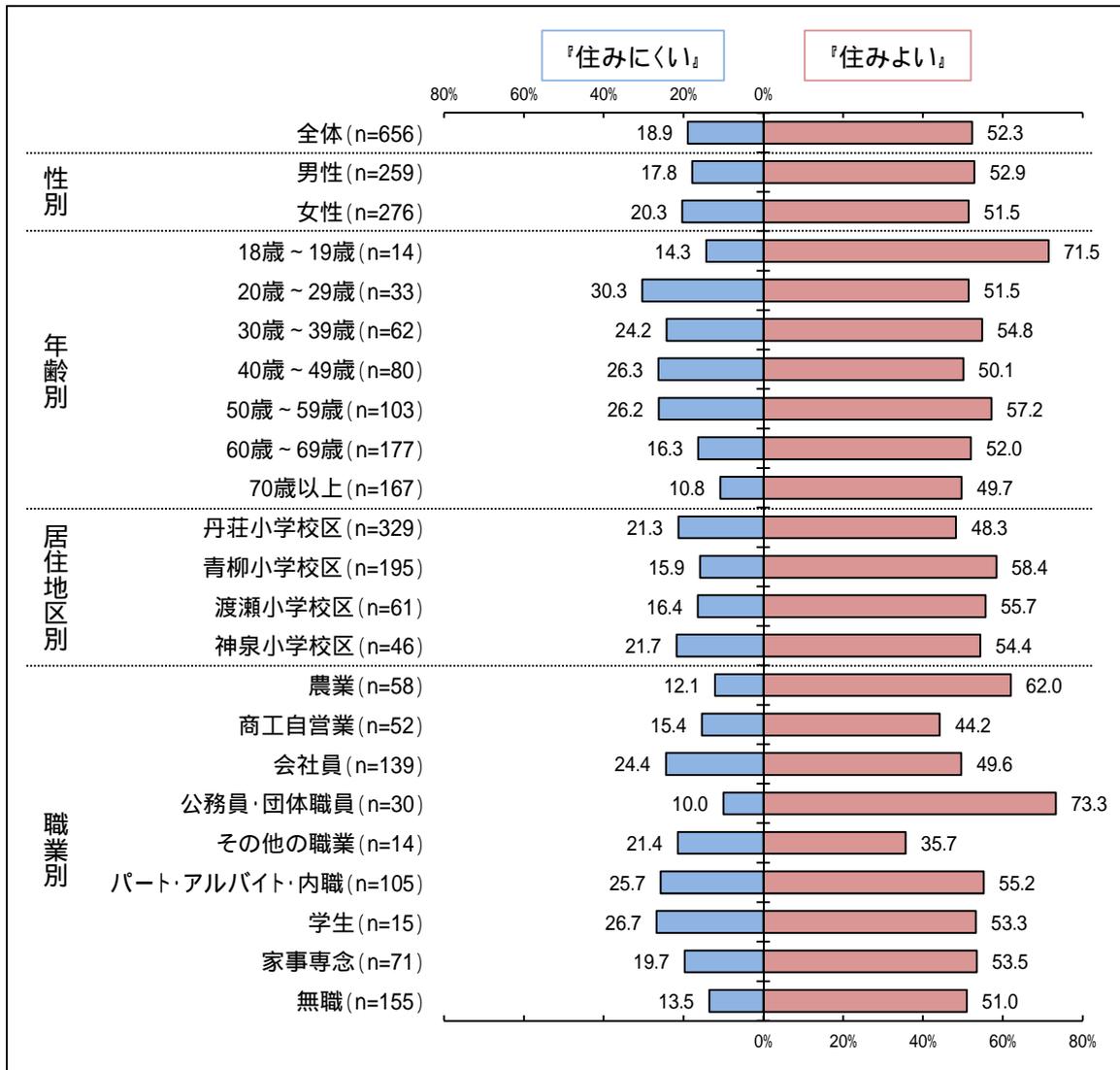
性別で『住みよい』『住みにくい』をみると、全体と同様の傾向となっており、あまり差はみられません。

年齢別で『住みにくい』をみると、おおむね年齢層が高くなるにつれて低くなる傾向がみられます。

居住地区別で『住みよい』をみると、丹荘小学校区（48.3%）が他の地区に比べて比較的低くなっています。

職業別で『住みよい』をみると、公務員・団体職員（73.3%）、農業（62.0%）が他の職業に比べて比較的高くなっています。

神川町の住みよさ / 全体、性別、年齢別、居住地区別、職業別
 (『住みよい』と『住みにくい』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(2) 住みにくいと感じる理由

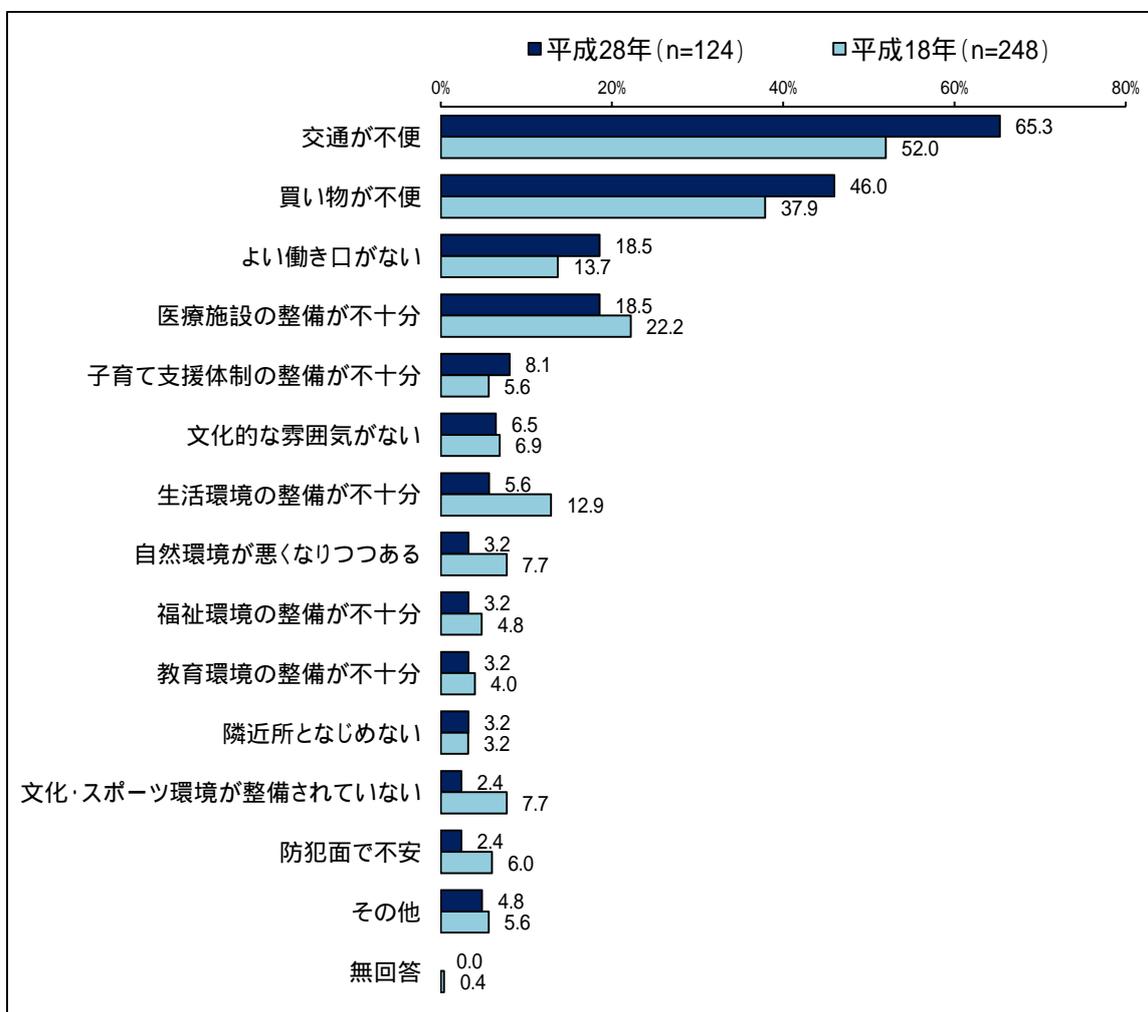
問27. 住みにくいと感じることがあればその理由は何ですか。(2つまでに)

「交通が不便」「買い物が不便」が二大理由。

問26で『住みにくい』と回答した人(18.9%・124人)に、住みにくい理由を尋ねたところ、「交通が不便」が65.3%で第1位に挙げられ、次いで「買い物が不便」(46.0%)が続き、これらが他を引き離して二大理由となっています。

経年比較で上位2項目をみると、平成18年に比べて増加しており、交通や買い物等、基本的な生活環境の向上が望まれます。

住みにくいと感じる理由/全体(経年比較)



性別で上位2項目をみると、どちらの割合も女性が男性を上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では「子育て支援体制の整備が不十分」(40.0%)が第2位に挙げられています。

世帯別でみると、三世帯(親・子・孫)では「医療施設の整備が不十分」(30.8%)が「買い物が不便」(30.8%)と同率で上位に挙げられています。

居住地区別で上位2項目をみると、丹荘小学校区では「交通が不便」(58.6%)が他の地区に比べて少なくなっています。

住みにくいと感じる理由/全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位:%)

		n	自然環境が 悪くなりつつある	交通が不便	買い物が不便	よい働き口がない	生活環境の整備が 不十分	医療施設の整備が 不十分	福祉環境の整備が 不十分	教育環境の整備が 不十分
全体		124	3.2	65.3	46.0	18.5	5.6	18.5	3.2	3.2
性別	男性	46	4.3	50.0	34.8	15.2	8.7	17.4	6.5	6.5
	女性	56	3.6	73.2	51.8	19.6	5.4	16.1	1.8	0.0
年齢別	18歳～19歳	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	10	0.0	80.0	80.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳～39歳	15	0.0	46.7	26.7	13.3	0.0	26.7	6.7	6.7
	40歳～49歳	21	0.0	76.2	52.4	19.0	4.8	19.0	0.0	4.8
	50歳～59歳	27	3.7	51.9	40.7	18.5	3.7	22.2	7.4	0.0
	60歳～69歳	29	10.3	62.1	41.4	20.7	13.8	13.8	3.4	3.4
	70歳以上	18	0.0	77.8	55.6	11.1	5.6	27.8	0.0	5.6
世帯別	ひとり暮らし	11	0.0	72.7	72.7	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0
	夫婦	24	0.0	70.8	58.3	16.7	4.2	8.3	0.0	0.0
	二世帯(親・子)	68	4.4	66.2	44.1	19.1	7.4	19.1	5.9	5.9
	三世帯(親・子・孫)	13	0.0	53.8	30.8	15.4	0.0	30.8	0.0	0.0
	その他	6	16.7	50.0	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0
居住地区別	丹荘小学校区	70	2.9	58.6	42.9	15.7	5.7	22.9	4.3	2.9
	青柳小学校区	31	6.5	74.2	51.6	19.4	6.5	16.1	3.2	3.2
	渡瀬小学校区	10	0.0	80.0	60.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	神泉小学校区	10	0.0	70.0	40.0	30.0	10.0	10.0	0.0	10.0

網がけは最も高い項目 全体的に回答者数が少ないため、有意性は低い

住みにくいと感ずる理由 / 全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位: %)

		n	文化・スポーツ 環境が整備 されていない	子育て支援体制 の整備が十分	防犯面で不安	隣近所と なじめない	文化的な 雰囲気がない	その他	無回答
全体		124	2.4	8.1	2.4	3.2	6.5	4.8	0.0
性別	男性	46	2.2	15.2	2.2	4.3	6.5	13.0	0.0
	女性	56	1.8	5.4	3.6	3.6	7.1	0.0	0.0
年齢別	18歳～19歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳～39歳	15	6.7	40.0	0.0	6.7	0.0	13.3	0.0
	40歳～49歳	21	0.0	4.8	0.0	4.8	4.8	4.8	0.0
	50歳～59歳	27	3.7	11.1	7.4	3.7	0.0	11.1	0.0
	60歳～69歳	29	0.0	0.0	3.4	3.4	13.8	0.0	0.0
	70歳以上	18	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
世帯別	ひとり暮らし	11	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0
	夫婦	24	0.0	0.0	0.0	8.3	25.0	0.0	0.0
	二世帯(親・子)	68	1.5	10.3	2.9	1.5	1.5	4.4	0.0
	三世帯(親・子・孫)	13	7.7	23.1	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0
	その他	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居住地区別	丹荘小学校区	70	2.9	10.0	2.9	4.3	10.0	4.3	0.0
	青柳小学校区	31	0.0	6.5	3.2	0.0	3.2	0.0	0.0
	渡瀬小学校区	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	神泉小学校区	10	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0

全体的に回答者数が少ないため、有意性は低い



(3) 住み続けたいか

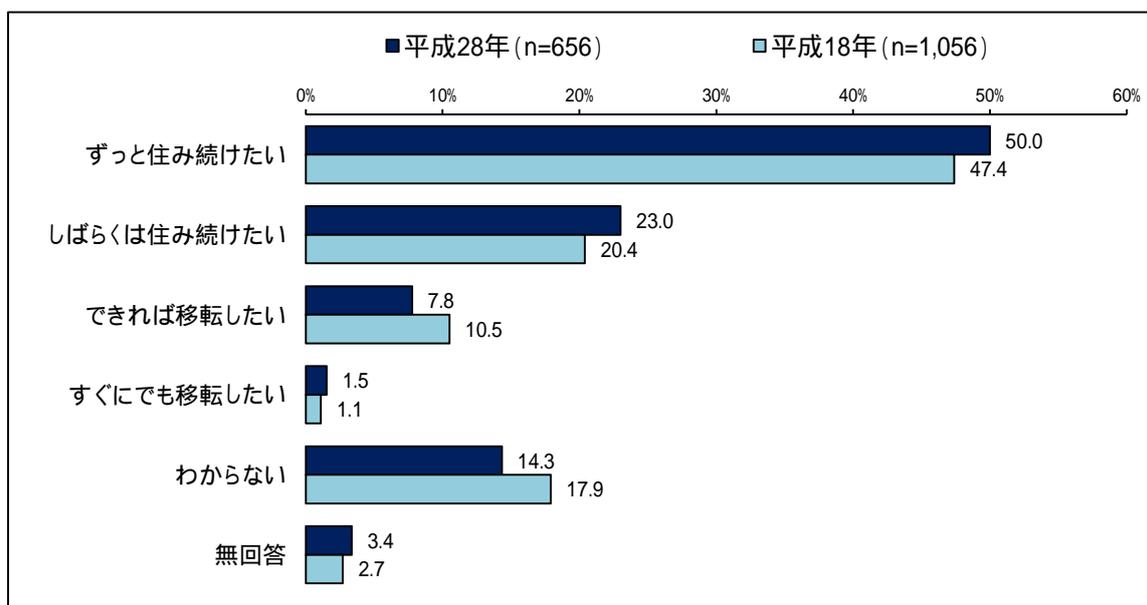
問28. 今後も神川町に住み続けたいと思いますか。(1つに)

『住み続けたい』が73.0%。一方、『移転したい』は9.3%にとどまる。

今後も神川町に住み続けたいか尋ねたところ、「ずっと住み続けたい」が50.0%で最も多く、次いで「しばらくは住み続けたい」(23.0%)が続き、これらを合わせた『住み続けたい』は73.0%となっており、7割以上の方が住み続けたいと思えるまちという結果になっています。一方、『移転したい』(「できれば移転したい」7.8%及び「すぐにでも移転したい」1.5%の合計)は9.3%にとどまります。なお、「わからない」は14.3%でした。

経年比較で『住み続けたい』をみると、平成28年(73.0%)は平成18年(67.8%)に比べて5.2ポイント増加しており、平成18年に比べると住み続けたいまちになっているといえます。

住み続けたいか / 全体(経年比較)



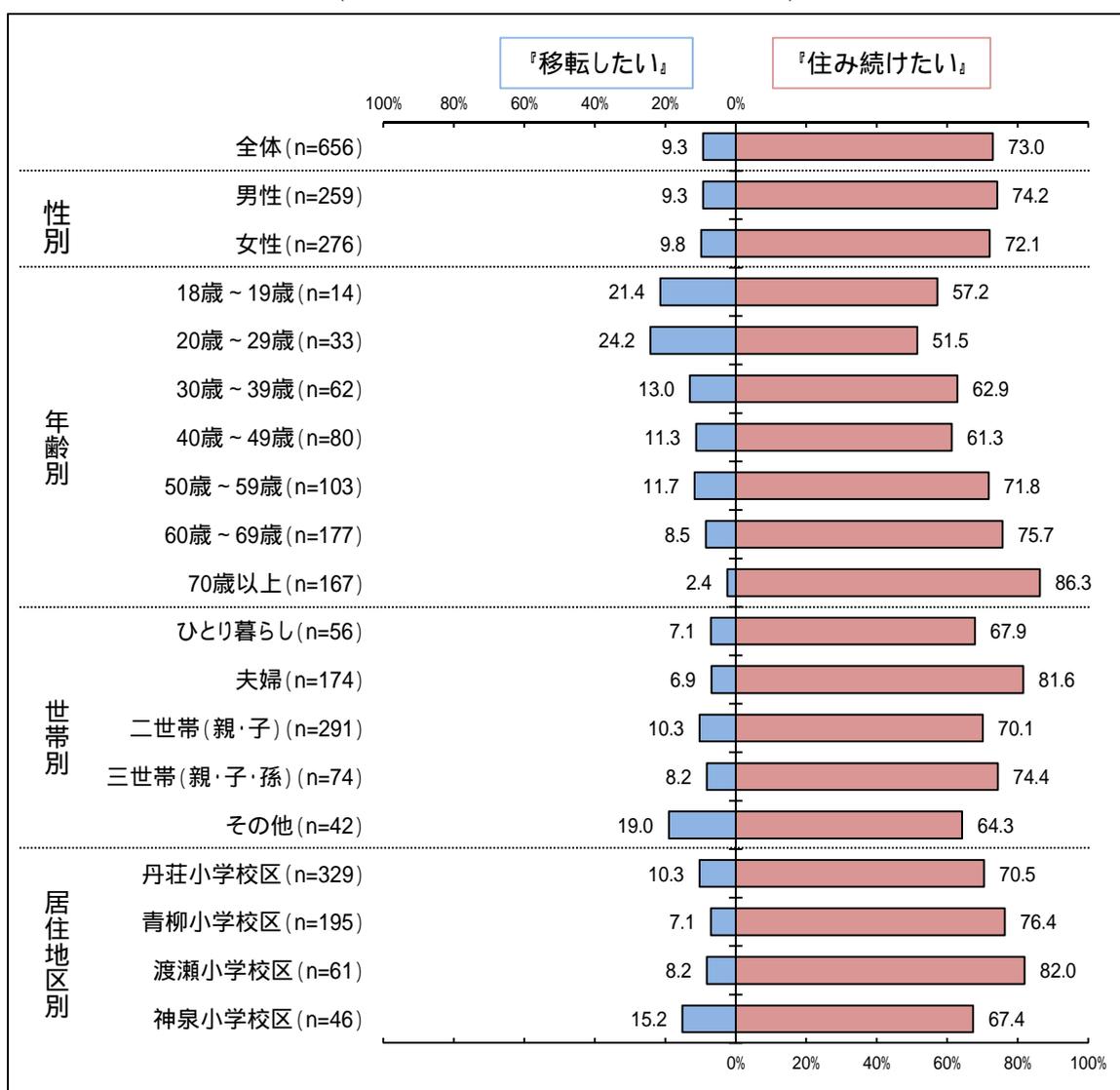
性別で『住み続けたい』『移転したい』をみると、全体と同様の傾向となっており、あまり差はみられません。

年齢別で『住み続けたい』をみると、おおむね年齢層が上がるにつれて増加する傾向がみられます。

世帯別で『住み続けたい』をみると、夫婦（81.6%）が他の世帯と比べて最も高くなっています。

居住地区別で『住み続けたい』をみると、渡瀬小学校区（82.0%）が他の地区に比べて最も高くなっています。

住み続けたいか / 全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別
 (『住み続けたい』と『移転したい』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

3 満足度と重要度

(1) 生活環境やまちづくりの現状についての満足度及び重要度

問7. 神川町の生活環境やまちづくりの現状について、満足度、重要度を分野ごとにお尋ねします。

満足度

『満足』の第1位は「ごみ収集・処理」、第2位は「保健」、第3位は「上水道」。

『不満』の第1位は「鉄道・バス」、第2位は「ごみの不法投棄」、第3位は「道路整備」。

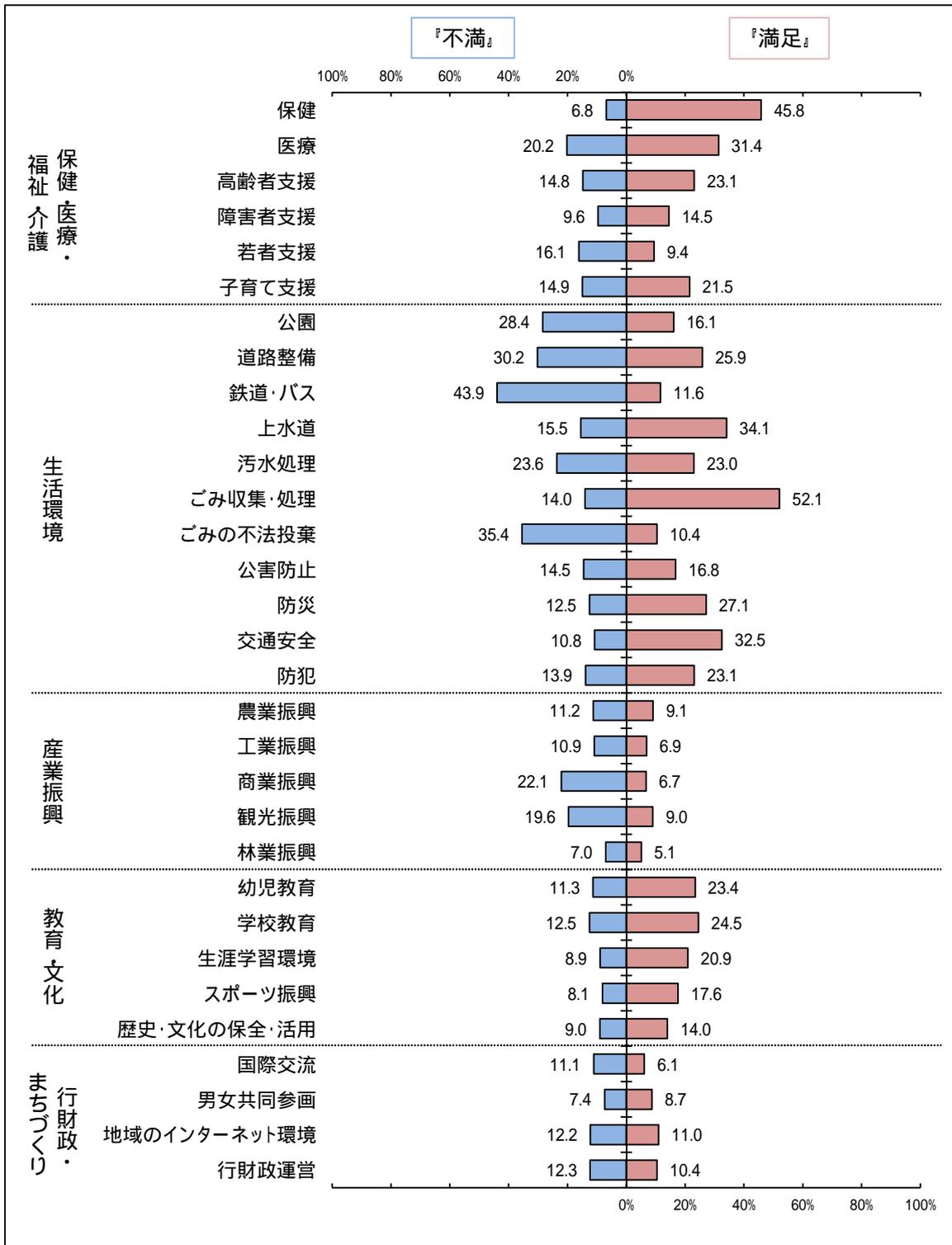
神川町の生活環境やまちづくりの現状について、満足度を尋ねた31の設問項目の傾向を、『満足』(「満足している」及び「やや満足している」の合計)、「どちらともいえない」、『不満』(「やや不満である」及び「不満である」の合計)の3区分にまとめ、その比率でみていくと、『満足』と回答した率は、「ごみ収集・処理」(52.1%)で最も高く、次いで「保健」(45.8%)が続き、以下「上水道」(34.1%)、「交通安全」(32.5%)、「医療」(31.4%)等の順となっています。

一方、『不満』と回答した率は、「鉄道・バス」(43.9%)で最も高く、次いで「ごみの不法投棄」(35.4%)が続き、以下「道路整備」(30.2%)、「公園」(28.4%)、「污水处理」(23.6%)等の順となっています。

生活環境の分野で『満足』『不満』が比較的高くなっており、これらは現状維持を図りつつ、今後より一層力を入れていく必要があります。



生活環境やまちづくりの現状についての満足度/全体(『満足』と『不満』の比較)



経年比較で『満足』の上位5項目の割合をみると、すべて平成18年に比べて増加しています。

『不満』では「鉄道・バス」(43.9%)、「ごみの不法投棄」(35.4%)、「道路整備」(30.2%)、「汚水処理」(23.6%)が平成18年に比べて減少しています。

生活環境やまちづくりの現状についての満足度 / 『満足』の上位5位(経年比較)

順位	平成28年	割合の変化	平成18年の割合	平成18年の順位
第1位	ごみ収集・処理 52.1%	→	43.3%	第1位
第2位	保健 45.8%	→	34.6%	第2位
第3位	上水道 34.1%	→	29.7%	第3位
第4位	交通安全 32.5%	→	26.5%	第5位
第5位	医療 31.4%	→	16.5%	第13位

生活環境やまちづくりの現状についての満足度 / 『不満』の上位5位(経年比較)

順位	平成28年	割合の変化	平成18年の割合	平成18年の順位
第1位	鉄道・バス 43.9%	→	53.0%	第1位
第2位	ごみの不法投棄 35.4%	→	45.6%	第2位
第3位	道路整備 30.2%	→	33.7%	第4位
第4位	公園 28.4%	→	28.4%	第6位
第5位	汚水処理 23.6%	→	32.9%	第5位

『満足』の上位項目を分野ごとに経年比較でみると、保健・医療・福祉・介護では「保健」(45.8%)、「医療」(31.4%)とともに平成18年に比べて増加しており、特に「医療」は平成18年(16.5%)の2倍近くになっています。

生活環境では「ごみ収集・処理」(52.1%)、「上水道」(34.1%)、「交通安全」(32.5%)の上位3項目すべてが平成18年に比べて増加しています。

産業振興では「農業振興」(9.1%)、「観光振興」(9.0%)とともに平成18年に比べて減少しています。

行財政・まちづくりでは「行財政運営」(10.4%)が平成18年(6.6%)に比べてやや増加していますが、「地域のインターネット環境」(11.0%)は平成18年(11.9%)に比べてわずかに減少しています。

『不満』をみると、保健・医療・福祉・介護では「医療」(20.2%)が平成18年(39.2%)に比べて19ポイントと大きく減少しています。

生活環境では「鉄道・バス」(43.9%)、「ごみの不法投棄」(35.4%)、「道路整備」(30.2%)の上位3項目すべてが平成18年に比べて減少しており、特に「ごみの不法投棄」(35.4%)は10.2ポイントと大きく減少しています。

産業振興では「商業振興」(22.1%)が平成18年(25.2%)に比べてやや減少しています。

教育・文化では「学校教育」(12.5%)、「幼児教育」(11.3%)とともに平成18年に比べて減少しています。

行財政・まちづくりでは「行財政運営」(12.3%)、「地域のインターネット環境」(12.2%)とともに平成18年に比べて減少しており、特に「行財政運営」(12.3%)は10.6ポイントと大きく減少しています。

生活環境やまちづくりの現状についての満足度 / 分野ごとの「満足」の上位(経年比較)

分野	平成 28 年	割合の 変化	平成 18 年の 割合	平成 18 年の 順位	
保健・医療・ 福祉・介護	保健	45.8%	→	34.6%	第1位
	医療	31.4%	→	16.5%	第3位
生活環境	ごみ収集・処理	52.1%	→	43.3%	第1位
	上水道	34.1%	→	29.7%	第2位
	交通安全	32.5%	→	26.5%	第4位
産業振興	農業振興	9.1%	→	11.5%	第1位
	観光振興	9.0%	→	7.9%	第2位
教育・文化	学校教育	24.5%	→	23.1%	第1位
	幼児教育	23.4%	→	22.7%	第2位
行財政・ まちづくり	地域のインターネット環境	11.0%	→	11.9%	第1位
	行財政運営	10.4%	→	6.6%	第2位

平成 18 年は「地域の情報化」

生活環境やまちづくりの現状についての満足度 / 分野ごとの「不満」の上位(経年比較)

分野	平成 28 年	割合の 変化	平成 18 年の 割合	平成 18 年の 順位	
保健・医療・ 福祉・介護	医療	20.2%	→	39.2%	第1位
	若者支援	16.1%	-	-	-
生活環境	鉄道・バス	43.9%	→	53.0%	第1位
	ごみの不法投棄	35.4%	→	45.6%	第2位
	道路整備	30.2%	→	33.7%	第3位
産業振興	商業振興	22.1%	→	25.2%	第1位
	観光振興	19.6%	→	19.2%	第2位
教育・文化	学校教育	12.5%	→	16.3%	第1位
	幼児教育	11.3%	→	14.3%	第2位
行財政・ まちづくり	行財政運営	12.3%	→	22.9%	第1位
	地域のインターネット環境	12.2%	→	18.0%	第2位

新設

重要度

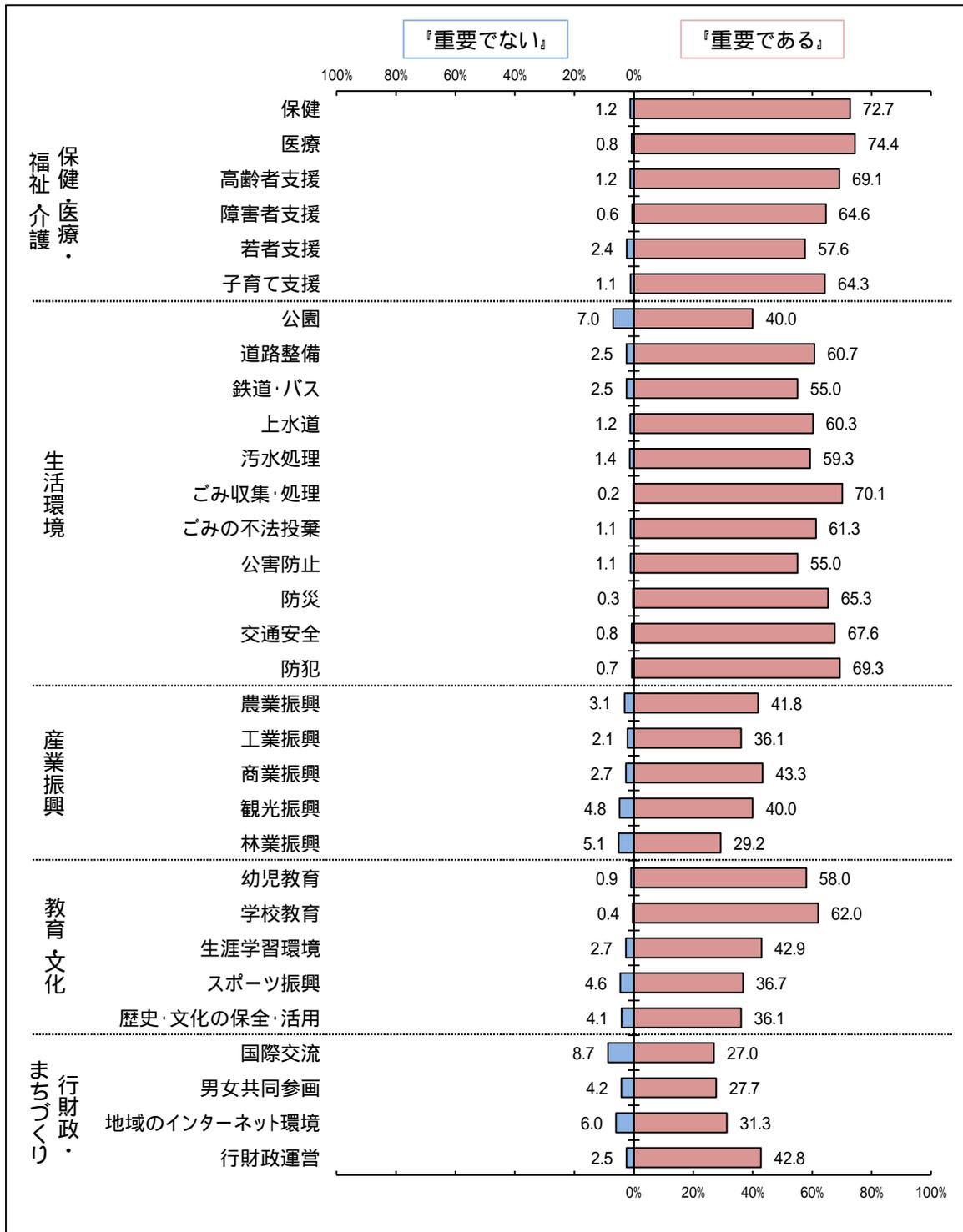
『重要である』の第1位は「医療」、次いで「保健」が続く。

神川町の生活環境やまちづくりの現状について、重要度を尋ねた31の設問項目の傾向を、『重要』（「重要である」及び「やや重要である」の合計）、「どちらともいえない」、「重要でない」（「あまり重要でない」及び「重要でない」の合計）の3区分にまとめ、その比率でみていくと、『重要である』と回答した率は、「医療」（74.4%）で最も高く、次いで「保健」（72.7%）が続き、以下「ごみ収集・処理」（70.1%）、「防犯」（69.3%）、「高齢者支援」（69.1%）等の順となっています。一方、『重要でない』と回答した率は、「国際交流」（8.7%）で最も高く、次いで「公園」（7.0%）が続き、以下「地域のインターネット環境」（6.0%）、「林業振興」（5.1%）、「観光振興」（4.8%）等の順となっています。

保健・医療・福祉・介護、生活環境の分野と、「幼児教育」「学校教育」で『重要である』が高くなっており、これらに今後より一層力を入れていく必要があります。



生活環境やまちづくりの現状についての重要度 / 全体



経年比較で上位5項目をみると、『重要である』では「保健」(72.7%)、「ごみ収集・処理」(70.1%)、「高齢者支援」(69.1%)が平成18年に比べて増加しています。

『重要でない』では「国際交流」(8.7%)、「地域のインターネット環境」(6.0%)が平成18年に比べて増加しています。

生活環境やまちづくりの現状についての重要度 / 『重要である』の上位5位(経年比較)

順位	平成28年		割合の変化	平成18年の割合	平成18年の順位
第1位	医療	74.4%		77.7%	第1位
第2位	保健	72.7%		71.7%	第2位
第3位	ごみ収集・処理	70.1%		68.8%	第4位
第4位	防犯	69.3%		71.3%	第3位
第5位	高齢者支援	69.1%		65.2%	第7位

生活環境やまちづくりの現状についての重要度 / 『重要でない』の上位5位(経年比較)

順位	平成28年		割合の変化	平成18年の割合	平成18年の順位
第1位	国際交流	8.7%		7.1%	第2位
第2位	公園	7.0%		11.0%	第1位
第3位	地域のインターネット環境	6.0%		3.0%	第10位
第4位	林業振興	5.1%		6.8%	第3位
第5位	観光振興	4.8%		6.1%	第4位

平成18年は「地域の情報化」

『満足』の上位項目を分野ごとに経年比較でみると、保健・医療・福祉・介護の分野では「保健」(72.7%)が平成18年(71.7%)に比べてやや増加しています。

生活環境の分野では「ごみ収集・処理」(70.1%)、「交通安全」(67.6%)が平成18年に比べてやや増加しています。

産業振興の分野では「商業振興」(43.3%)、「農業振興」(41.8%)ともに平成18年に比べてやや増加しています。

教育・文化の分野では「幼児教育」(58.0%)が平成18年(57.8%)に比べてわずかに増加しています。

行財政・まちづくりの分野では平成18年に比べて増加している上位項目はありません。

生活環境やまちづくりの現状についての重要度/分野ごとの**「重要である」**の上位(経年比較)

分野	平成28年		割合の変化	平成18年の割合	平成18年の順位
保健・医療・福祉・介護	医療	74.4%	→	77.7%	第1位
	保健	72.7%	→	71.7%	第2位
生活環境	ごみ収集・処理	70.1%	→	68.8%	第2位
	防犯	69.3%	→	71.3%	第1位
	交通安全	67.6%	→	65.3%	第4位
産業振興	商業振興	43.3%	→	41.5%	第1位
	農業振興	41.8%	→	40.1%	第2位
教育・文化	学校教育	62.0%	→	63.3%	第1位
	幼児教育	58.0%	→	57.8%	第2位
行財政・まちづくり	行財政運営	42.8%	→	50.8%	第1位
	地域のインターネット環境	31.3%	→	44.7%	第2位

平成18年は「地域の情報化」

(2) 満足度と重要度の相関関係

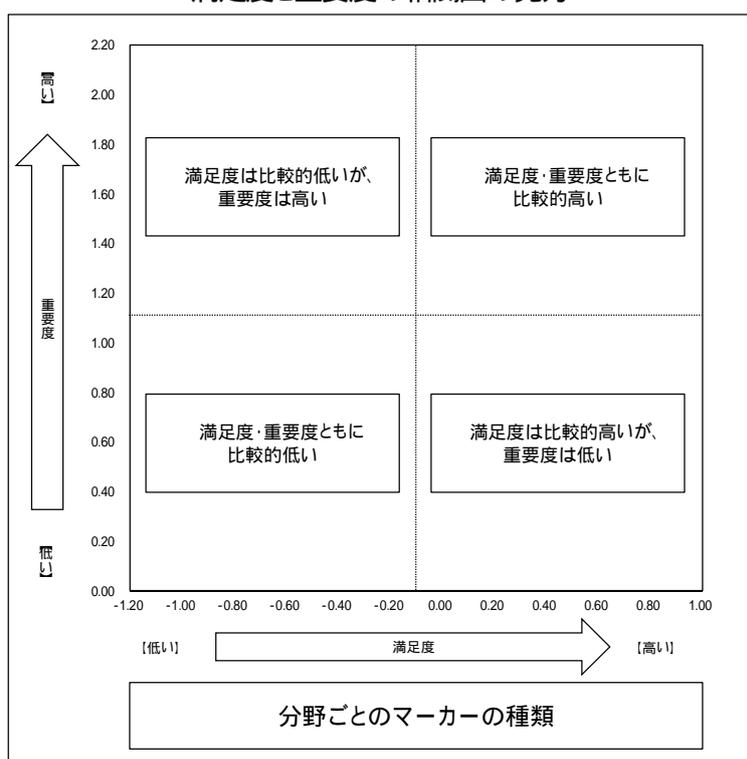
満足度と重要度の集計結果を点数化し、満足度・重要度それぞれについて、合計点数を対象サンプル数で除して平均値を算出しました。これらを相関図に示すことで、満足度と重要度の関係性を一目で見ることができます。

ヨコ方向が満足度、タテ方向が重要度とした相関図の中に、点数結果を落としてみると、次のように解釈することができます。

点数化のルール

満足度	重要度	点数
満足している	重要である	3点
やや満足している	やや重要である	1点
どちらともいえない	どちらともいえない	0点
やや不満である	あまり重要でない	-1点
不満である	重要でない	-3点
無回答	無回答	除外

満足度と重要度の相関図の見方



満足度・重要度ともに比較的高い

満足度が高いと同時に重要度も高く、現状維持を図るべき施策です。

満足度は比較的高いが、重要度は低い

満足度は比較的高く、重要度は低いことから、投資効果をあまり望むことができない施策です。

満足度は比較的低いが、重要度は高い

満足度が比較的低く、重要度が高いことから、重点化が望まれる施策です。

満足度・重要度ともに比較的低い

満足度は比較的低くなっていますが、重要度も低いいため、満足度を上げるための対策は必ずしも緊急ではない可能性があります。

全体

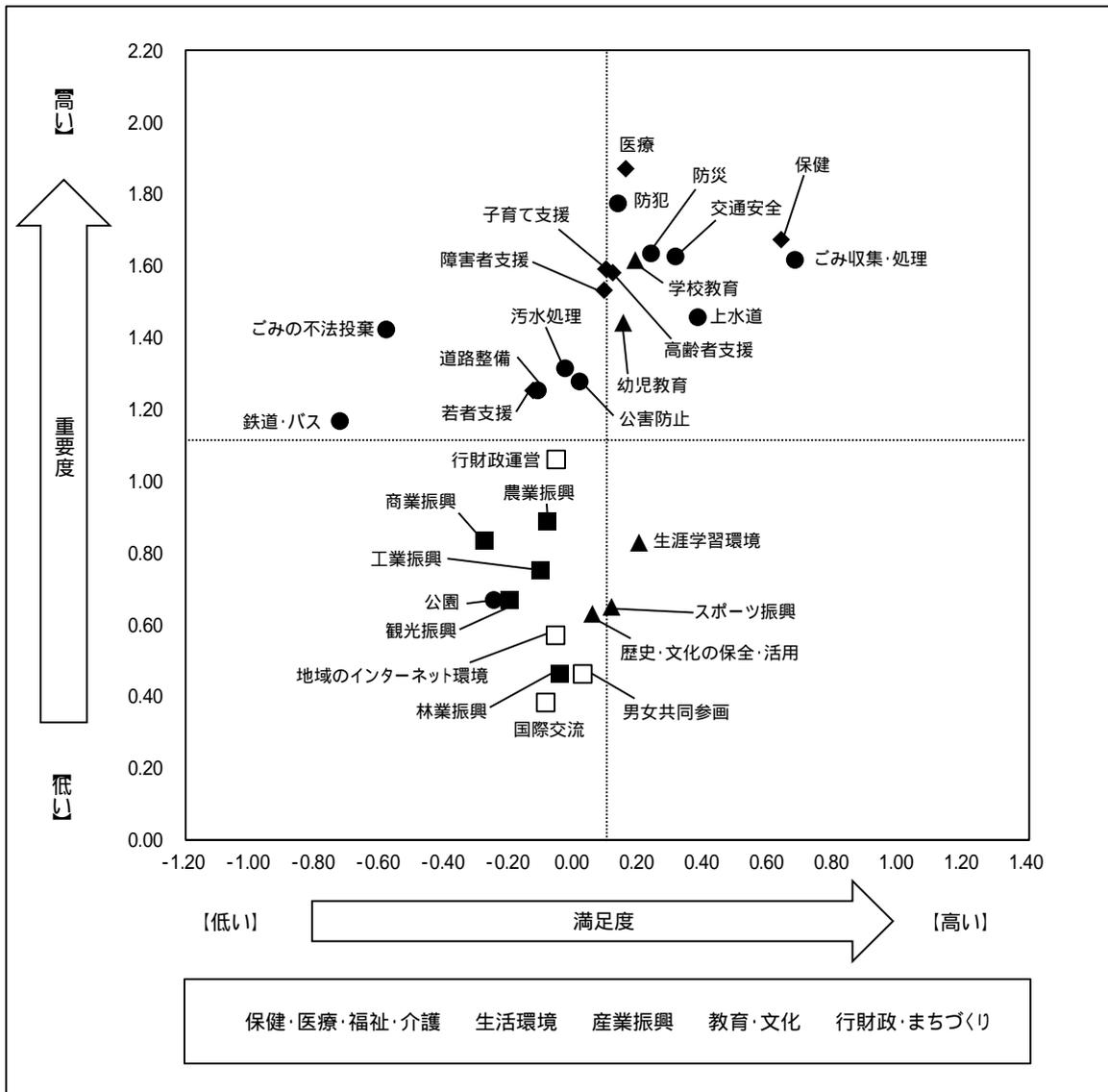
満足度が比較的低いが重要度が高い項目には「ごみの不法投棄」「鉄道・バス」が挙げられる。

満足度と重要度の相関図をみると、満足度が比較的低いが重要度が高い項目には「ごみの不法投棄」「鉄道・バス」等が挙げられており、これら生活環境分野の早急な重点化が望まれます。

満足度・重要度ともに比較的高い項目には、「保健」「ごみ収集・処理」「医療」等が挙げられています。

産業振興、行財政・まちづくりの分野は満足度・重要度ともに比較的低くなっています。

満足度と重要度の相関関係 / 全体



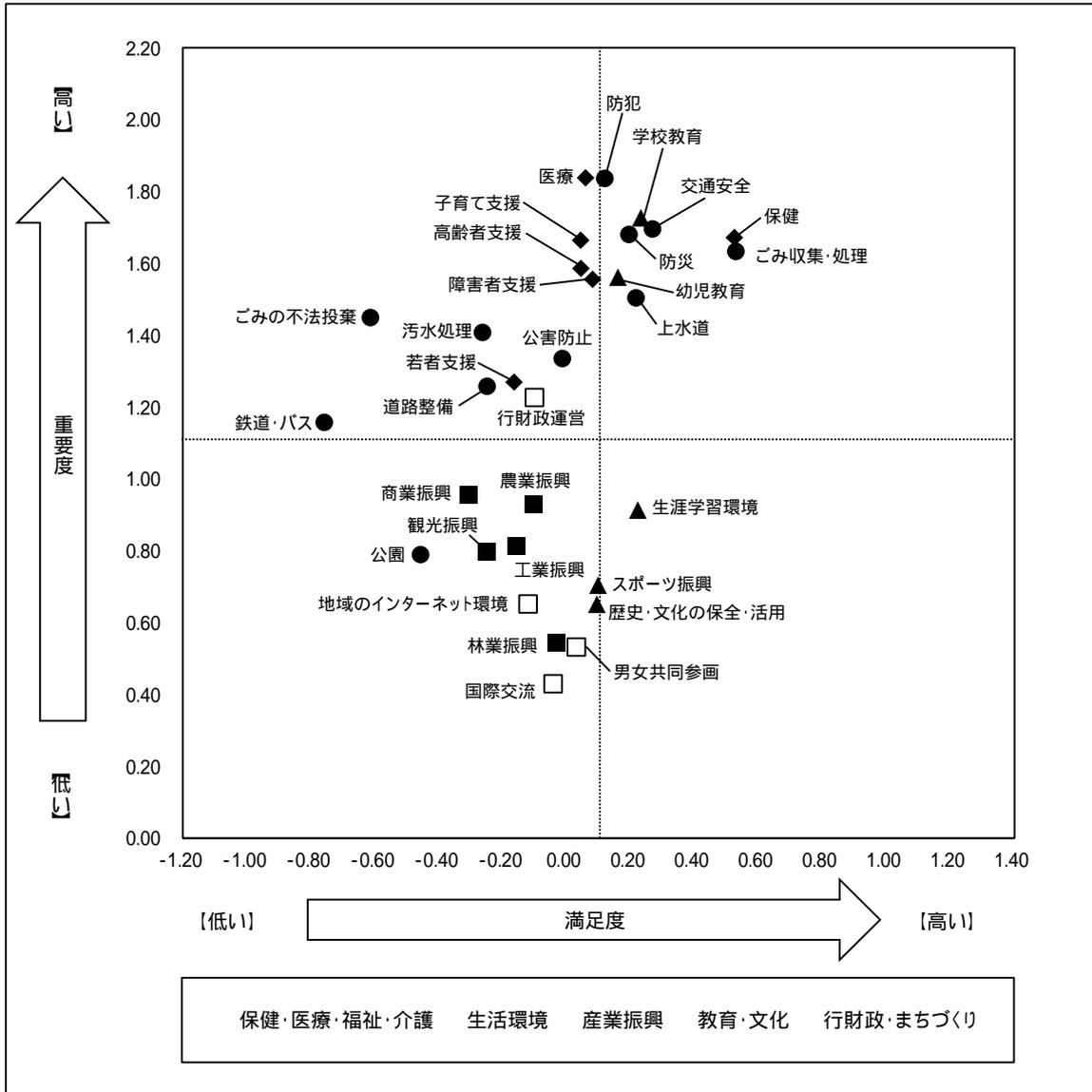
丹荘小学校区

「行財政運営」の重要度が全体に比べて高い。

丹荘小学校区でみると、おおむね全体と同様の傾向となっています。

「行財政運営」の重要度が全体に比べて高くなっており、これらの施策への重点化が望まれます。

満足度と重要度の相関関係 / 丹荘小学校区

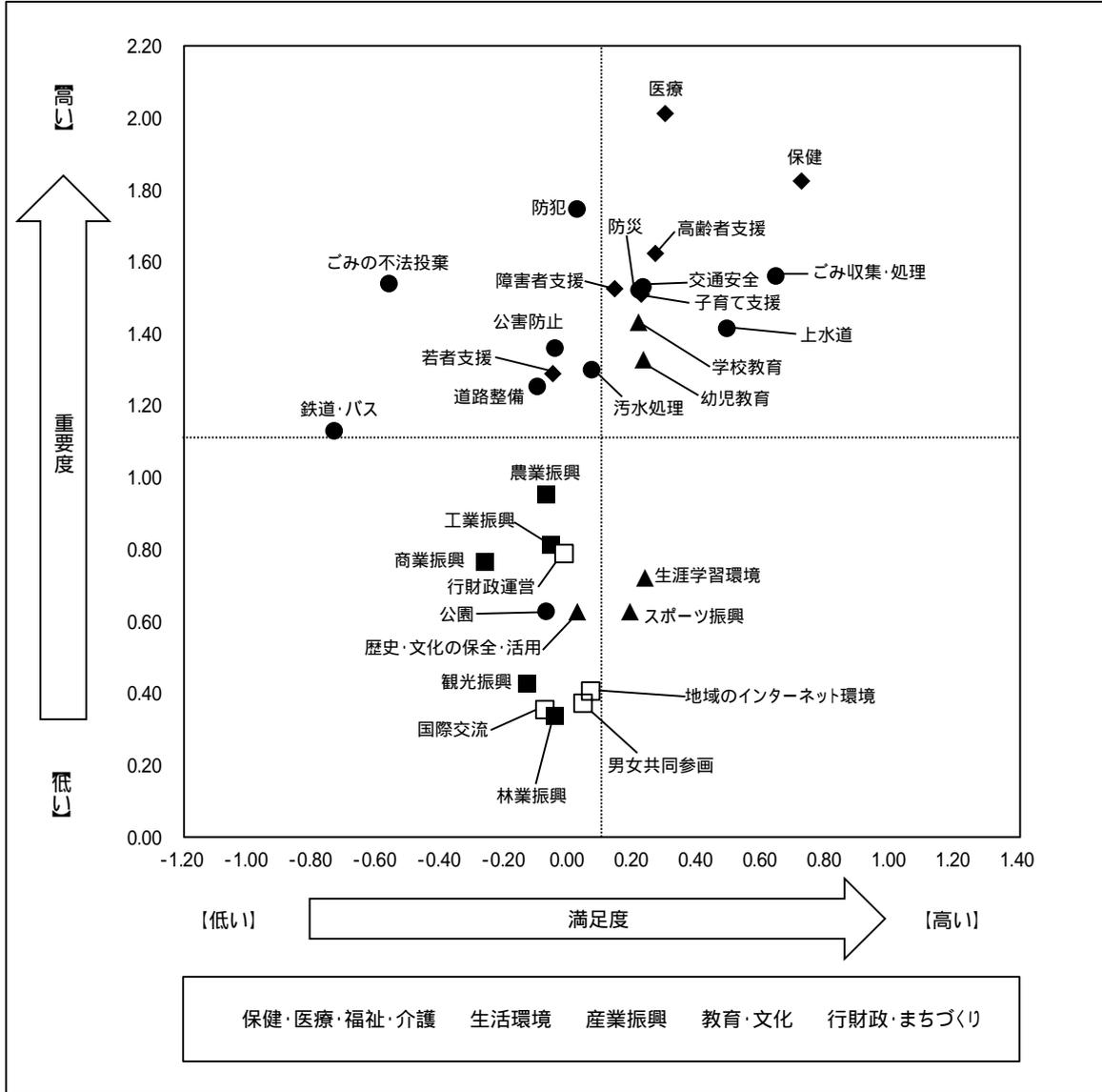


青柳小学校区

「医療」「保健」の重要度が全体と比べて高い。

青柳小学校区でみると、「医療」「保健」の重要度が全体に比べて高くなっています。

満足度と重要度の相関関係 / 青柳小学校区

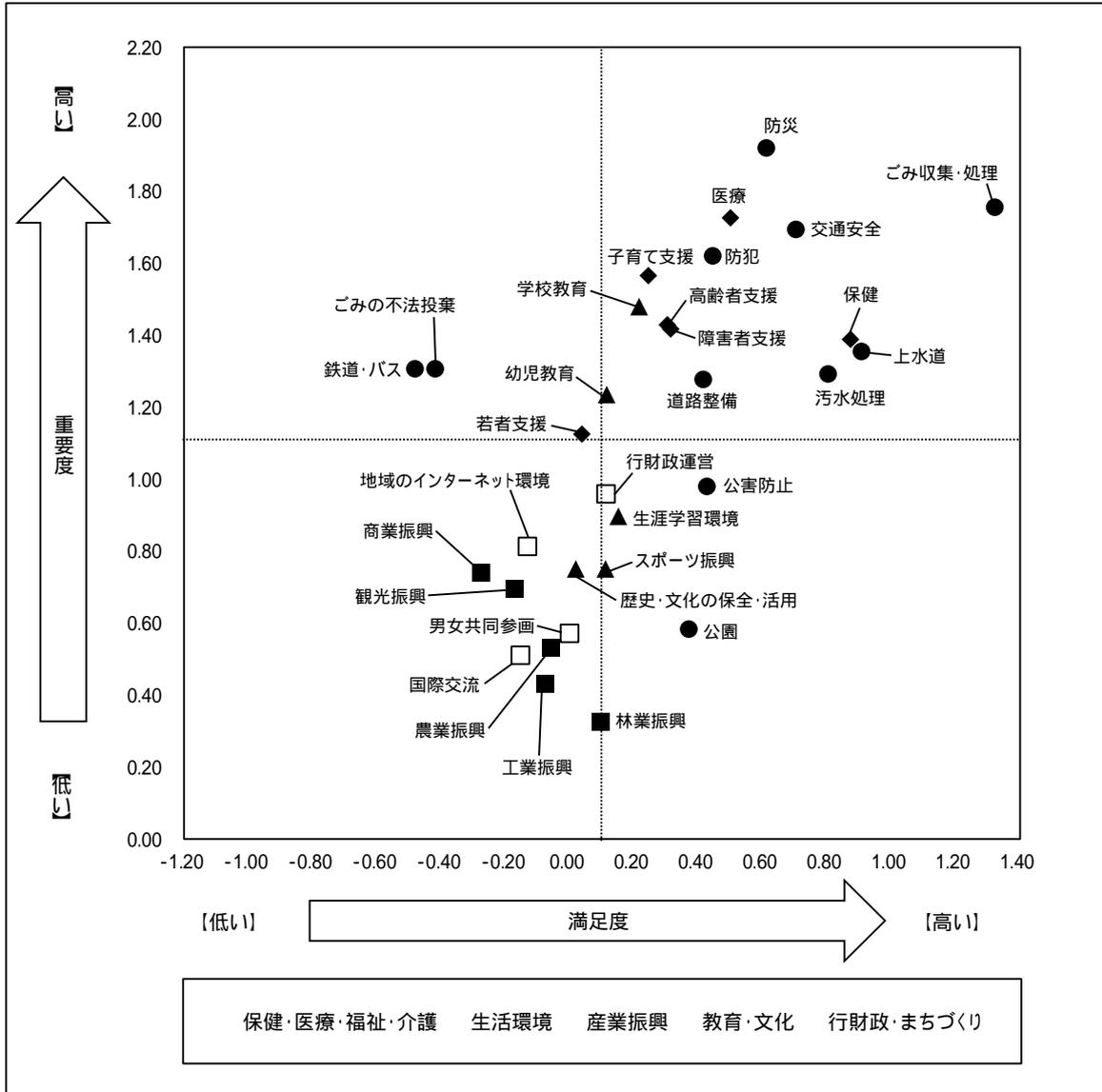


渡瀬小学校区

「防災」の重要度が全体と比べて高い。

渡瀬小学校区でみると、すべての項目で全体と比べて満足度が比較的高くなっています。
 「防災」の重要度が全体と比べて高くなっています。

満足度と重要度の相関関係 / 渡瀬小学校区

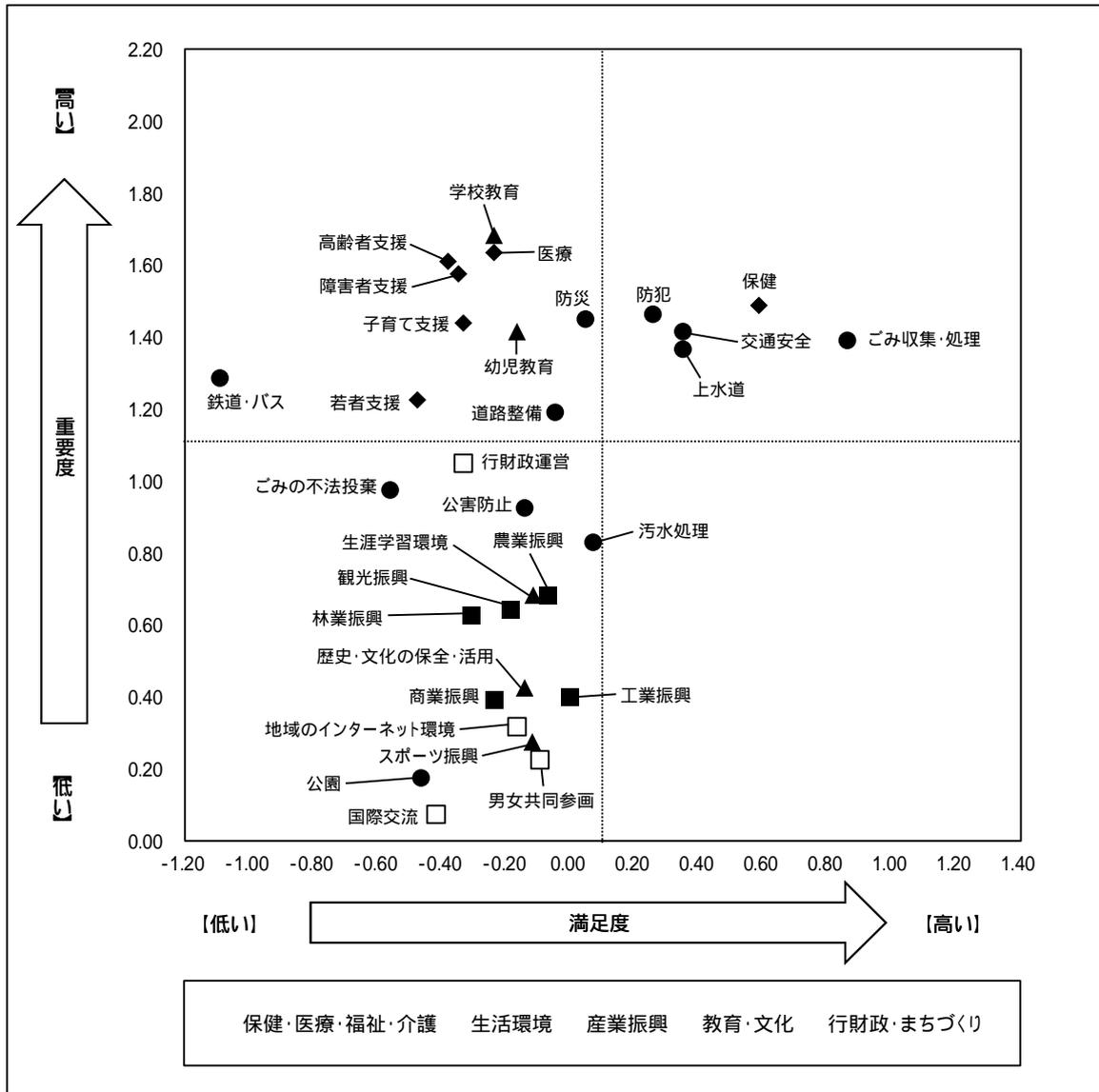


神泉小学校区

重要度が最も高い項目は「学校教育」。

神泉小学校区でみると、おおむねすべての項目で全体に比べて満足度が低くなっています。重要度が最も高い項目は「学校教育」となっています。

満足度と重要度の相関関係 / 神泉小学校区



4 属性にみる満足度と重要度

(1) 保健・医療・福祉・介護

保健

『満足』『重要』が保健・医療・福祉・介護の中では高く、『不満』が比較的低い。

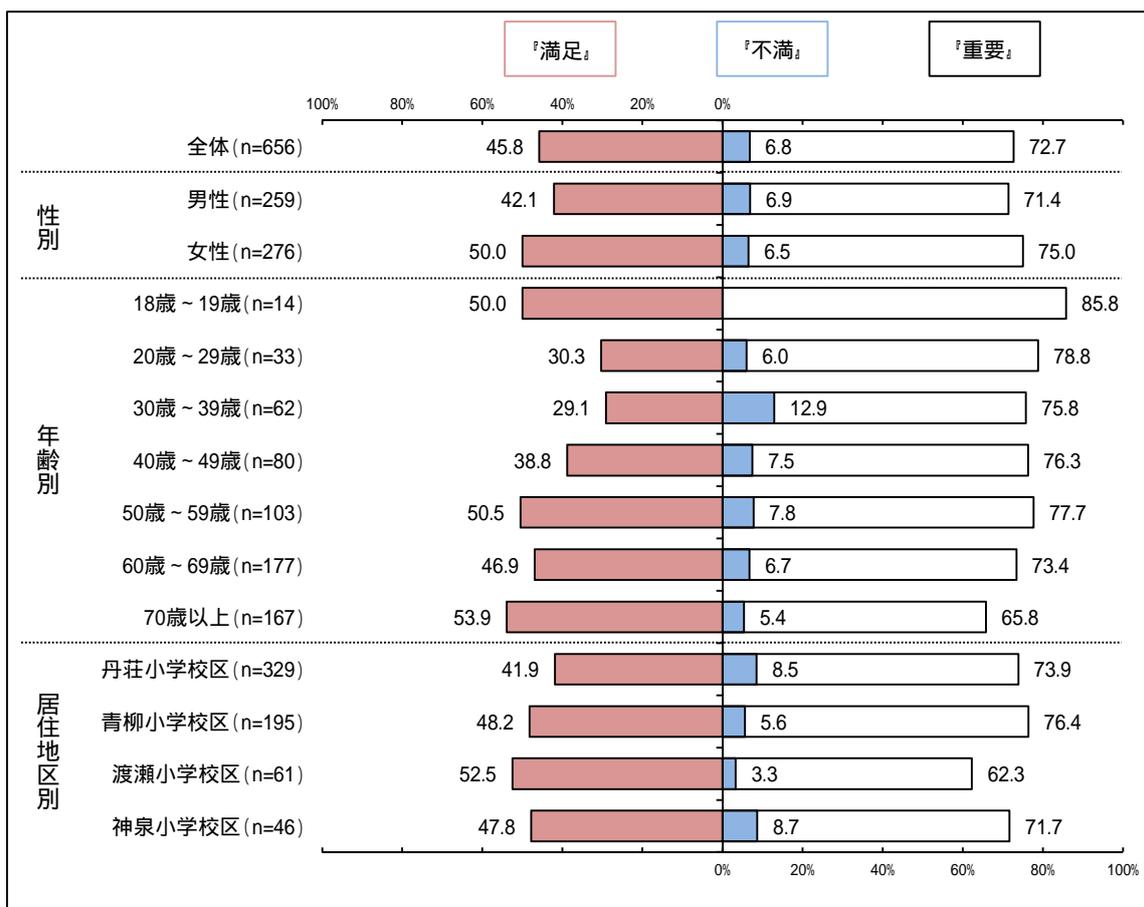
保健は、『満足』(45.8%)が保健・医療・福祉・介護の中で最も高く、『重要』(72.7%)も医療(74.4%)に次いで高くなっています。一方、『不満』は6.8%と低くなっており、現状維持を図りつつ更なる向上が望まれます。

性別で見ると、『満足』『重要』で女性が男性を上回ります。

年齢別で見ると、20歳～29歳・30歳～39歳では『満足』(30.3%・29.1%)が他の年齢層に比べて低くなっています。

居住地区別で見ると、渡瀬小学校区では『重要』(62.3%)が他の地区に比べて低く、『満足』(52.5%)が高くなっています。

保健ノ全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

医療

『重要』『不満』が保健・医療・福祉・介護の中で最も高い。

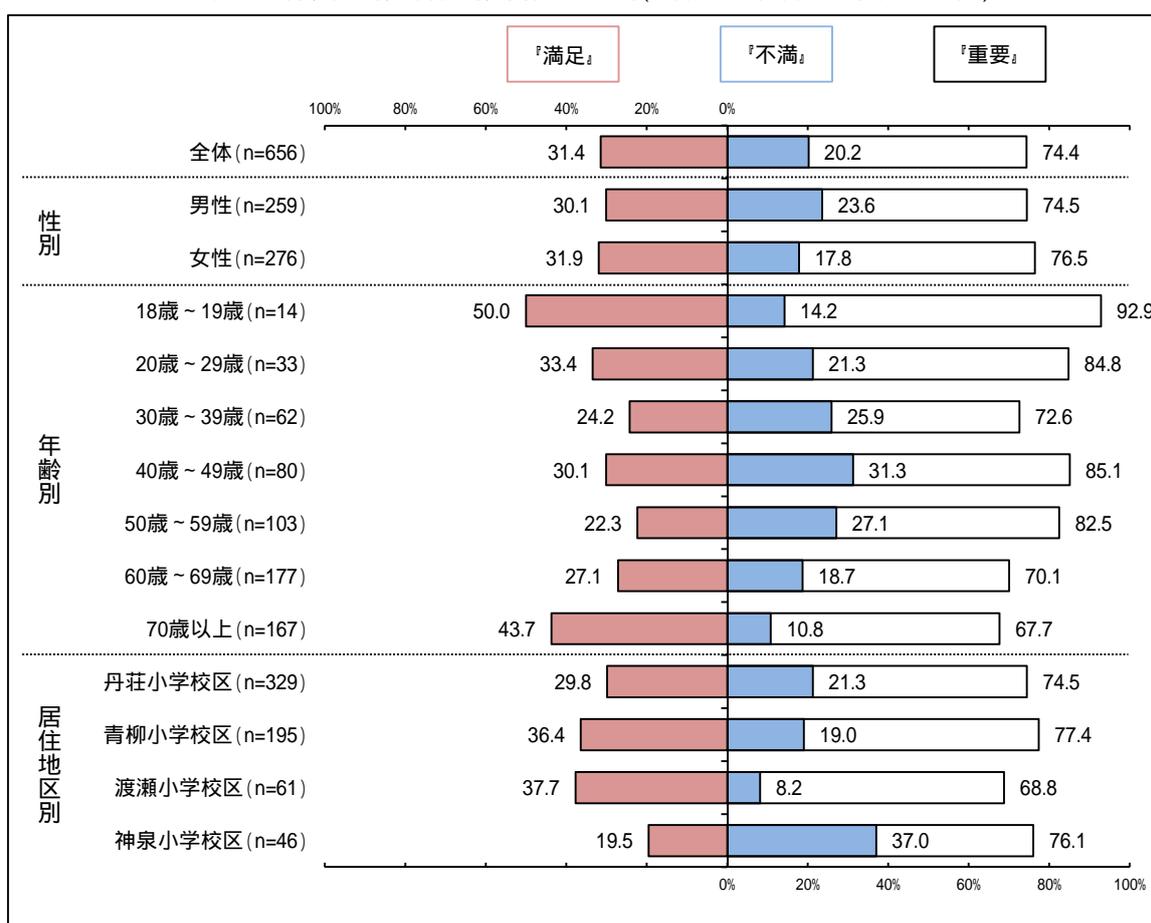
医療は、『重要』(74.4%)、『不満』(20.2%)が保健・医療・福祉・介護の中で最も高くなっており、早急な対策が望まれます。

性別で見ると、男性の『不満』(23.6%)が女性(17.8%)を上回ります。

年齢別で見ると、30歳～39歳・50歳～59歳では『満足』(24.2%・22.3%)が他の年齢層に比べて低くなっています。

居住地区別で見ると、神泉小学校区では『不満』(37.0%)が『満足』(19.5%)を大きく上回ります。

医療/全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



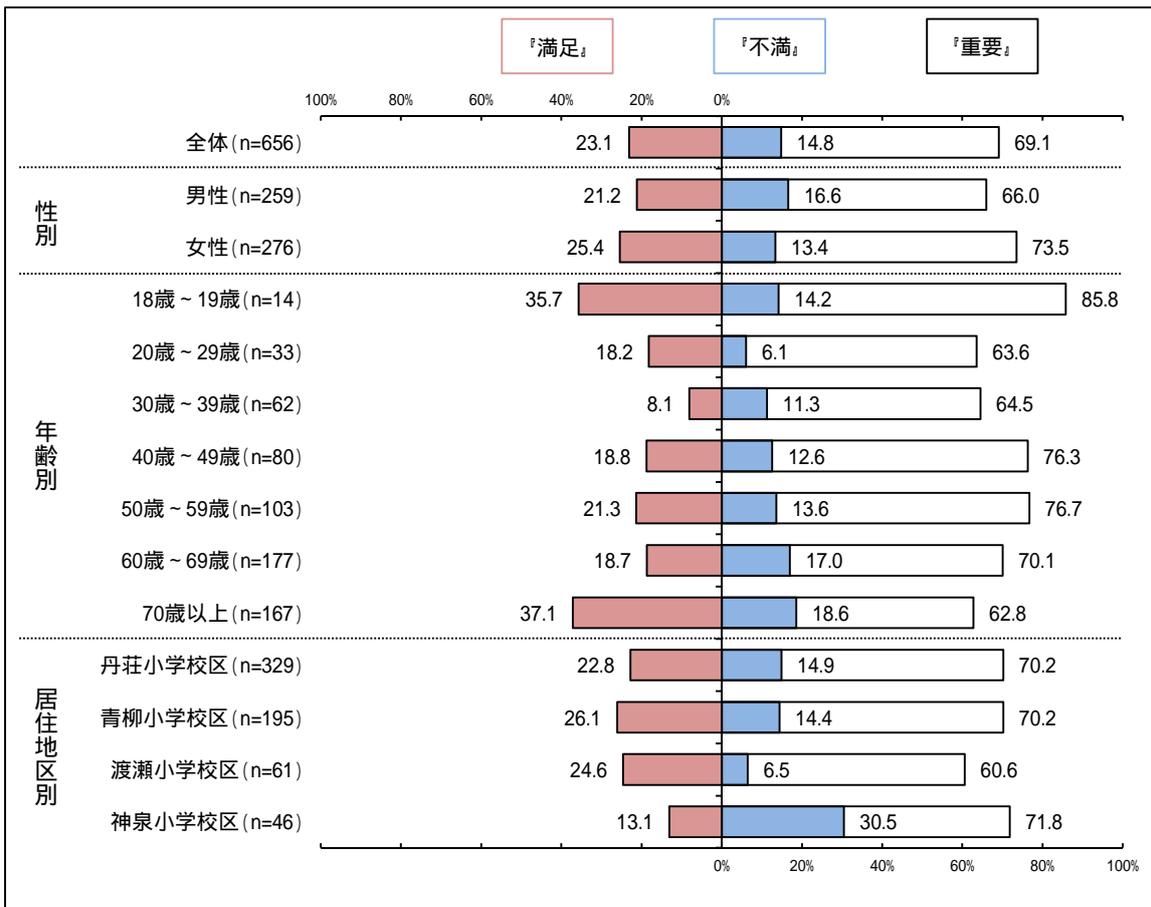
18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

高齢者支援

神泉小学校区では『不満』が『満足』を大きく上回る。

高齢者支援は、『満足』(23.1%)が『不満』(14.8%)を上回ります。
 性別で見ると、『満足』『重要』で女性が男性を上回ります。
 年齢別で見ると、30歳～39歳では『満足』(8.1%)が他の年齢層に比べて低くなっています。
 居住地区別で見ると、神泉小学校区では『不満』(30.5%)が『満足』(13.1%)を大きく上回ります。

高齢者支援 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

障害者支援

神泉小学校区では『不満』が『満足』を大きく上回る。

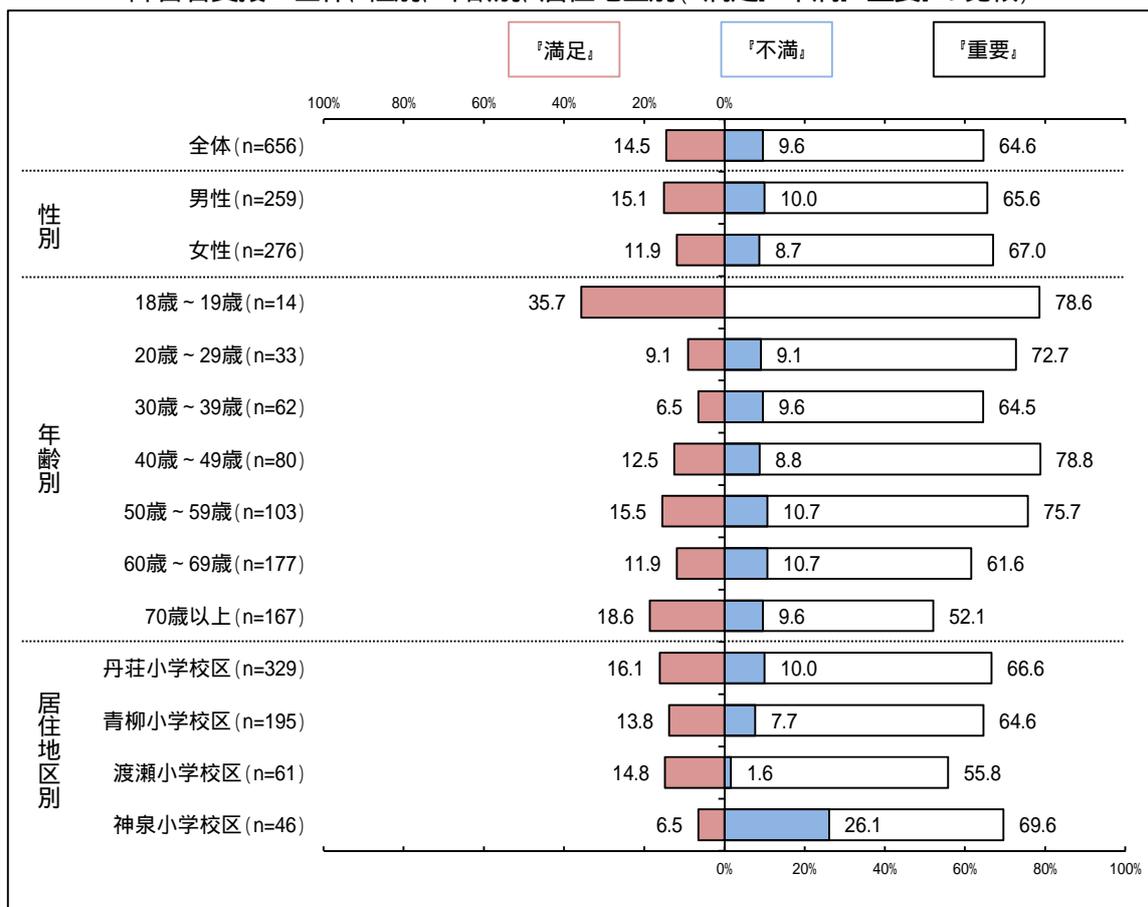
障害者支援は、『満足』(14.5%)が『不満』(9.6%)を上回ります。

性別でみると、男性の『満足』(15.1%)が女性(11.9%)をやや上回ります。

年齢別でみると、40歳以上では年齢層が上がるにつれて『重要』が低くなる傾向がみられます。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(26.1%)が『満足』(6.5%)を大きく上回ります。

障害者支援 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

若者支援

『満足』が保健・医療・福祉・介護の中で最も低く、『不満』が上回る。

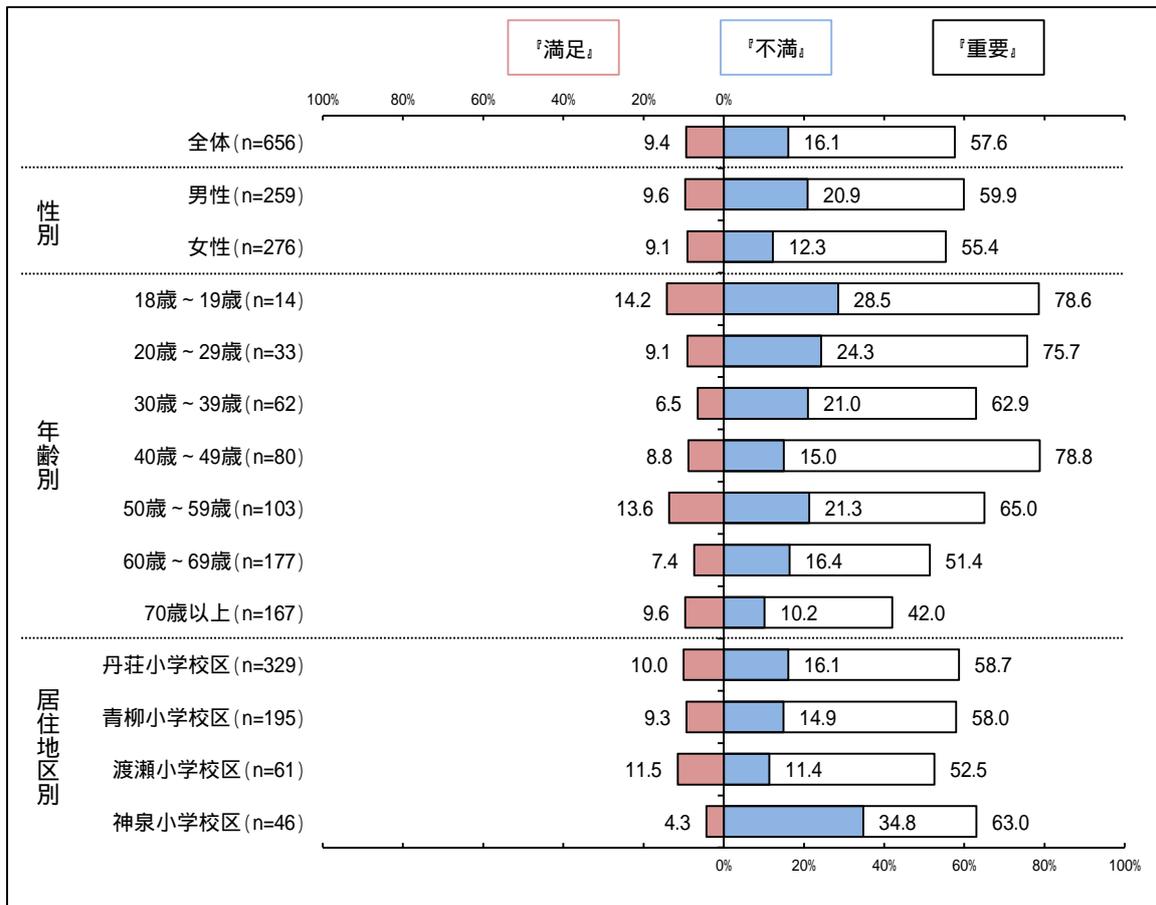
若者支援は、『満足』(9.4%)が保健・医療・福祉・介護の中で最も低く、『不満』(16.1%)が上回ります。また、『重要』が57.6%となっており、重要度が低いとはいえないため、早急な対策が望まれます。

性別でみると、男性の『不満』(20.9%)が女性(12.3%)を上回ります。

年齢別でみると、18歳～19歳では『不満』(28.5%)が他の年齢層に比べて比較的高くなっています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(34.8%)が他の地区に比べて高くなっています。

若者支援 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

子育て支援

30歳～39歳の『不満』が4割を超える。

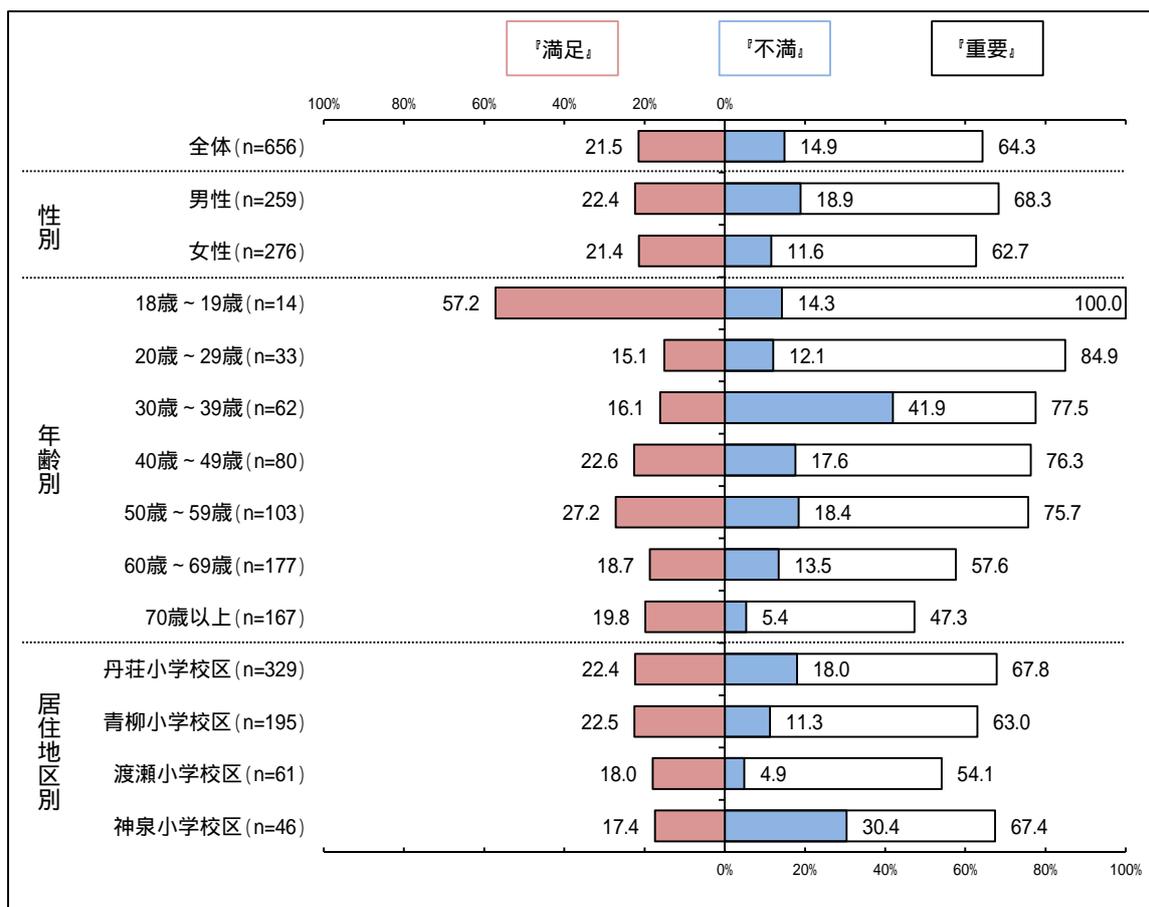
子育て支援は、『満足』(21.5%)が『不満』(14.9%)を上回ります。

性別でみると、男性の『不満』(18.9%)が女性(11.6%)を上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では『不満』(41.9%)が他の年齢層に比べて高くなっており、4割を超えます。30歳～39歳は子育て世代の中心であり、より一層の支援が望まれます。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(30.4%)が他の地区に比べて高く、『満足』(17.4%)を上回ります。

子育て支援 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(2) 生活環境

公園

『重要』は生活環境の中で最も低い。

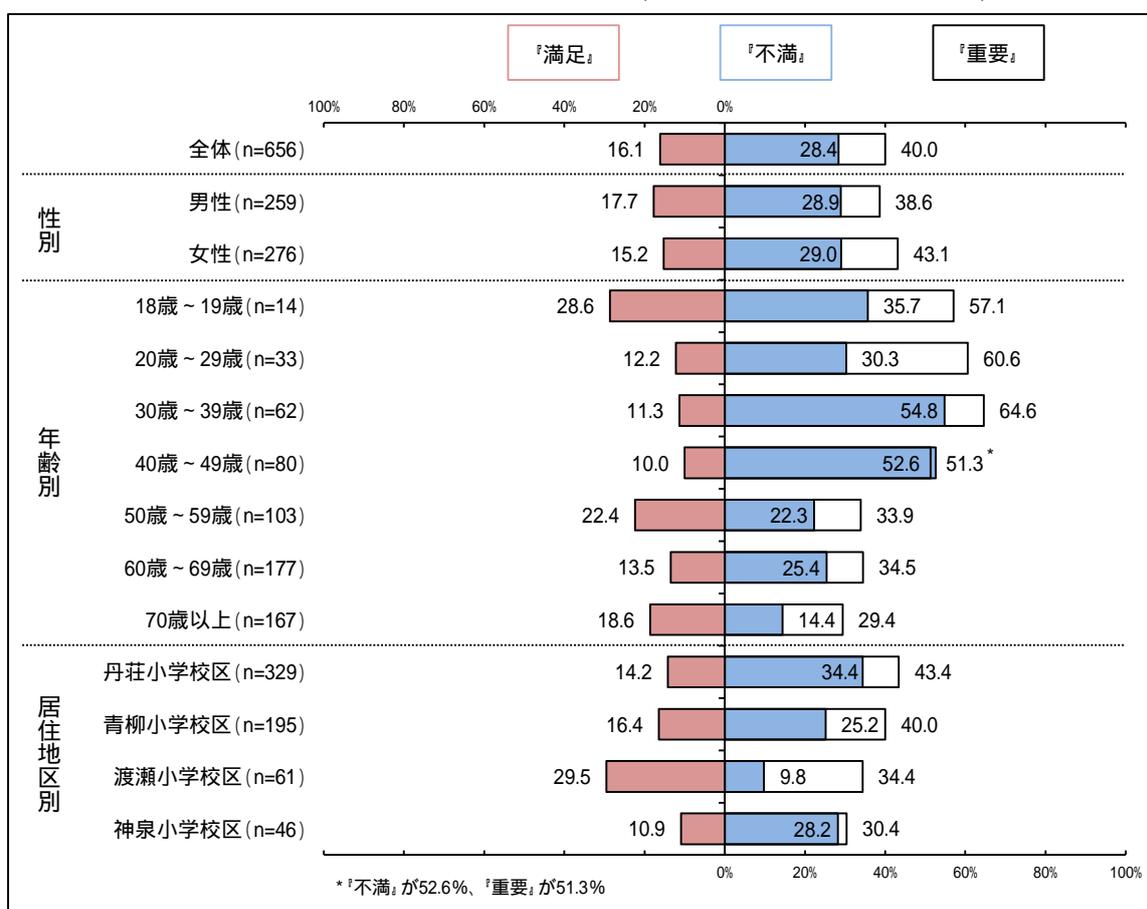
公園は、『不満』(28.4%)が『満足』(16.1%)を大きく上回りますが、『重要である』(40.0%)は生活環境の中で最も低くなっています。

性別でみると、女性の『重要』(43.1%)が男性(38.6%)をやや上回ります。

年齢別でみると、40歳～49歳では『不満』(52.6%)が『重要』(51.3%)をやや上回ります。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(29.5%)が『不満』(9.8%)を大きく上回ります。

公園 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

道路整備

渡瀬小学校区では『満足』が『不満』を大きく上回るが、それ以外の地区では『不満』が『満足』を上回る。

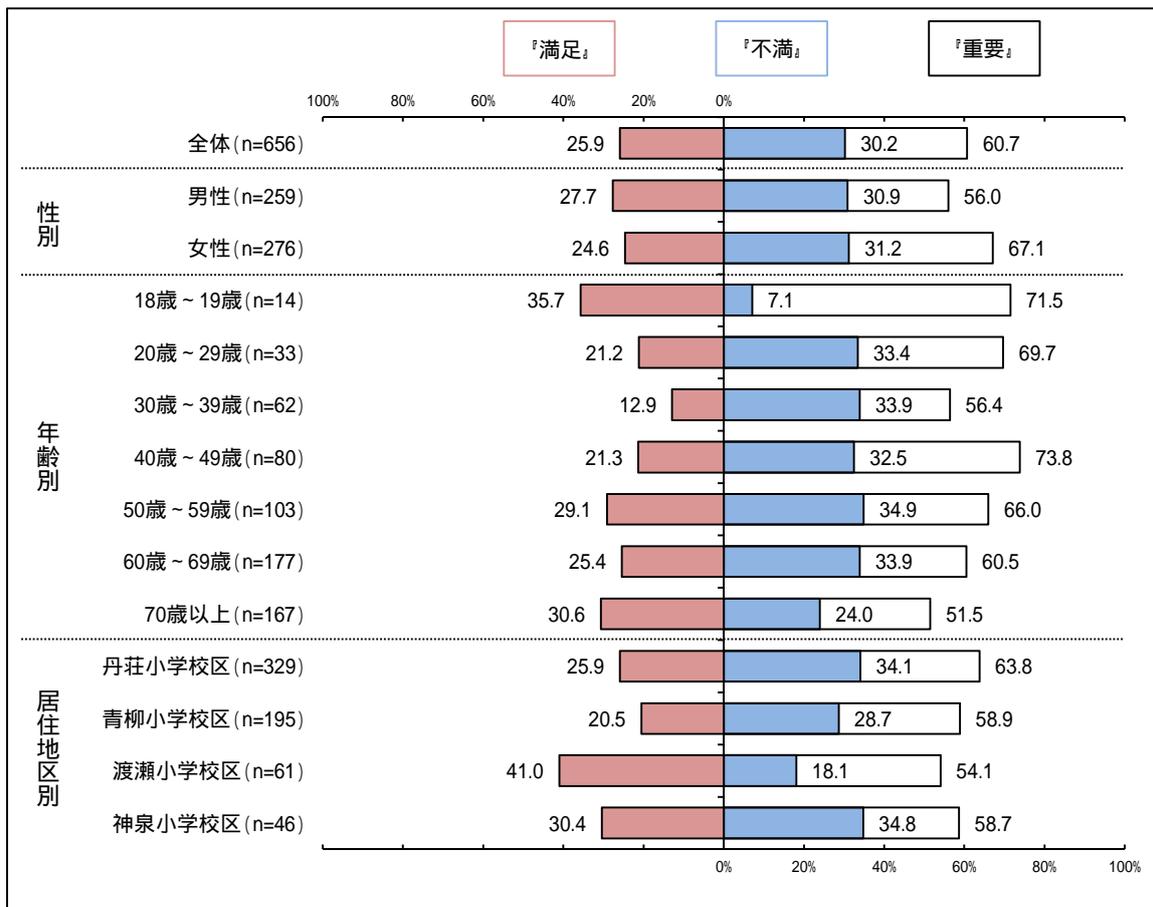
道路整備は、『不満』(30.2%)が『満足』(25.9%)を上回ります。

性別でみると、女性の『重要』(67.1%)が男性(56.0%)を大きく上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では『満足』(12.9%)が他の年齢層に比べて低くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(41.0%)が『不満』(18.1%)を大きく上回りますが、それ以外の地区では『不満』が『満足』を上回ります。

道路整備 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

鉄道・バス

『不満』が4割以上、『重要』が5割以上を占める。

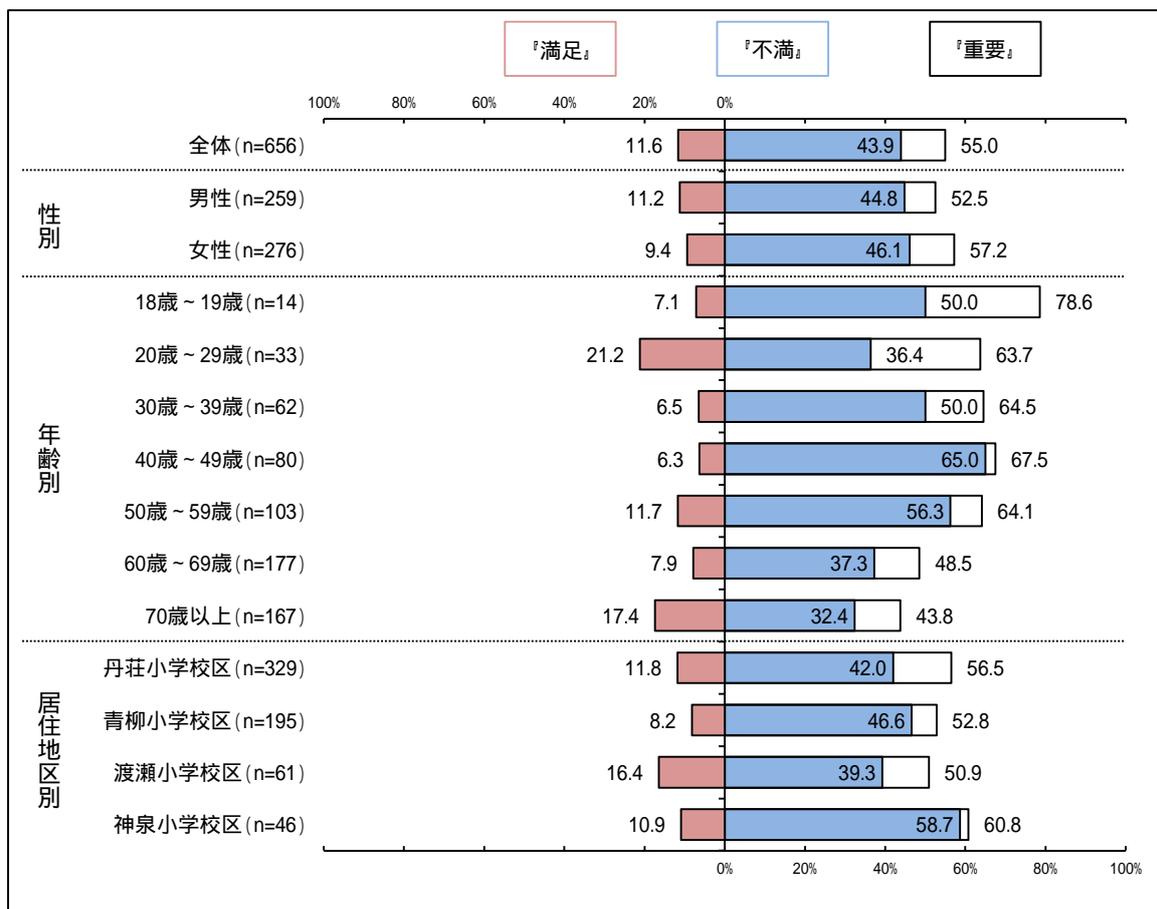
鉄道・バスは、『不満』(43.9%)が4割以上を占め、『満足』(11.6%)を大きく上回ります。また、『重要』(55.0%)が5割以上を占めるため、早急な対策が望まれる施策となっています。

性別でみると、女性の『重要』(57.2%)が男性(52.5%)をやや上回ります。

年齢別でみると、40歳～49歳では『不満』(65.0%)が他の年齢層に比べて比較的高くなっています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(58.7%)が他の地区に比べて高くなっています。

鉄道・バス / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

上水道

『満足』が『不満』を大きく上回るが、『重要』が6割を占める

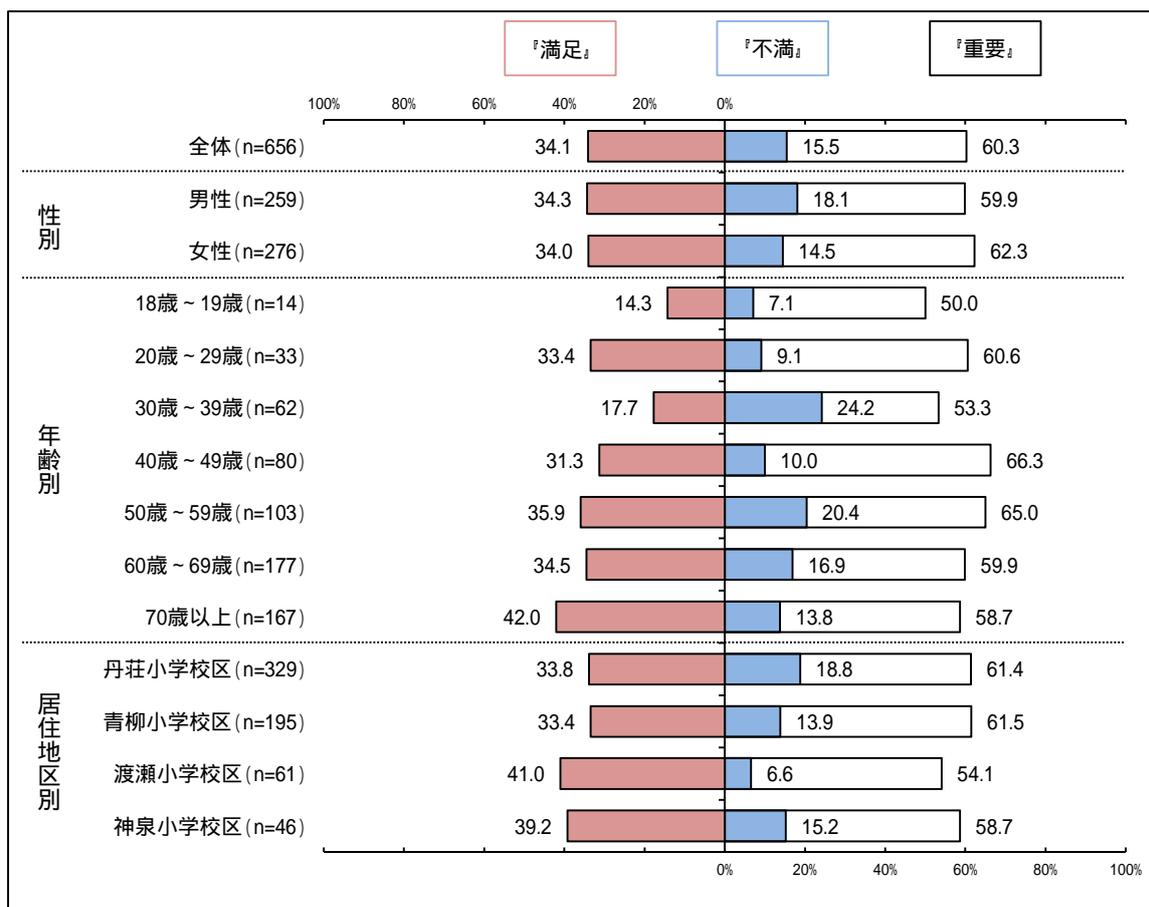
上水道は、『満足』(34.1%)が『不満』(15.5%)を大きく上回りますが、『重要』(60.3%)が6割を占めることから、更なる向上が望まれる施策となっています。

性別でみると、男性の『不満』(18.1%)が女性(14.5%)をやや上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では『不満』(24.2%)が『満足』(17.7%)を上回ります。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『不満』(6.6%)が他の地区に比べて比較的低くなっています。

上水道 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

汚水処理

渡瀬小学校区では『満足』が4割以上を占める。

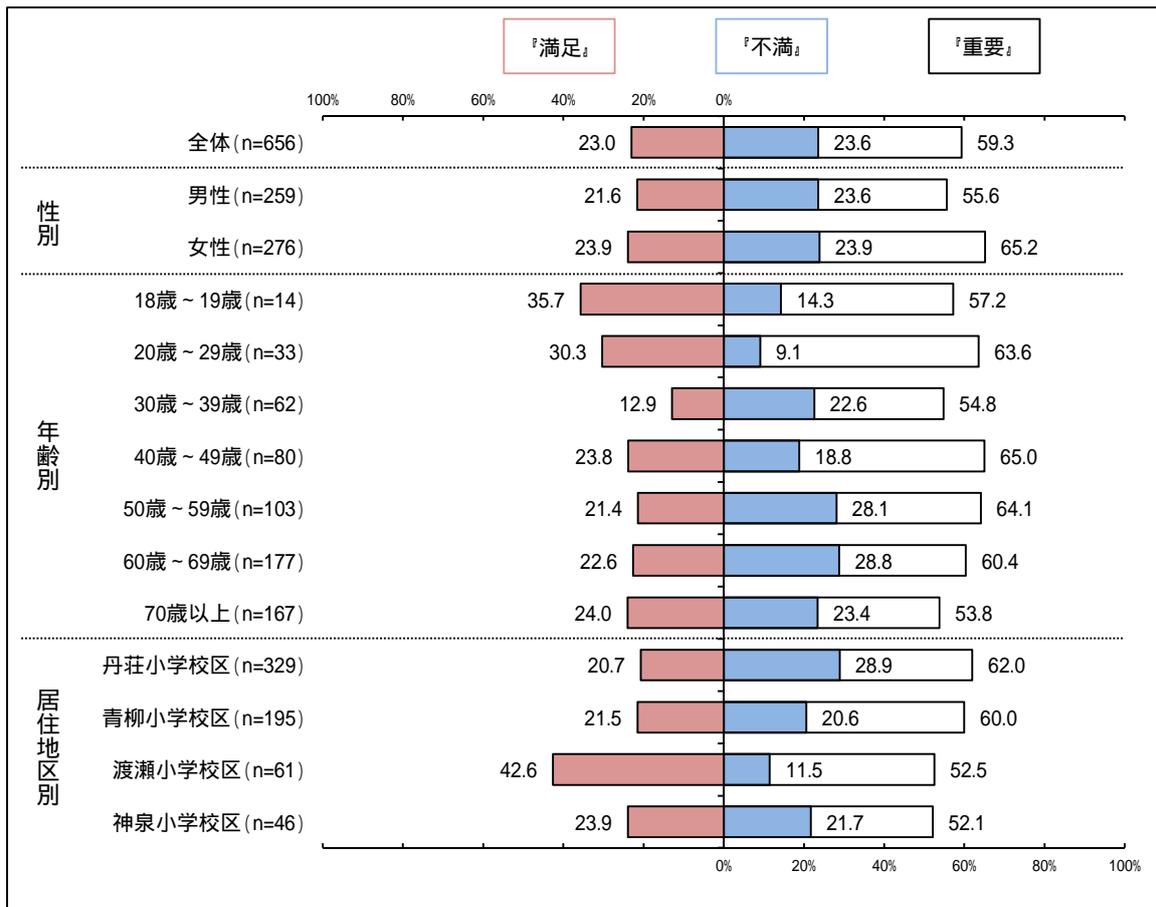
汚水処理は、『満足』(23.0%)と『不満』(23.6%)にあまり差はみられません。

性別でみると、女性の『重要』(65.2%)が男性(55.6%)を上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では『満足』(12.9%)が他の年齢層に比べて低くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(42.6%)が4割以上を占めており、一方、『不満』(11.5%)が低くなっているため、それ以外の地区を優先すべき施策といえます。

汚水処理 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

ごみ収集・処理

『満足』『重要』が生活環境の中で最も高い。

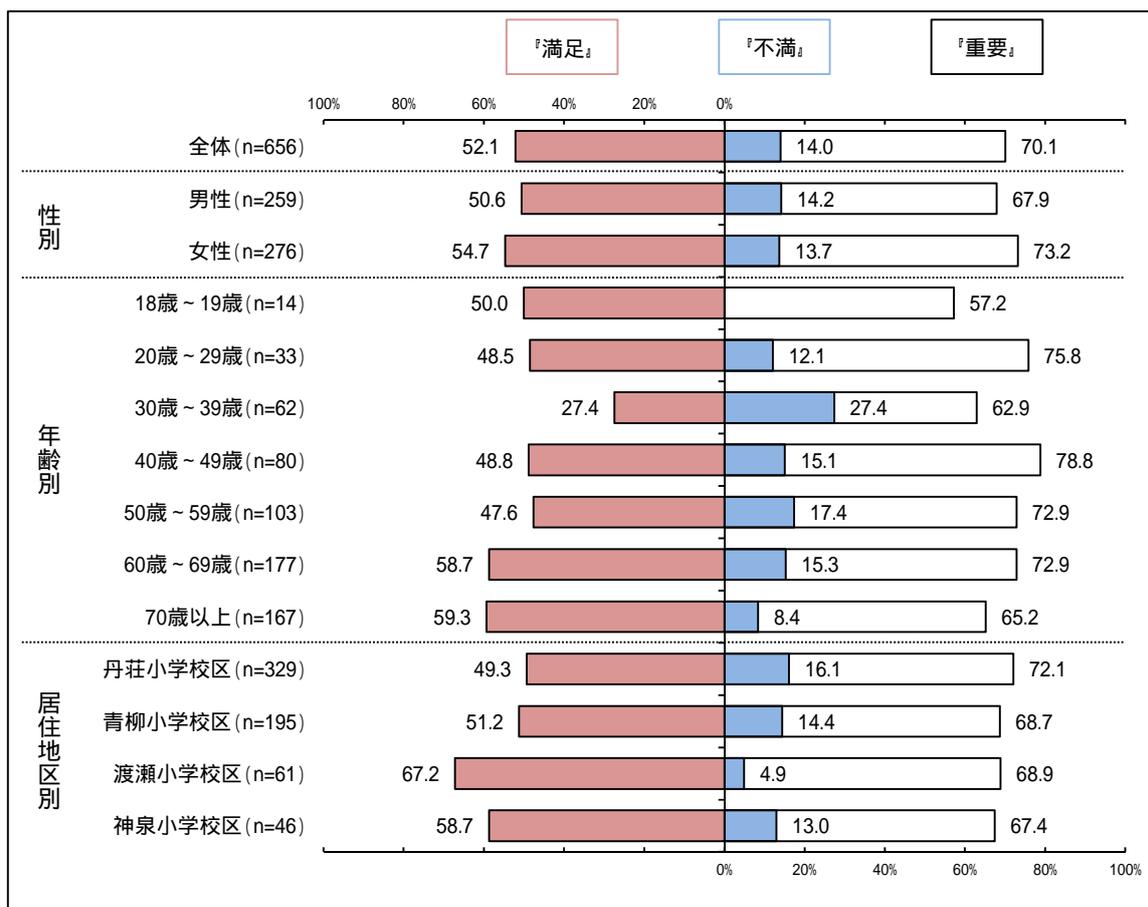
ごみ収集・処理は、『満足』(52.1%)、『重要』(70.1%)が生活環境の中で最も高くなっており、現状維持を図りつつ更なる向上が望まれる施策となっています。

性別でみると、女性の『満足』(54.7%)、『重要』(73.2%)が男性を上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では『満足』(27.4%)が他の年齢層と比べて低くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(67.2%)が6割以上を占めており、『不満』(4.9%)が低く1割以下となっているので、それ以外の地区を優先すべき施策といえます。

ごみ収集・処理 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

ごみの不法投棄

『満足』が生活環境の中で最も低く、『不満』が『満足』を大きく上回る。

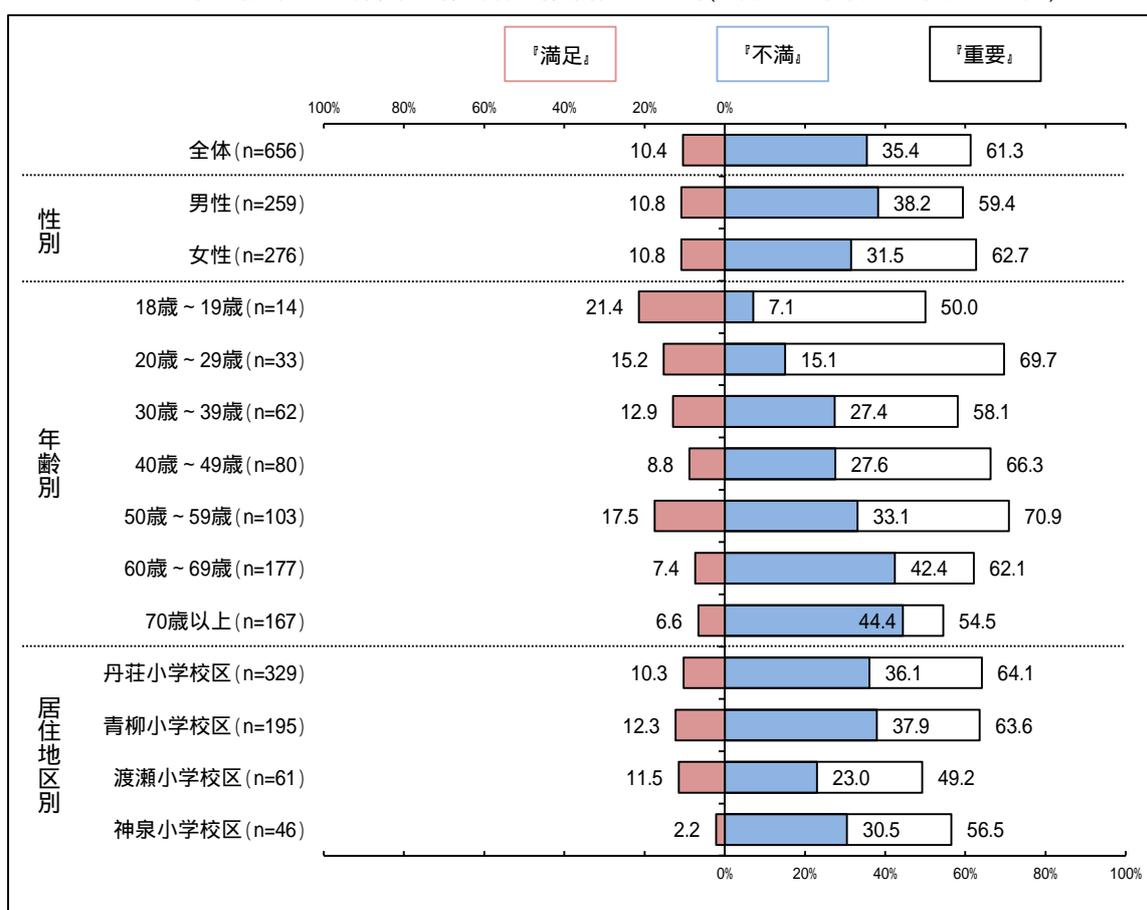
ごみの不法投棄は、『満足』(10.4%)が生活環境の中で最も低く、『不満』(35.4%)が『満足』(10.4%)を大きく上回ります。また、『重要』(61.3%)が6割を超えることから、早急な対策が望まれます。

性別でみると、男性の『不満』(38.2%)が女性(31.5%)を上回ります。

年齢別でみると、年齢層があがるにつれて『不満』の割合が増加する傾向がみられます。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『満足』(2.2%)が他の地区に比べて低くなっています。

ごみの不法投棄 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

公害防止

『満足』『不満』の割合に対して『重要』の割合が比較的高い。

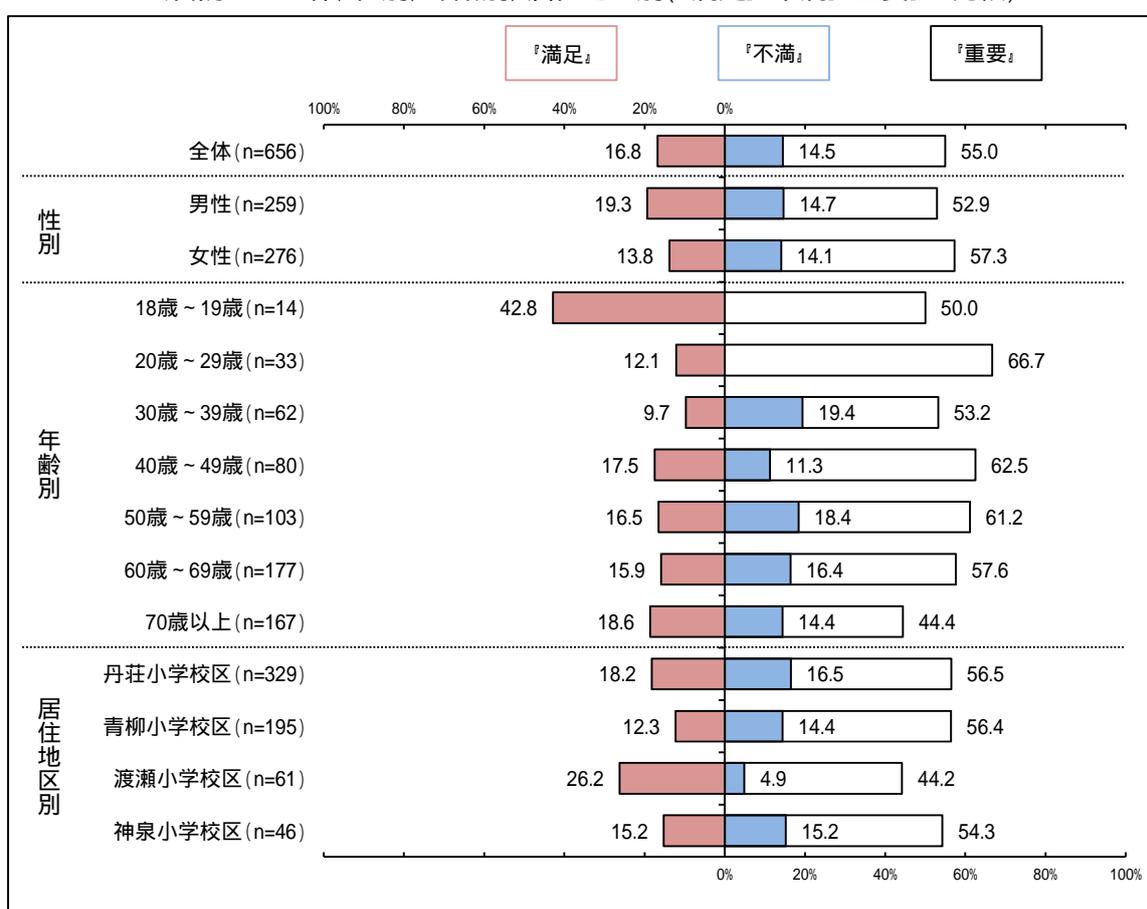
公害防止は、『満足』(16.8%)、『不満』(14.5%)の割合に対して『重要』(55.0%)の割合が比較的高くなっています。

性別で見ると、男性の『満足』(19.3%)が女性(13.8%)を上回ります。一方、女性の『重要』(57.3%)が男性(52.9%)をやや上回ります。

年齢別で見ると、18歳～19歳では『満足』(42.8%)が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別で見ると、渡瀬小学校区では『満足』(26.2%)が他の地区に比べて高く、『不満』(4.9%)、『重要』(44.2%)が低くなっているため、それ以外の地区を優先すべき施策といえます。

公害防止 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

防災

『満足』が『不満』を大きく上回る。

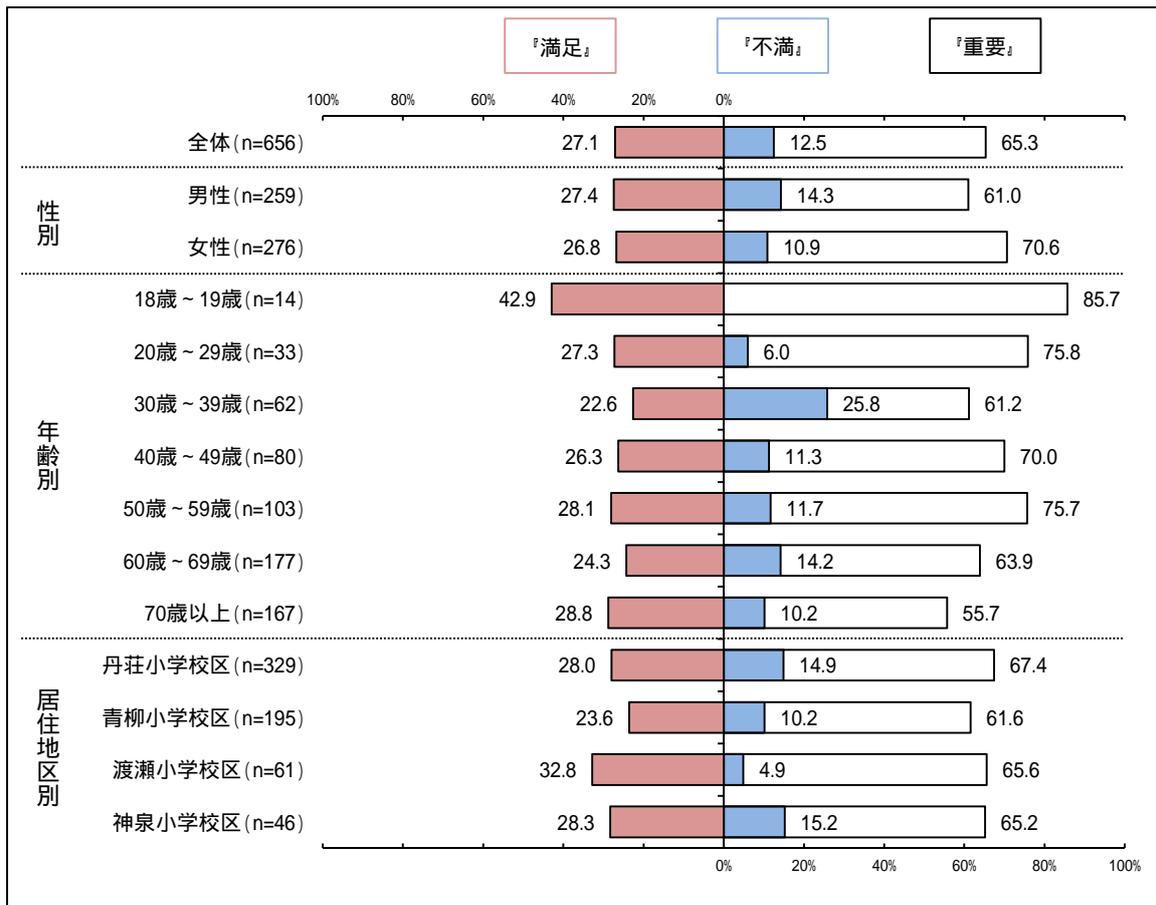
防災は、『満足』(27.1%)が『不満』(12.5%)を大きく上回ります。

性別でみると、女性の『重要』(70.6%)が男性(61.0%)を大きく上回ります。一方、男性の『不満』(14.3%)が女性(10.9%)をやや上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では『不満』(25.8%)が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『不満』(4.9%)が他の地区に比べて比較的低くなっています。

防災/全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



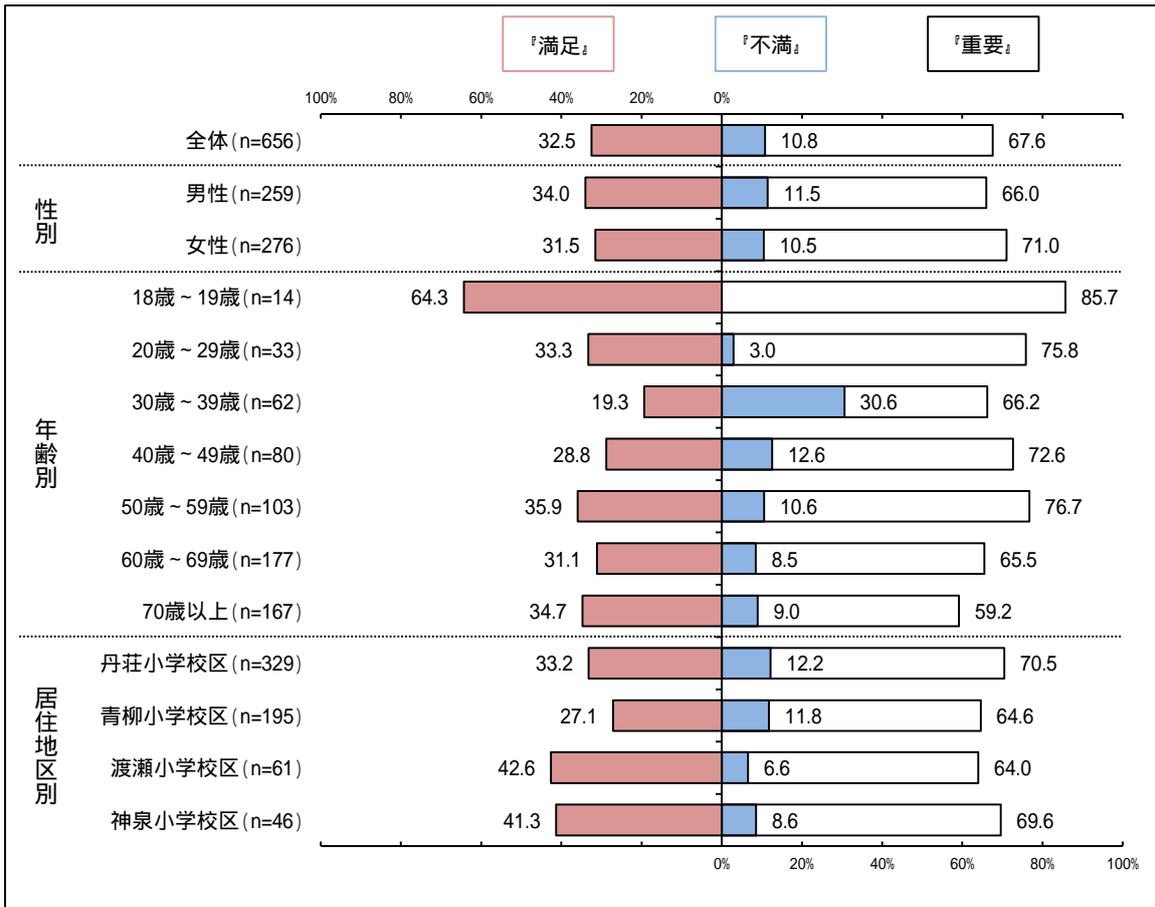
18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

交通安全

『満足』が『不満』を大きく上回る。

交通安全は、『満足』(32.5%)が『不満』(10.8%)を大きく上回ります。
 性別でみると、女性の『重要』(71.0%)が男性(66.0%)を上回ります。
 年齢別でみると、30歳～39歳では『不満』(30.6%)が他の年齢層に比べて高くなっています。
 居住地区別でみると、渡瀬小学校区・神泉小学校区では『満足』(42.6%・41.3%)が他の地区に比べて高くなっています。

交通安全 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

防犯

『重要』が生活環境の中ではごみ収集・処理に次いで高い。

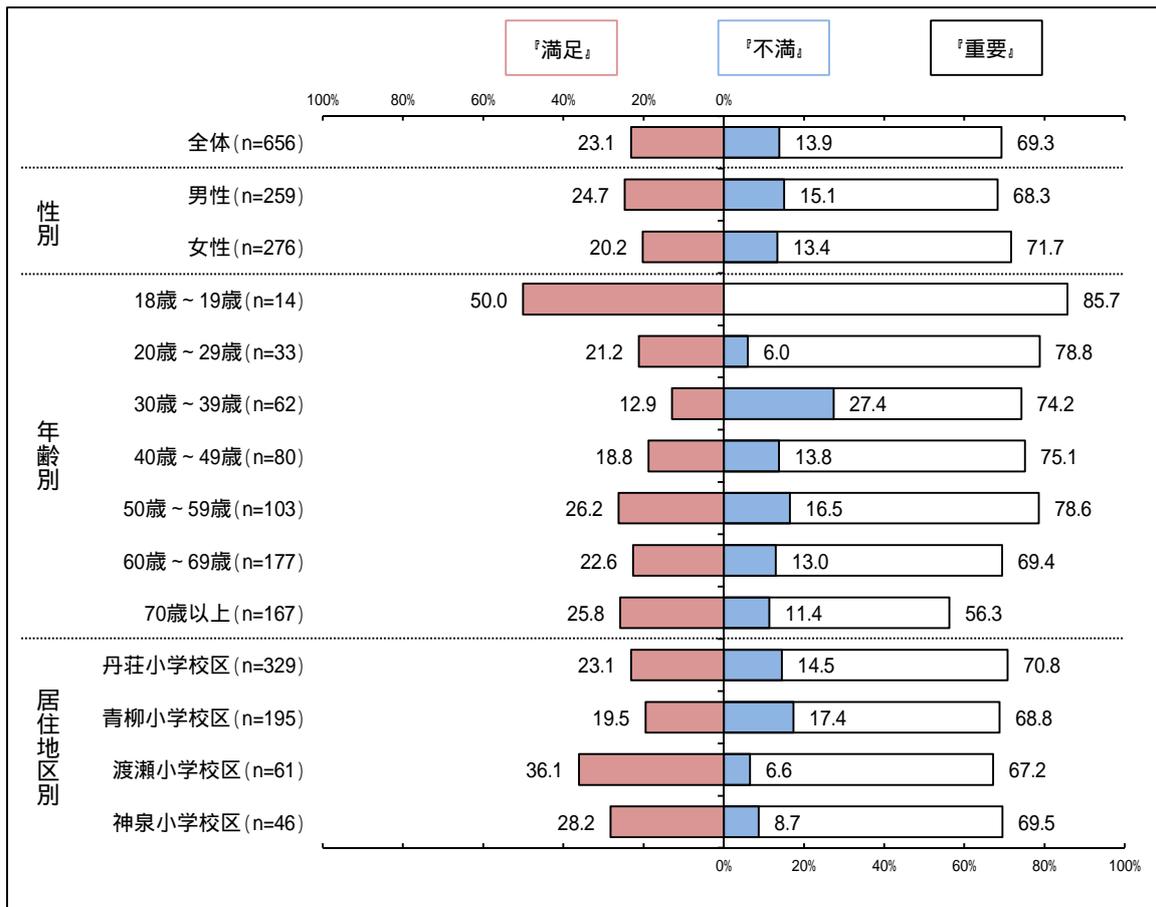
防犯は、『重要』(69.3%)が生活環境の中ではごみ収集・処理に次いで高くなっています。

性別でみると、男性の『満足』(24.7%)が女性(20.2%)をやや上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では『不満』(27.4%)が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(36.1%)が他の地区に比べて高くなっています。

防犯 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(3) 産業振興

農業振興

『満足』が1割以下となっているが、産業振興の中では最も高い。

産業振興の分野に属する項目は、『満足』が他の分野に比べて低くなっており、すべての項目で『不満』が『満足』を上回ります。

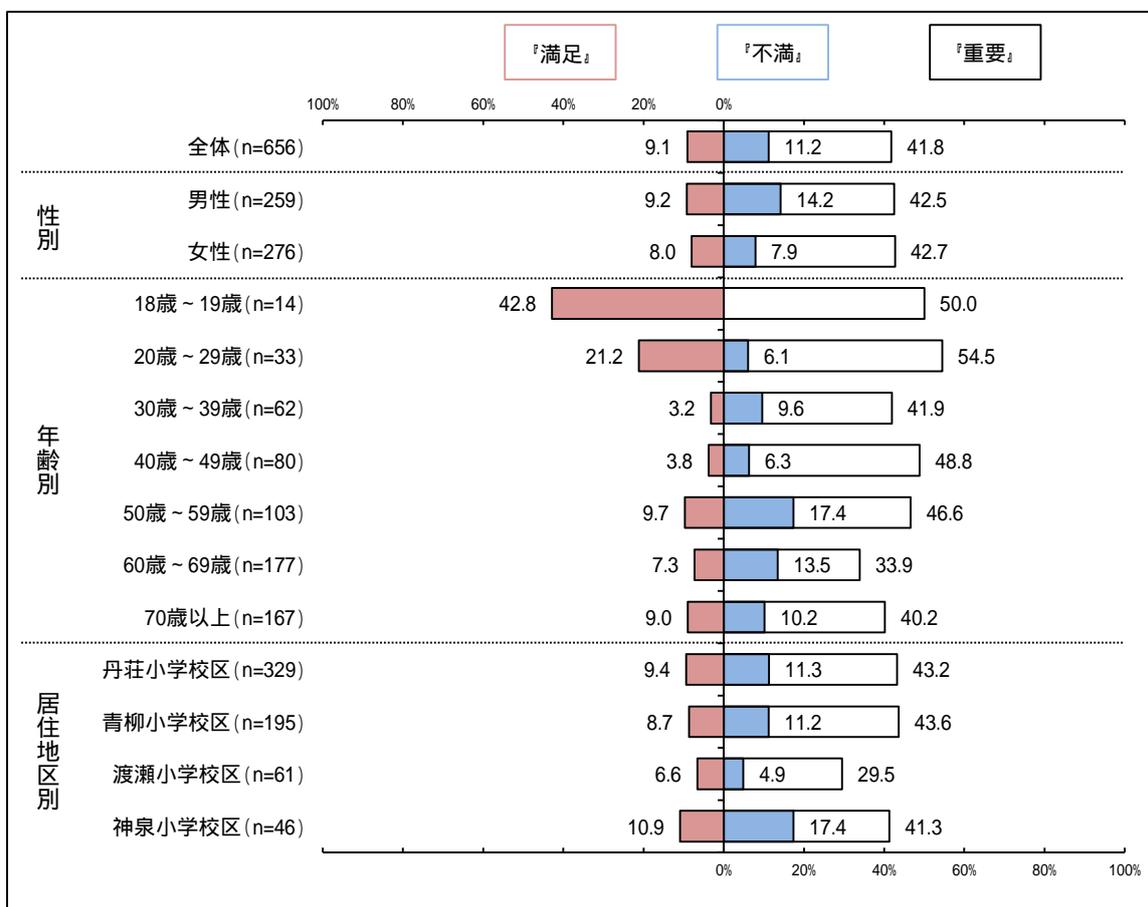
農業振興は、『満足』が9.1%と1割以下となっていますが、産業振興の中では最も高くなっています。

性別でみると、男性の『不満』(14.2%)が女性(7.9%)を上回ります。

年齢別でみると、18歳～19歳・20歳～29歳では『満足』(42.8%・21.2%)が他の年齢層に比べて高くなっていますが、それ以外の年齢層では1割以下となっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区で『重要』(29.5%)が他の地区に比べて低くなっています。

農業振興 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

工業振興

『不満』が『満足』をやや上回る。

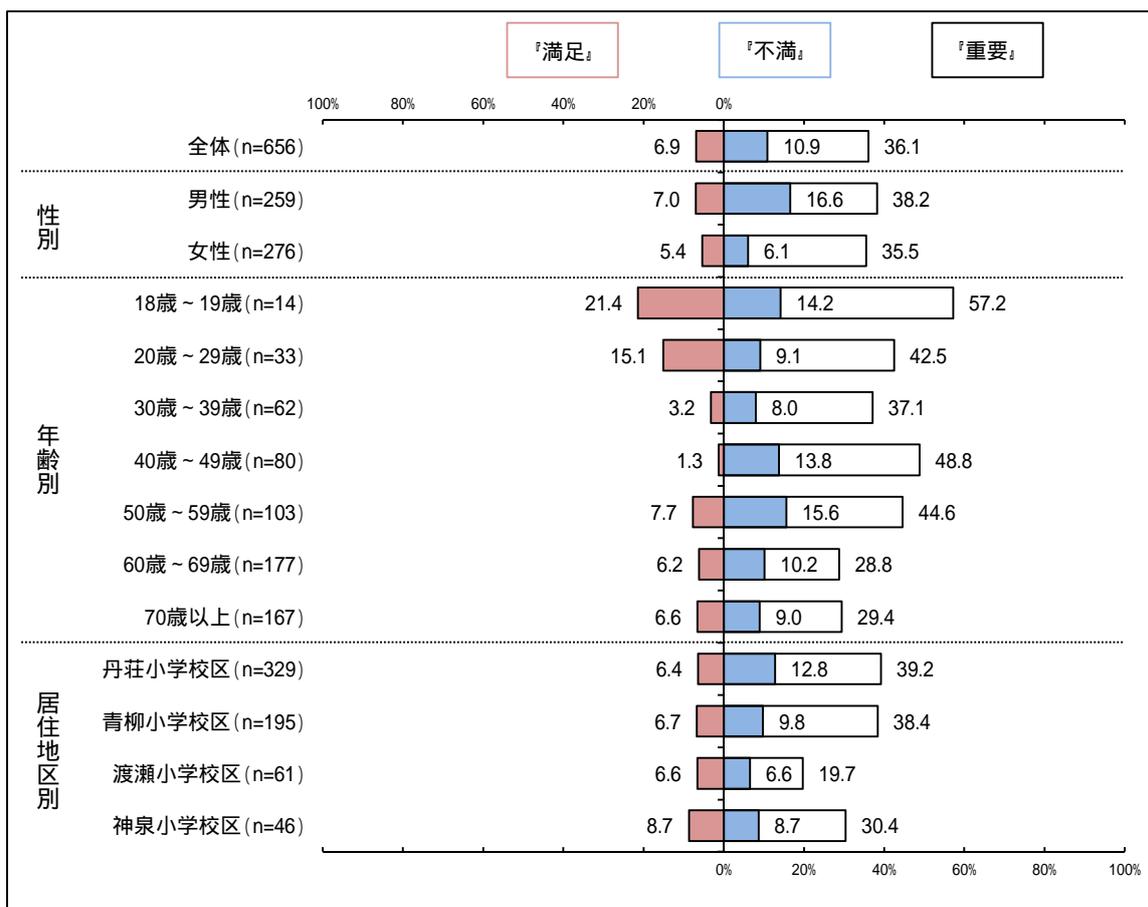
工業振興は、『不満』(10.9%)が『満足』(6.9%)をやや上回ります。

性別でみると、男性の『不満』(16.6%)が女性(6.1%)を上回ります。

年齢別でみると、18歳～19歳・20歳～29歳では『満足』(21.4%・15.1%)が他の年齢層に比べて比較的高くなっていますが、それ以外の年齢層では1割以下となっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『重要』(19.7%)が他の地区に比べて低くなっています。

工業振興 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

商業振興

『不満』『重要』が産業振興の中で最も高い。

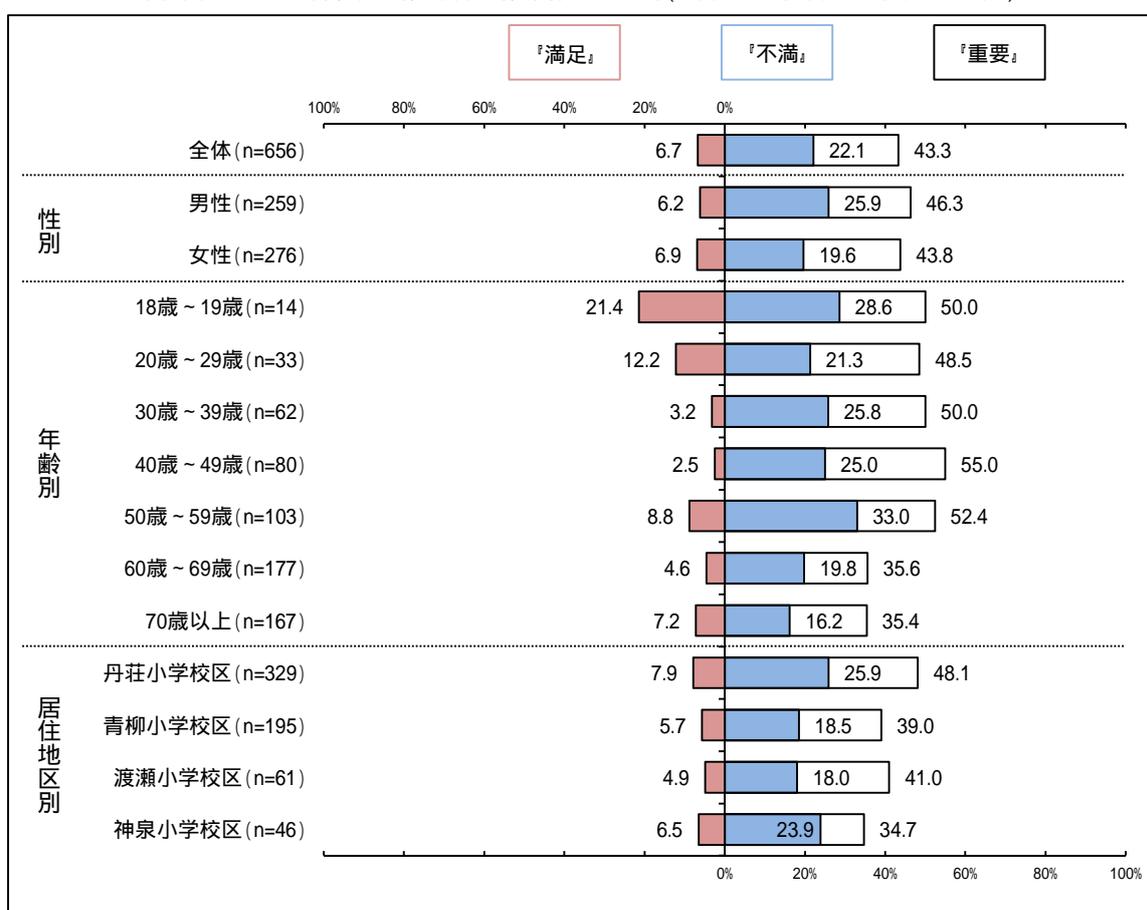
工商業振興は、『不満』(22.1%)、『重要』(43.3%)が産業振興の中で最も高くなっており、産業振興の中では最も対策が望まれる施策になっています。

性別でみると、男性の『不満』(25.9%)が女性(19.6%)を上回ります。

年齢別でみると、60歳～69歳・70歳以上では『重要』(35.6%・35.4%)が他の年齢層に比べて低くなっています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区では『重要』(48.1%)が他の地区に比べて比較的高くなっています。

商業振興 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

観光振興

『不満』が産業振興の中では商業振興に次いで高い。

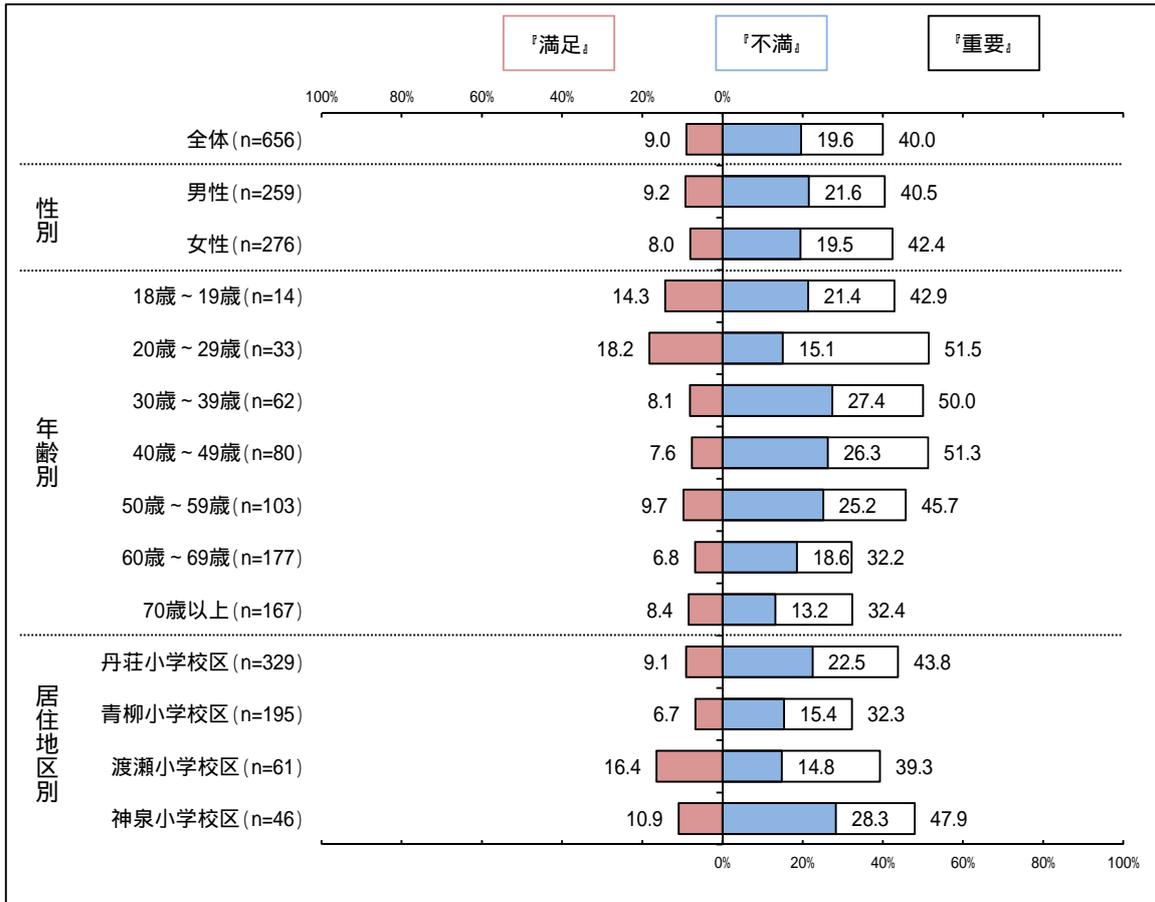
観光振興は、『不満』(19.6%)が産業振興の中では商業振興に次いで高くなっています。

性別でみると、全体と同様の傾向となっており、あまり差はみられません。

年齢別でみると、60歳～69歳・70歳以上では『重要』(32.2%・32.4%)が他の年齢層に比べて低くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(16.4%)が他の地区に比べて比較的高くなっています。一方、青柳小学校区では『重要』(32.3%)が比較的低くなっています。

観光振興 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

林業振興

『満足』『不満』『重要』すべてが産業振興の他の項目に比べて最も低い。

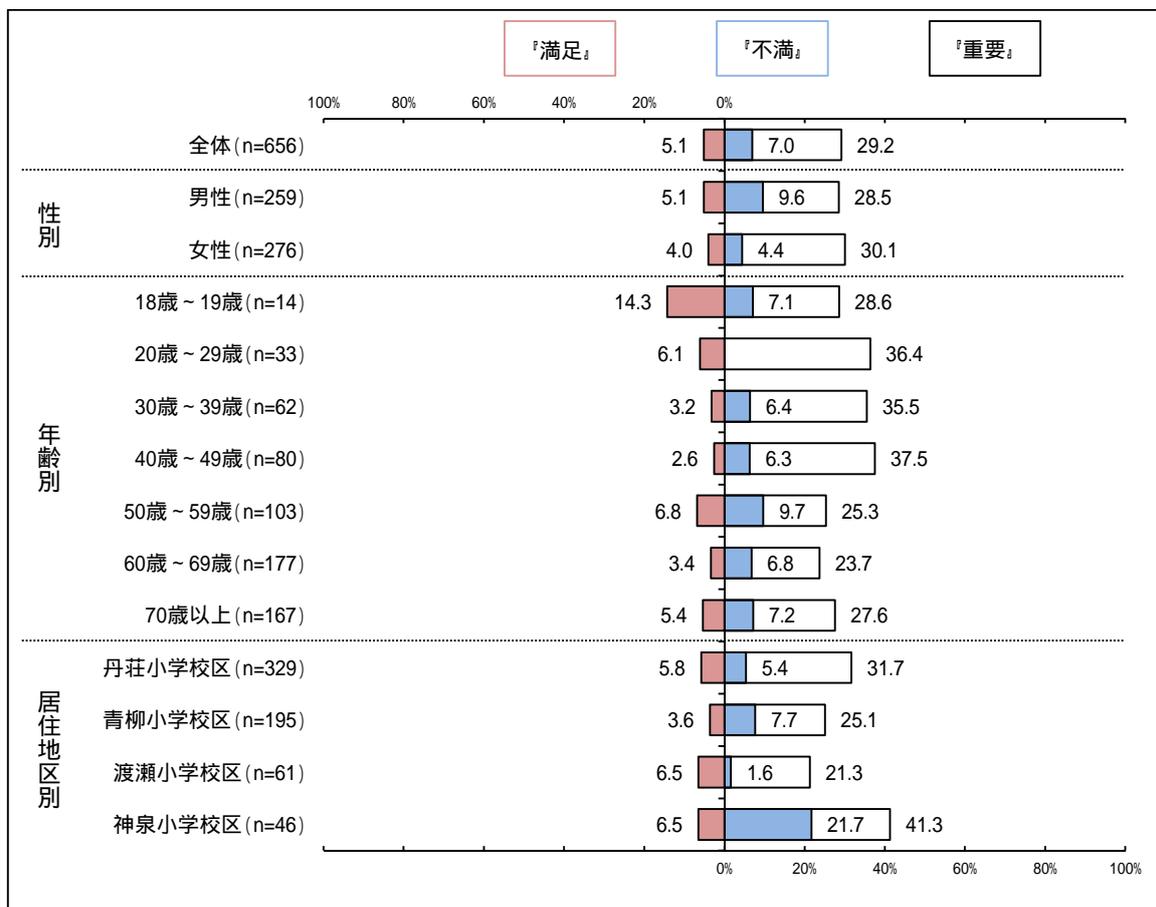
林業振興は、『満足』(5.1%)、『不満』(7.0%)、『重要』(29.2%)すべてが産業振興の他の項目に比べて最も低くなっています。

性別でみると、男性の『不満』(9.6%)が女性(4.4%)を上回ります。

年齢別でみると、18歳～19歳では『満足』(14.3%)が他の年齢層に比べて比較的高くなっていますが、それ以外の年齢層では1割以下となっています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(21.7%)、『重要』(41.3%)が他の地区に比べて高くなっています。

林業振興 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(4) 教育・文化

幼児教育

『満足』『不満』『重要』すべてが教育・文化の中で学校教育に次いで高い。

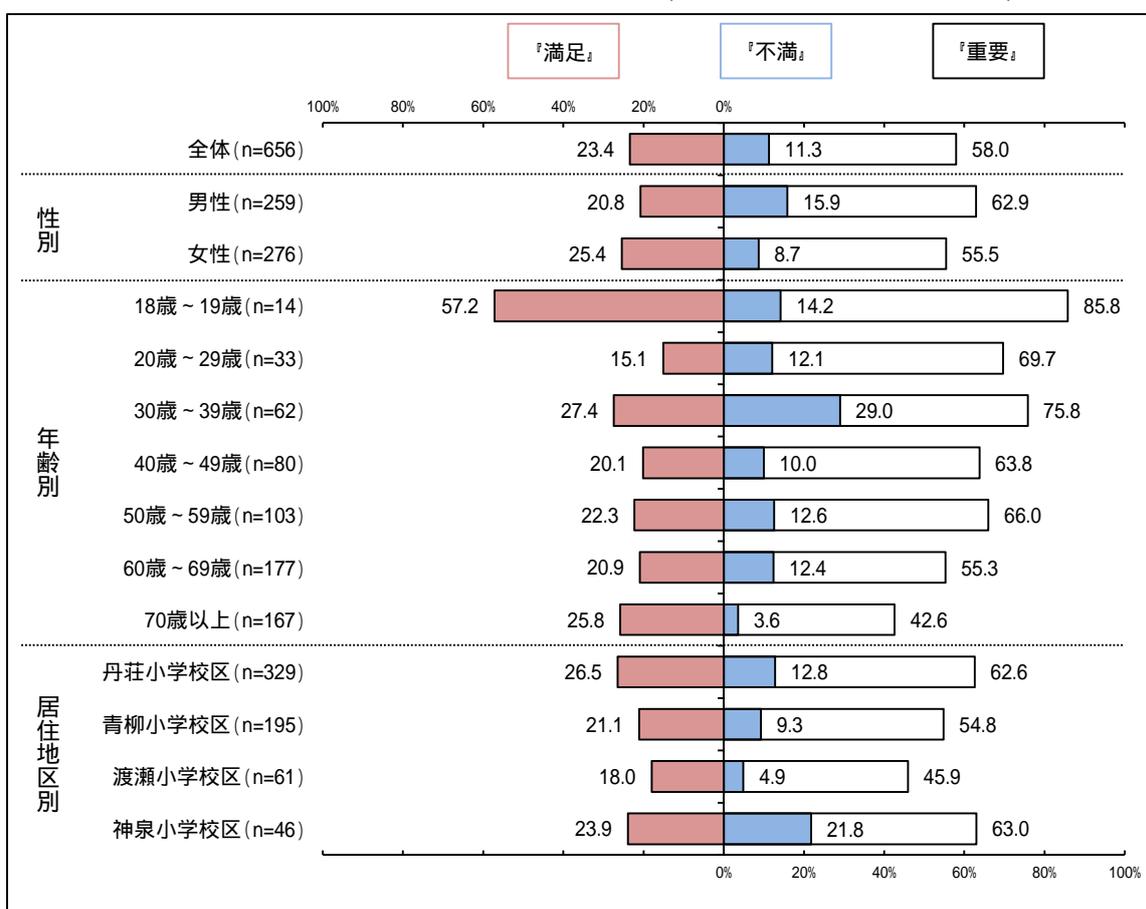
幼児教育は、『満足』(23.4%)、『不満』(11.3%)、『重要』(58.0%)すべてが教育・文化の中で学校教育に次いで高くなっています。

性別でみると、男性の『重要』(62.9%)、『不満』(15.9%)が女性を上回ります。

年齢別でみると、おおむね年齢層が上がるにつれて『重要』が減少する傾向がみられます。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(21.8%)が他の地区に比べて比較的高くなっています。

幼児教育 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

学校教育

『満足』『不満』『重要』すべてが教育・文化の中で最も高い。

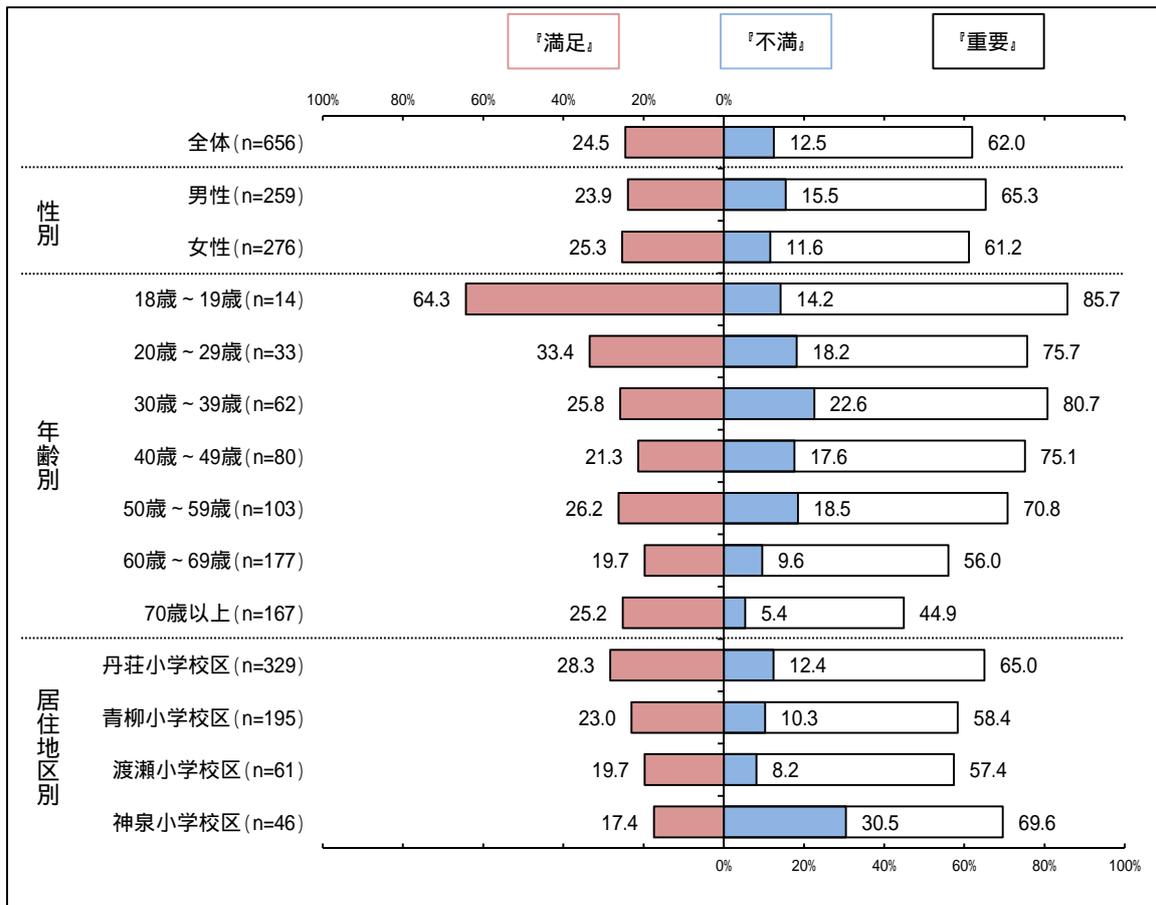
学校教育は、『満足』(24.5%)、『不満』(12.5%)、『重要』(62.0%)すべてが教育・文化の中で最も高くなっています。

性別でみると、男性の『不満』(15.5%)、『重要』(65.3%)が女性を上回ります。

年齢別でみると、おおむね年齢層が上がるにつれて『重要』が減少する傾向がみられます。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(30.5%)が他の地区に比べて高く、『満足』(17.4%)を上回ります。

学校教育 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

生涯学習環境

『満足』が『不満』を大きく上回る。

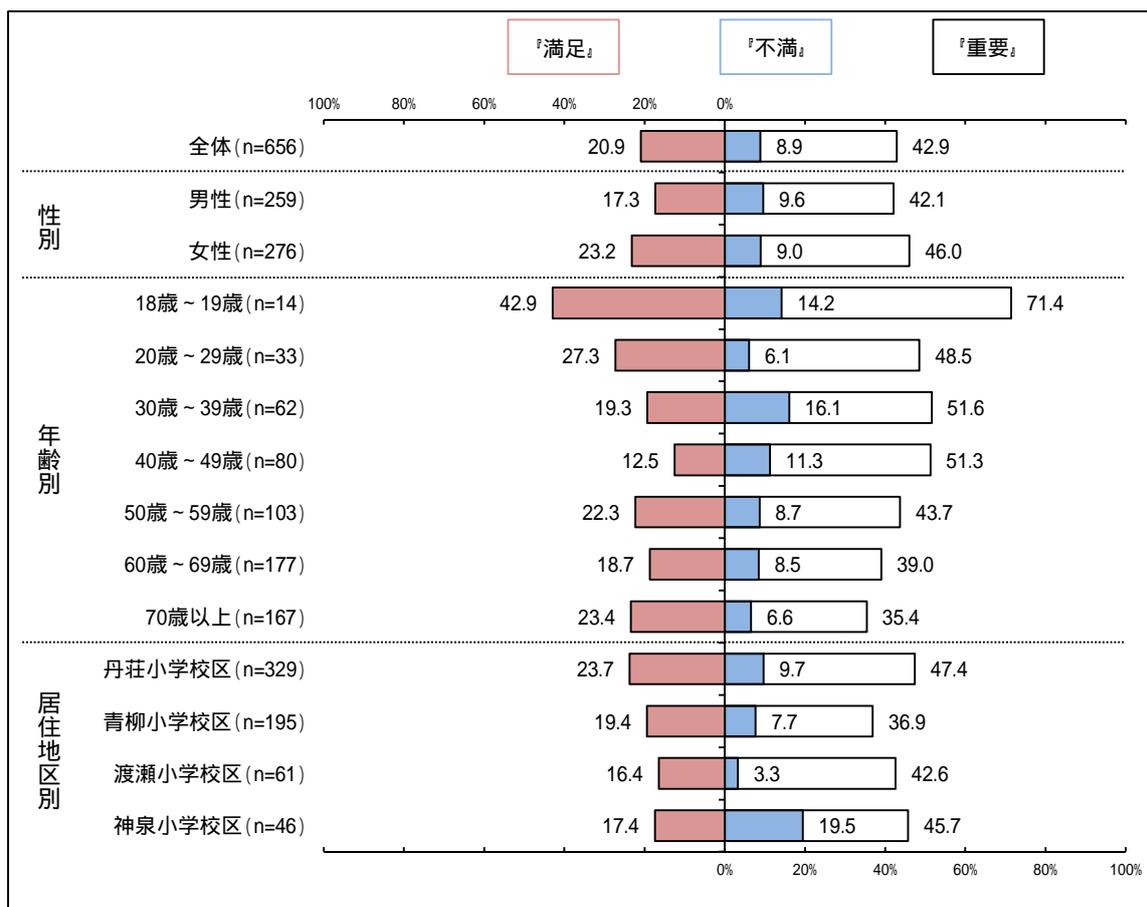
生涯学習環境は、『満足』(20.9%)が『不満』(8.9%)を大きく上回ります。

性別でみると、女性の『満足』(23.2%)、『重要』(46.0%)が男性を上回ります。

年齢別でみると、40歳～49歳では『満足』(12.5%)が他の年齢層に比べて比較的低くなっています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(19.5%)が他の地区に比べて高くなっています。

生涯学習環境 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

スポーツ振興

『満足』が『不満』を大きく上回る。

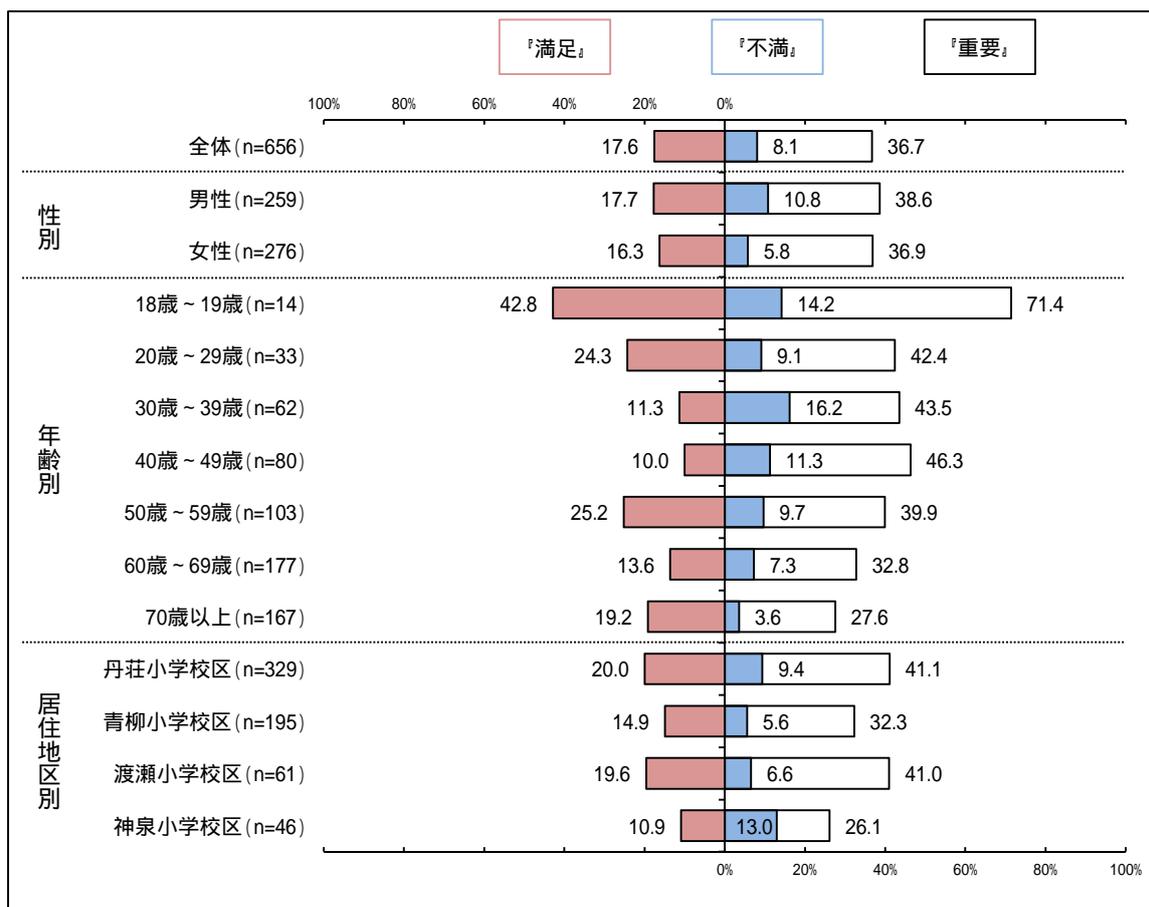
スポーツ振興は、『満足』(17.6%)が『不満』(8.1%)を上回ります。

性別でみると、男性の『不満』(10.8%)が女性(5.8%)を上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳・40歳～49歳・60歳～69歳では『満足』(11.3%・10.0%・13.6%)が他の年齢層に比べて比較的低くなっています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区・渡瀬小学校区では『重要』(41.1%・41.0%)が他の年齢層に比べて高くなっています。

スポーツ振興 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

歴史・文化の保全・活用

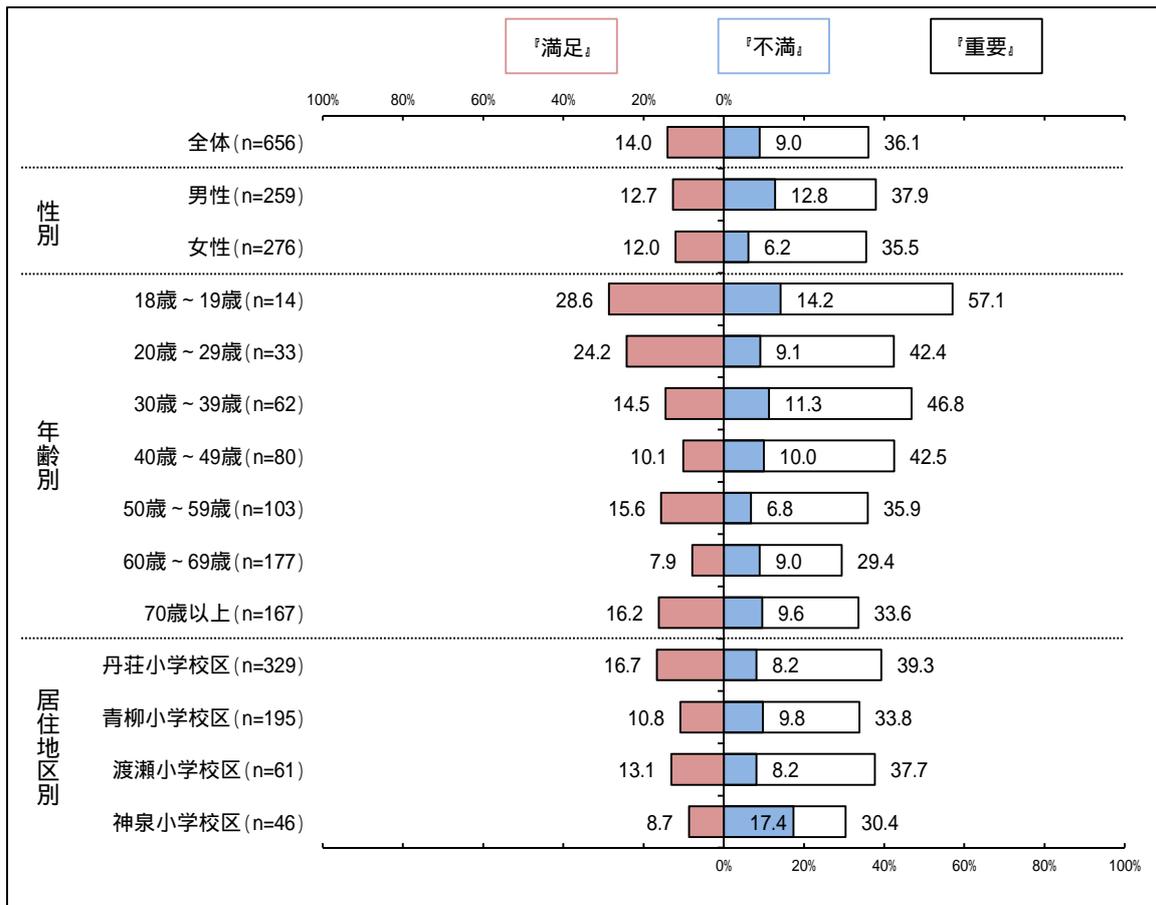
『重要』が教育・文化の中で最も低い。

歴史・文化の保全・活用は、『重要』(36.1%)が教育・文化の中で最も低くなっています。
性別でみると、男性の『不満』(12.8%)が女性(6.2%)を上回ります。

年齢別でみると、40歳~49歳・60歳~69歳では『満足』(10.1%・7.9%)が他の年齢層に比べて比較的低くなっています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(17.4%)が他の地区に比べて比較的高くなっています。

歴史・文化の保全・活用 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳~19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(5) 行財政・まちづくり

国際交流

『重要』が行政・まちづくりの中で最も低い。

行政・まちづくりの分野に属する項目は、『満足』『不満』の割合にあまり差がみられず、また、他の分野にくらべて比較的低くなっています。

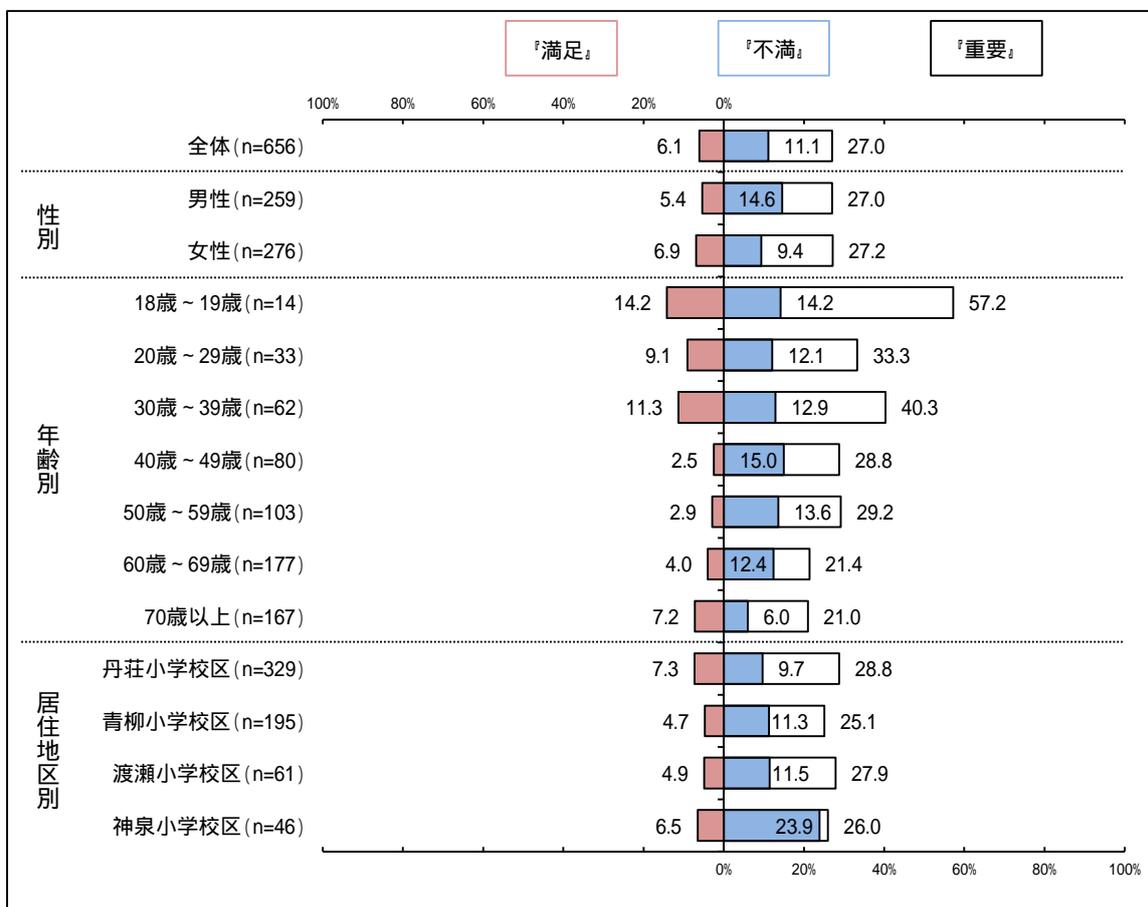
国際交流は、『重要』(27.0%)が行政・まちづくりの中で最も低くなっています。

性別でみると、男性の『不満』(14.6%)が女性(9.4%)を上回ります。

年齢別でみると、18歳～19歳では『重要』(57.2%)が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』(23.9%)が他の地区に比べて高くなっています。

国際交流 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



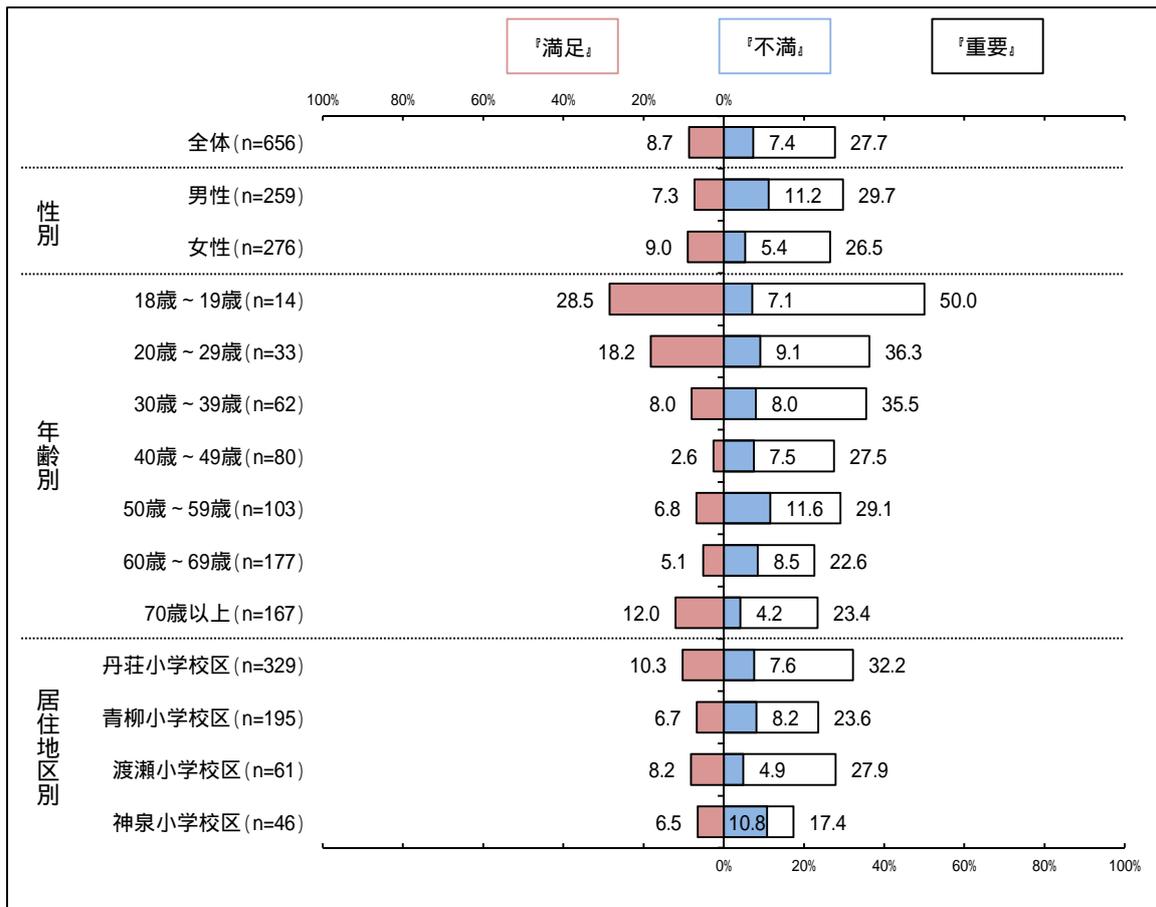
18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

男女共同参画

『不満』が行政・まちづくりの中で最も低い。

男女共同参画は、『不満』(7.4%)が行政・まちづくりの中で最も低くなっています。
 性別でみると、男性の『不満』(11.2%)が女性(5.4%)を上回ります。
 年齢別でみると、おおむね年齢層が上がるにつれて『重要』が減少する傾向がみられます。
 居住地区別でみると、神泉小学校区では『重要』(17.4%)が他の地区に比べて比較的低下しています。

男女共同参画 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

地域のインターネット環境

20歳～29歳では『満足』『不満』『重要』すべてが高い。

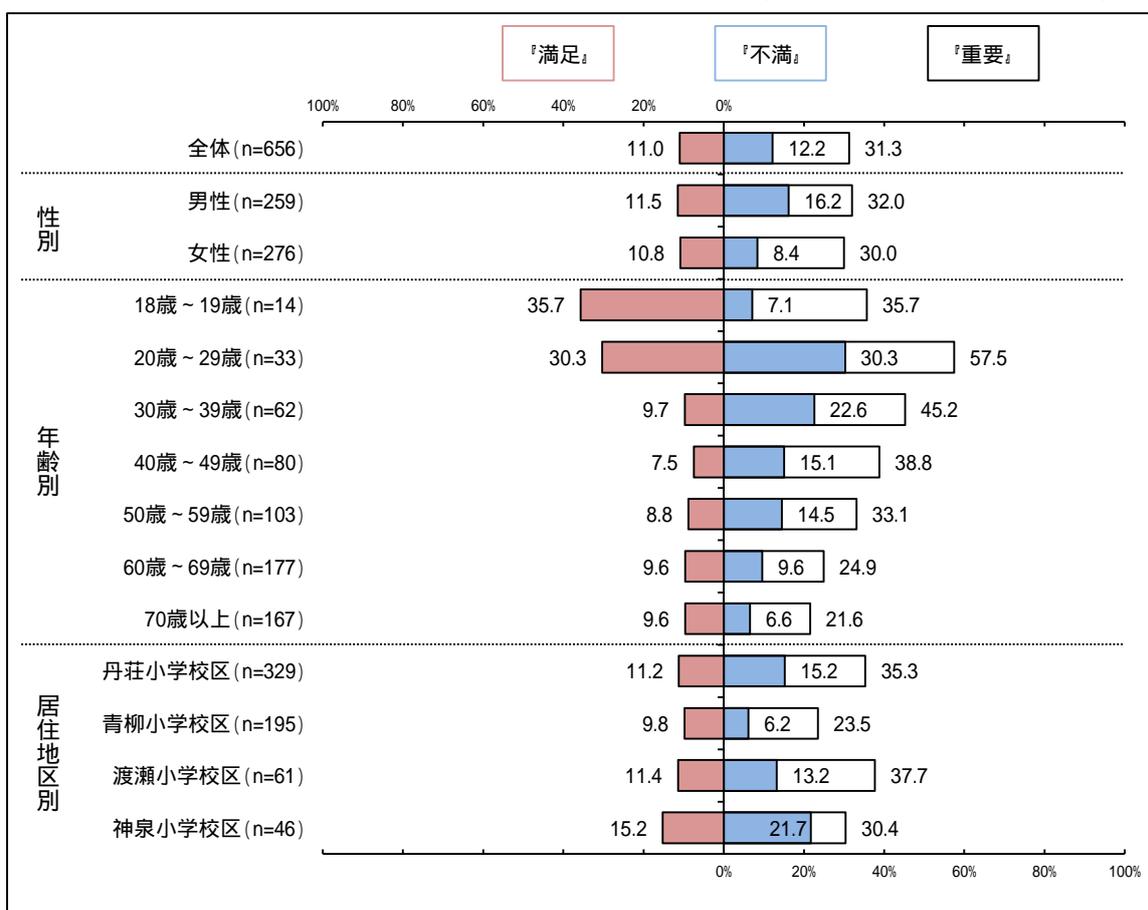
地域のインターネット環境は、『満足』(11.0%)と『不満』(12.2%)にあまり差はみられません。

性別でみると、男性の『不満』(16.2%)が女性(8.4%)を上回ります。

年齢別でみると、20歳～29歳では『満足』『不満』(同率30.3%)、『重要』(57.5%)すべてが他の年齢層に比べて比較的高くなっています。

居住地区別でみると、青柳小学校区では『不満』(6.2%)、『重要』(23.5%)が他の地区に比べて比較的低くなっています。

地域のインターネット環境 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

行財政運営

『重要』が行財政・まちづくりの中で最も高い。

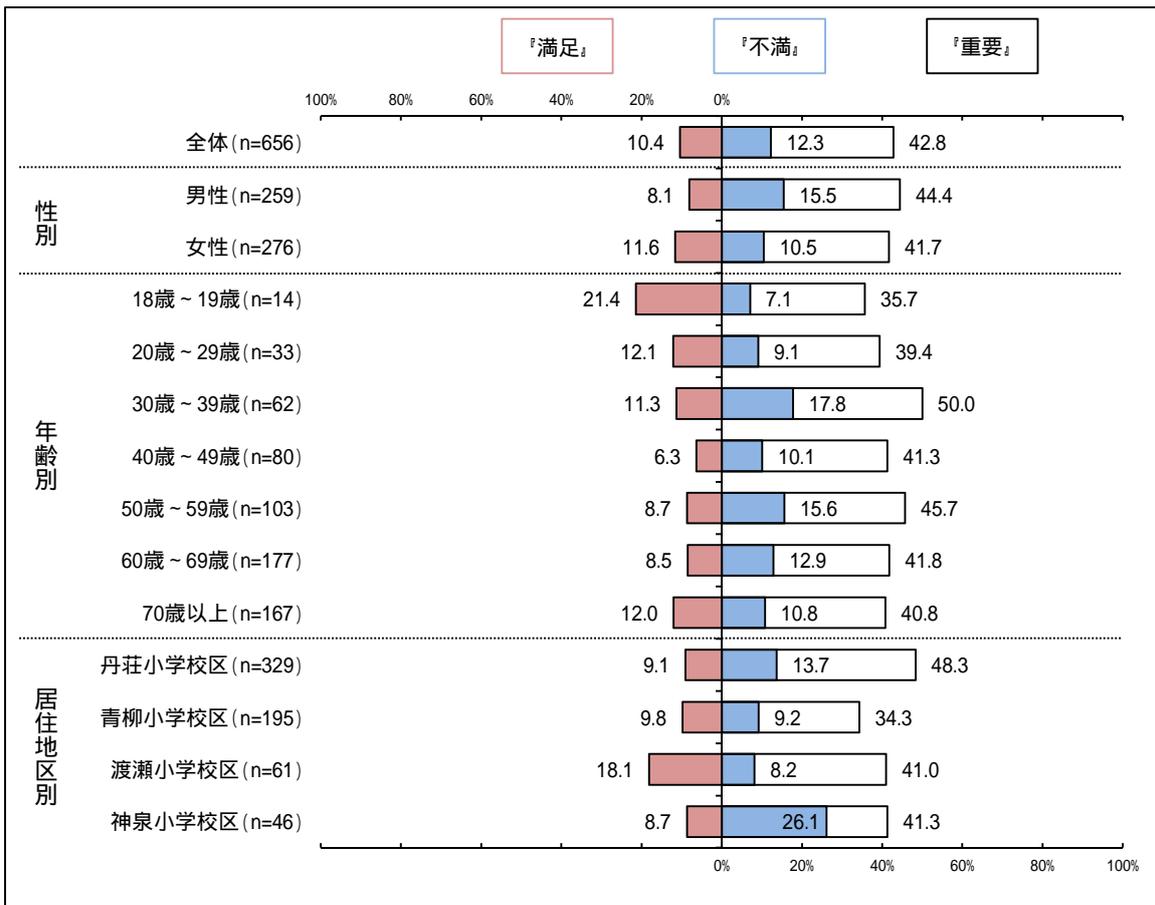
行財政運営は、『重要』(42.8%)が行財政・まちづくりの中で最も高くなっています。

性別でみると、男性の『不満』(15.5%)が女性(10.5%)を上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では『重要』(50.0%)が他の年齢層に比べて比較的高くなっています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区では『重要』(48.3%)、渡瀬小学校区では『満足』(18.1%)、神泉小学校区では『不満』(26.1%)が他の地区に比べて高くなっています。

行財政運営 / 全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

5 町政について

(1) 町政への関心度

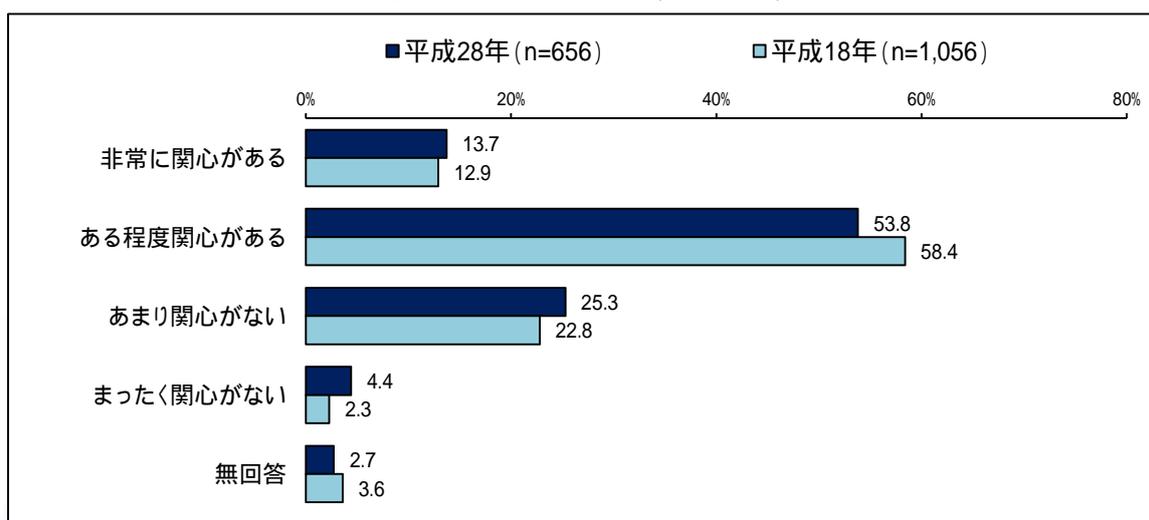
問2. 町政に関心がありますか。(1つに)

『関心がある』は67.5%。一方、『関心がない』は29.7%。

町政に関心があるかについて尋ねたところ、「ある程度関心がある」が53.8%で最も多く、これに「非常に関心がある」(13.7%)を合わせた『関心がある』は67.5%となっています。一方、『関心がない』(「あまり関心がない」25.3%及び「まったく関心がない」4.4%の合計)は29.7%となっています。

経年比較で『関心がない』をみると、平成28年(29.7%)は平成18年(25.1%)に比べてやや増加しており、わずかながらも町民の町政への関心度は上がっている結果となりました。

町政への関心度 / 全体(経年比較)



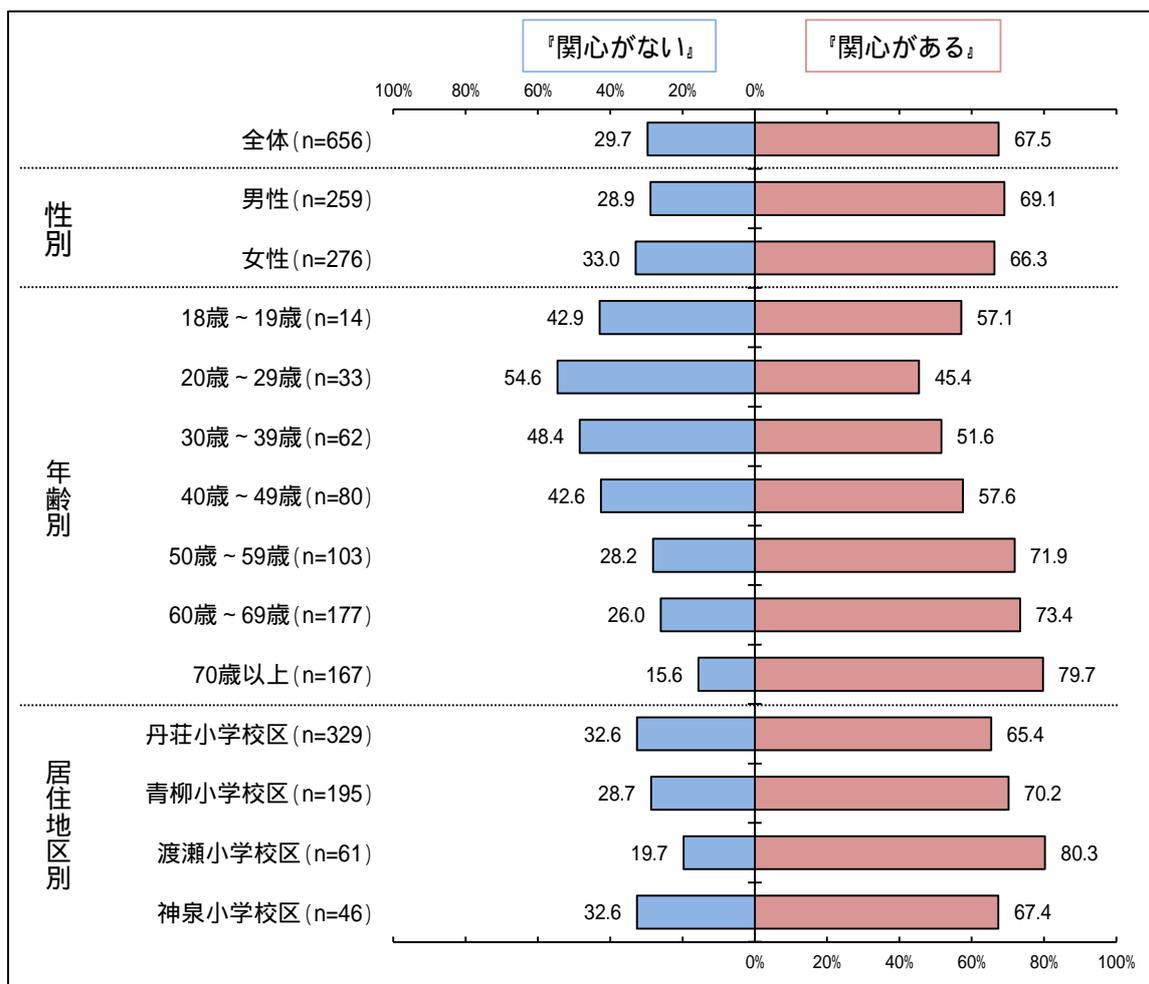
性別で見ると、女性の『関心がない』(33.0%)が男性(28.9%)をやや上回ります。

年齢別で『関心がある』をみると、おおむね年齢層が上がるにつれて増加する傾向がみられます。

居住地区別で『関心がある』をみると、渡瀬小学校区(80.3%)が他の地区に比べて高くなっています。

町政への関心度 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(『関心がある』と『関心がない』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(2) 町政に関する情報を得る手段

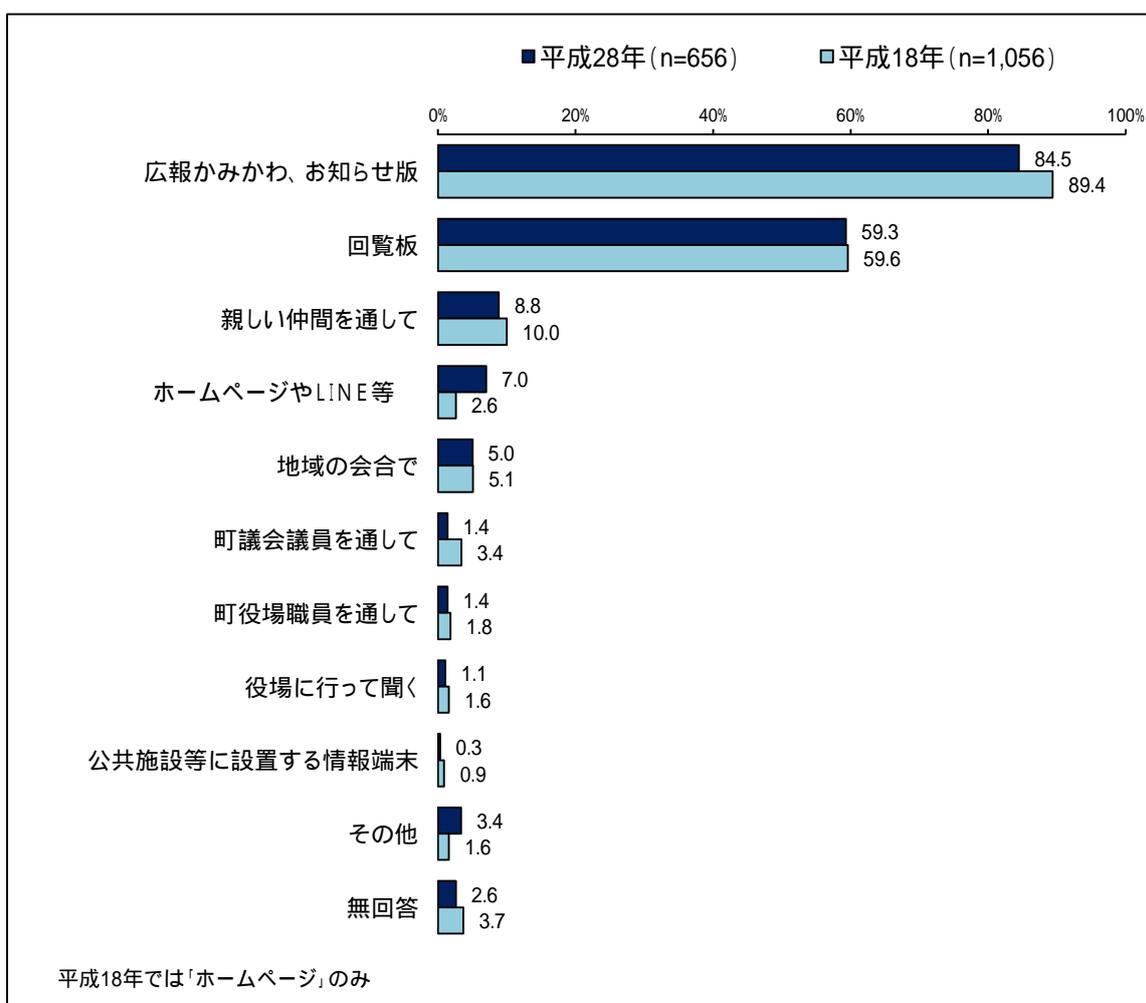
問3 . 町政に関する情報をどのようにして得ていますか。(2つまでに)

「広報かみかわ、お知らせ版」「回覧板」が情報を得るための二大手段。

町政に関する情報を得る手段について尋ねたところ、「広報かみかわ、お知らせ版」が84.5%で第1位に挙げられ、次いで「回覧板」(59.3%)が続き、これらが他を大きく引き離して二大手段となっています。

経年比較でみると、「広報かみかわ、お知らせ版」(84.5%)が平成18年(89.4%)に比べてやや減少している一方で、「ホームページやLINE等」(7.0%)が平成18年(2.6%)に比べてやや増加していますが、「ホームページやLINE等」は1割以下となっており、「広報かみかわ、お知らせ版」が8割以上を占める結果となっています。

町政に関する情報を得る手段 / 全体(経年比較)



性別でみると、全体と同様の傾向となっており、あまり差はみられません。

年齢別でみると、「ホームページやLINE等」は年齢層が上がるにつれて減少する傾向がみられます。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では「親しい仲間を通して」(16.4%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

町政に関する情報を得る手段 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位:%)

		n	広報がみかわ、お知らせ版	回覧板	親しい仲間を通して	町議会議員を通して	町役場職員を通して	地域の会などで	公共施設等に設置する情報端末	ホームページやLINE等	役場に行つて聞く	その他	無回答
全体		656	84.5	59.3	8.8	1.4	1.4	5.0	0.3	7.0	1.1	3.4	2.6
性別	男性	259	84.2	56.4	8.5	0.8	1.5	6.2	0.0	8.9	1.2	4.6	1.2
	女性	276	87.7	65.2	8.3	1.4	0.4	3.3	0.4	5.4	0.7	2.2	1.8
年齢別	18歳～19歳	14	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	78.8	63.6	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	15.2	0.0	9.1	3.0
	30歳～39歳	62	77.4	43.5	14.5	0.0	0.0	3.2	0.0	16.1	0.0	9.7	0.0
	40歳～49歳	80	86.3	68.8	5.0	0.0	2.5	1.3	1.3	6.3	1.3	1.3	1.3
	50歳～59歳	103	85.4	63.1	7.8	1.9	2.9	5.8	0.0	6.8	1.0	2.9	1.0
	60歳～69歳	177	92.1	67.2	6.2	1.7	0.0	6.8	0.6	4.0	0.6	2.8	0.6
	70歳以上	167	85.0	52.7	15.6	2.4	1.8	6.6	0.0	3.0	1.8	1.8	2.4
居住地区別	丹荘小学校区	329	83.3	58.7	8.2	1.8	1.8	6.1	0.3	8.2	1.2	3.0	1.5
	青柳小学校区	195	87.7	62.6	9.2	1.5	1.5	4.1	0.5	5.6	1.0	4.1	0.5
	渡瀬小学校区	61	91.8	62.3	16.4	0.0	0.0	1.6	0.0	3.3	0.0	4.9	0.0
	神泉小学校区	46	93.5	56.5	6.5	0.0	0.0	6.5	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(3) 町政に関する情報は十分か

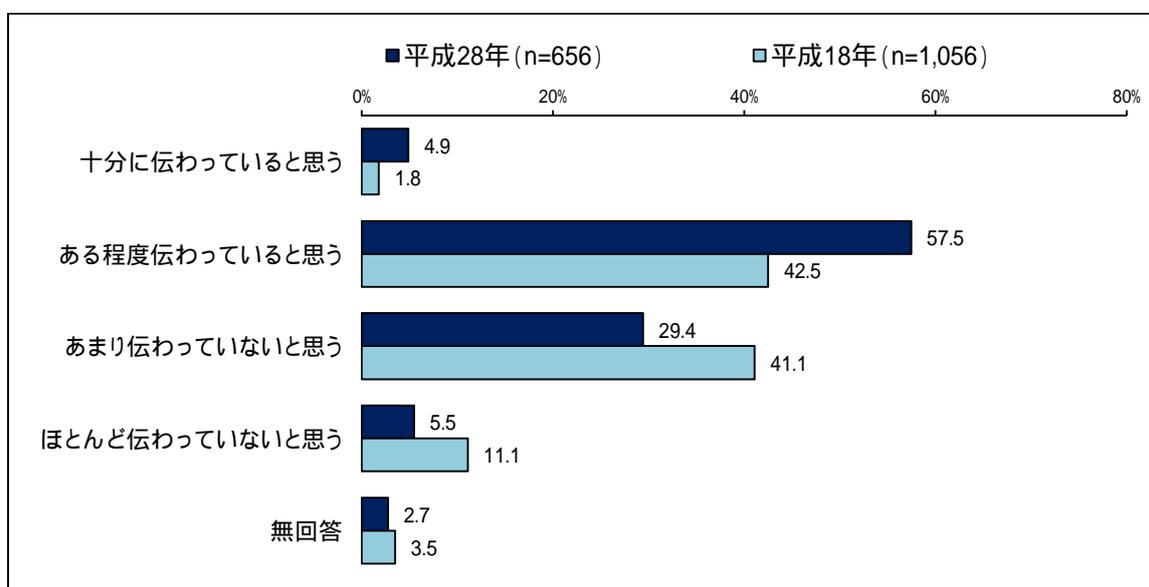
問4. 町政に関する情報が十分伝わっていますか。(1つに)

『伝わっている』は62.4%。一方、『伝わっていない』は34.9%。

町政に関する情報が十分伝わっているかについて尋ねたところ、「ある程度伝わっていると思う」が57.5%で最も多く、これに「十分に伝わっていると思う」(4.9%)を合わせた『伝わっている』は62.4%となっています。一方、『伝わっていない』(「あまり伝わっていないと思う」29.4%及び「ほとんど伝わっていないと思う」5.5%の合計)は34.9%となっています。

経年比較で『伝わっている』をみると、平成28年(62.4%)は平成18年(44.3%)に比べて18.1ポイント増加しており、情報の伝達力が向上していることがうかがえます。

町政に関する情報は十分か / 全体(経年比較)

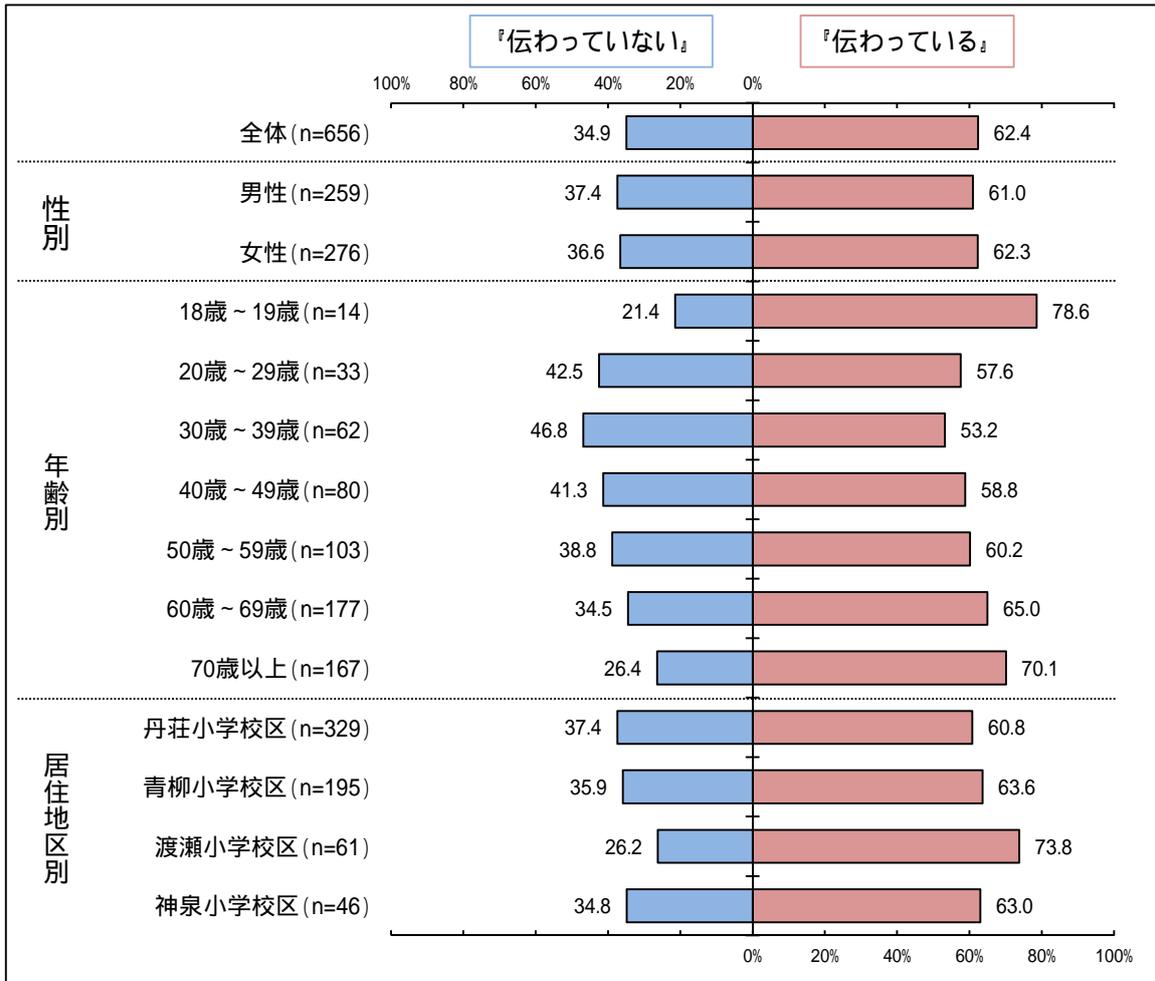


性別で『伝わっている』『伝わっていない』をみると、全体と同様の傾向となっており、あまり差はみられません。

年齢別で『伝わっている』をみると、おおむね年齢層が上がるにつれて『伝わっている』が増加する傾向がみられます。

居住地区別で『伝わっている』をみると、渡瀬小学校区（73.8%）が他の地区に比べて高くなっています。

町政に関する情報は十分か / 全体、性別、年齢別、居住地区別
 (『伝わっている』と『伝わっていない』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

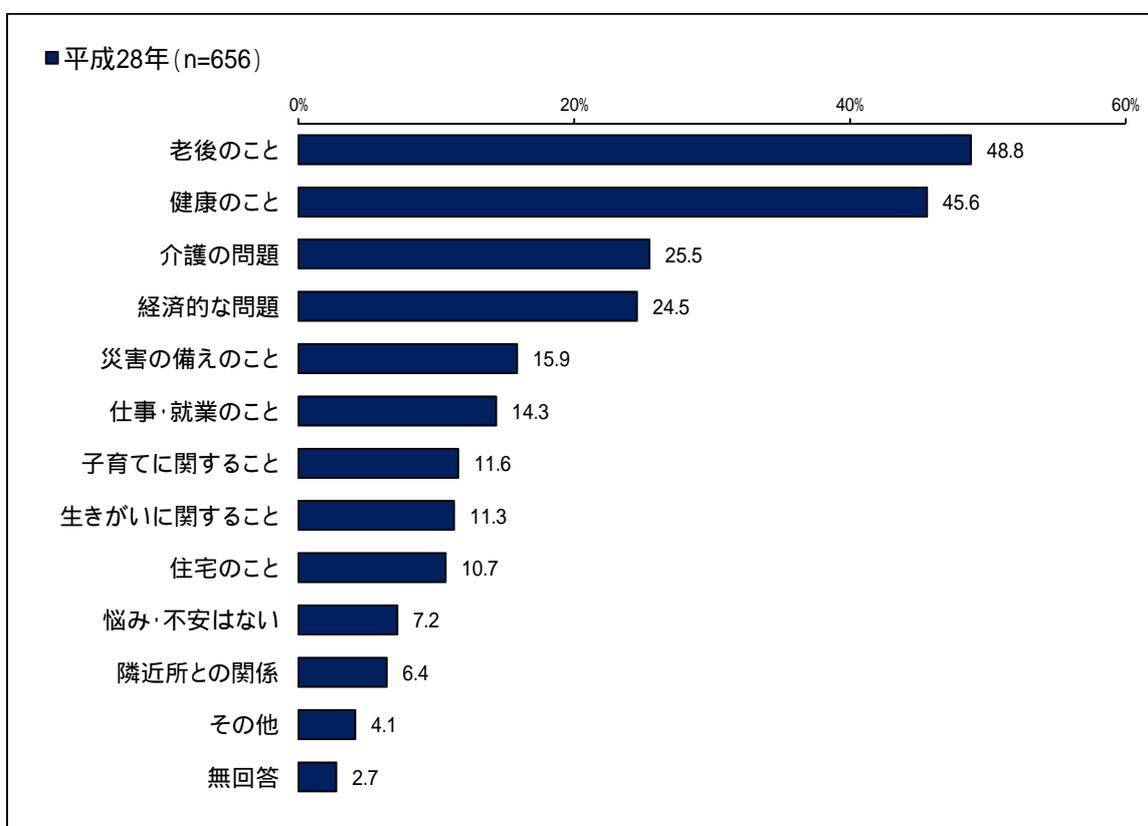
(4) 日々の生活での悩み・不安

問5. 日々の生活の中でどのような悩みや不安がありますか。(複数回答可)

「老後のこと」「健康のこと」が4割以上を占める。

日々の生活の中でどのような悩みや不安があるかについて尋ねたところ、「老後のこと」が48.8%で第1位に挙げられ、次いで「健康のこと」(45.6%)が続き、以下「介護の問題」(25.5%)、「経済的な問題」(24.5%)等の順となっています。上位項目から、進む高齢化社会への不安がうかがえます。

日々の生活での悩み・不安 / 全体



性別でみると、男性では「健康のこと」(44.4%)、女性では「老後のこと」(58.3%)が第1位に挙げられています。

年齢別でみると、18歳～19歳では「災害の備えのこと」「悩み・不安はない」(同率35.7%)、20歳～29歳では「仕事・就業のこと」(42.4%)、30歳～39歳では「子育てに関すること」(45.2%)、40歳～49歳・50歳～59歳では「老後のこと」(43.8%・68.0%)、60歳～69歳・70歳以上では「健康のこと」(53.1%・58.7%)が第1位に挙げられています。

居住地区別でみると、青柳小学校区では「健康のこと」(53.8%)、それ以外の地区では「老後のこと」が第1位に挙げられています。また、丹荘小学校区・青柳小学校区では「経済的な問題」(27.4%・24.6%)が他の地区と比べて比較的多くなっています。

日々の生活での悩み・不安 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	健康のこと	生きがいに 関すること	介護の問題	隣近所との関係	住居のこと	老後のこと	子育てに 関すること
全体		656	45.6	11.3	25.5	6.4	10.7	48.8	11.6
性別	男性	259	44.4	11.6	28.2	7.3	9.7	40.9	12.7
	女性	276	48.2	9.8	25.0	6.2	12.0	58.3	12.3
年齢別	18歳～19歳	14	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0
	20歳～29歳	33	27.3	21.2	12.1	6.1	18.2	33.3	24.2
	30歳～39歳	62	30.6	4.8	14.5	11.3	22.6	38.7	45.2
	40歳～49歳	80	36.3	8.8	27.5	8.8	13.8	43.8	27.5
	50歳～59歳	103	44.7	11.7	28.2	5.8	10.7	68.0	9.7
	60歳～69歳	177	53.1	15.8	25.4	6.2	9.0	52.5	2.8
	70歳以上	167	58.7	9.0	33.5	4.8	6.0	47.3	0.6
居住地区別	丹荘小学校区	329	42.6	10.9	24.6	6.1	12.2	47.7	14.3
	青柳小学校区	195	53.8	13.8	25.6	6.7	11.8	52.3	9.2
	渡瀬小学校区	61	49.2	3.3	29.5	6.6	6.6	59.0	8.2
	神泉小学校区	46	28.3	13.0	23.9	10.9	6.5	34.8	13.0

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(単位: %)

		n	経済的な問題	仕事就業のこと	災害の 備えのこと	悩み不安はない	その他	無回答
全体		656	24.5	14.3	15.9	7.2	4.1	2.7
性別	男性	259	23.2	15.4	15.4	6.9	5.0	0.8
	女性	276	25.7	14.5	17.4	5.4	2.9	2.5
年齢別	18歳～19歳	14	21.4	28.6	35.7	35.7	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	33.3	42.4	9.1	12.1	3.0	0.0
	30歳～39歳	62	37.1	29.0	22.6	3.2	6.5	0.0
	40歳～49歳	80	27.5	22.5	22.5	5.0	5.0	0.0
	50歳～59歳	103	27.2	21.4	20.4	5.8	5.8	0.0
	60歳～69歳	177	24.3	6.8	13.0	9.0	4.5	1.7
	70歳以上	167	16.8	3.0	10.8	6.0	2.4	3.6
居住地区別	丹荘小学校区	329	27.4	14.9	16.7	7.9	4.3	1.5
	青柳小学校区	195	24.6	18.5	15.9	5.6	4.1	0.5
	渡瀬小学校区	61	19.7	4.9	19.7	6.6	3.3	1.6
	神泉小学校区	46	17.4	10.9	13.0	13.0	6.5	2.2

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(5) まちへの意見・要望を伝える手段

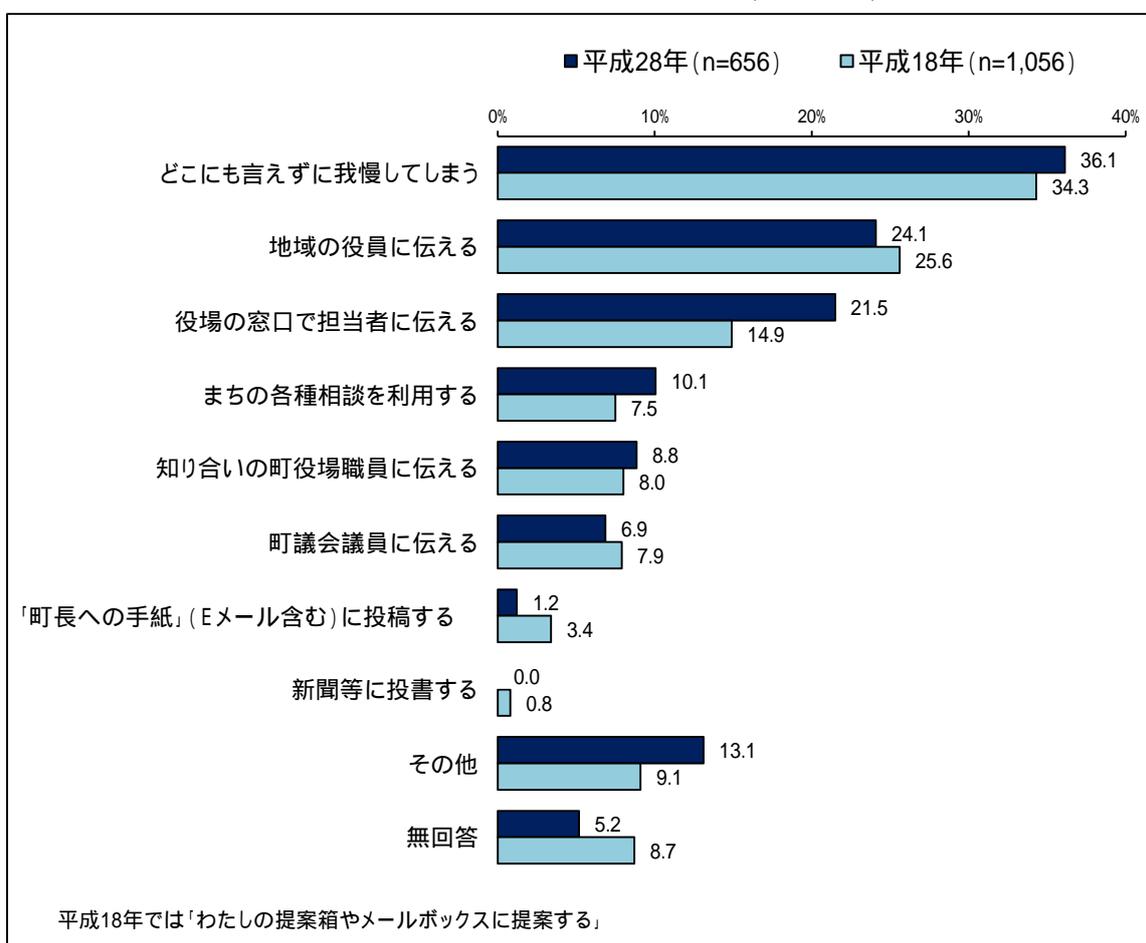
問6. まちに対する意見や要望をどのように伝えていますか。(2つまでに)

「どこにも言えずに我慢してしまう」が第1位。次いで「地域の役員に伝える」が続き、以下「役場の窓口で担当者に伝える」等の順。

まちに対する意見や要望をどのように伝えているのかについて尋ねたところ、「どこにも言えずに我慢してしまう」が36.1%で第1位に挙げられ、次いで「地域の役員に伝える」(24.1%)が続き、以下「役場の窓口で担当者に伝える」(21.5%)、「まちの各種相談を利用する」(10.1%)等の順となっています。

経年比較でみると、「役場の窓口で担当者に伝える」(21.5%)が平成18年(14.9%)に比べて6.6ポイント増加しており、町民が相談しやすい役場になってきているといえます。

まちへの意見・要望を伝える手段 / 全体(経年比較)



性別で見ると、男性では「知り合いの町役場職員に伝える」(11.2%)等が女性を上回ります。

年齢別で見ると、60歳～69歳・70歳以上では「地域の役員に伝える」(33.3%・31.7%)が第1位に挙げられています。また、60歳～69歳・70歳以上では「役場の窓口で担当者に伝える」(24.9%・30.5%)が他の年齢層に比べて比較的多くなっています。

居住地区別で見ると、渡瀬小学校区では「地域の役員に伝える」(32.8%) それ以外の地区では「どこにも言えずに我慢してしまう」が最も多くなっています。また、青柳小学校区・神泉小学校区では「役場の窓口で担当者に伝える」(25.6%・32.6%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

まちへの意見・要望を伝える手段 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	役場の窓口で担当者に伝える	まちの各種相談を利用する	地域の役員に伝える	町議会議員に伝える	知り合いの町役場職員に伝える	町長への手紙(メールも含む)に投稿する	新聞等に投書する	どこにも言えずに我慢してしまう	その他	無回答
全体		656	21.5	10.1	24.1	6.9	8.8	1.2	0.0	36.1	13.1	5.2
性別	男性	259	25.1	8.1	26.3	8.5	11.2	0.8	0.0	36.7	11.2	3.1
	女性	276	20.7	12.3	22.1	4.7	5.8	1.4	0.0	37.3	14.9	4.7
年齢別	18歳～19歳	14	0.0	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	35.7	35.7	7.1
	20歳～29歳	33	12.1	3.0	3.0	0.0	6.1	3.0	0.0	57.6	18.2	3.0
	30歳～39歳	62	12.9	4.8	6.5	0.0	9.7	0.0	0.0	64.5	19.4	1.6
	40歳～49歳	80	17.5	8.8	17.5	6.3	10.0	1.3	0.0	53.8	8.8	1.3
	50歳～59歳	103	17.5	9.7	24.3	8.7	12.6	1.9	0.0	37.9	15.5	0.0
	60歳～69歳	177	24.9	10.7	33.3	6.8	6.8	1.7	0.0	31.1	10.2	4.0
	70歳以上	167	30.5	13.8	31.7	11.4	9.0	0.6	0.0	19.2	10.8	8.4
居住地区別	丹荘小学校区	329	18.8	9.4	23.4	6.7	7.0	1.2	0.0	41.9	10.9	4.6
	青柳小学校区	195	25.6	11.8	25.6	6.7	10.8	1.5	0.0	30.8	16.4	3.1
	渡瀬小学校区	61	18.0	14.8	32.8	6.6	8.2	0.0	0.0	24.6	19.7	3.3
	神泉小学校区	46	32.6	4.3	17.4	8.7	17.4	2.2	0.0	37.0	8.7	2.2

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

6 分野ごとの力を入れるべき事業

(1) 保健福祉

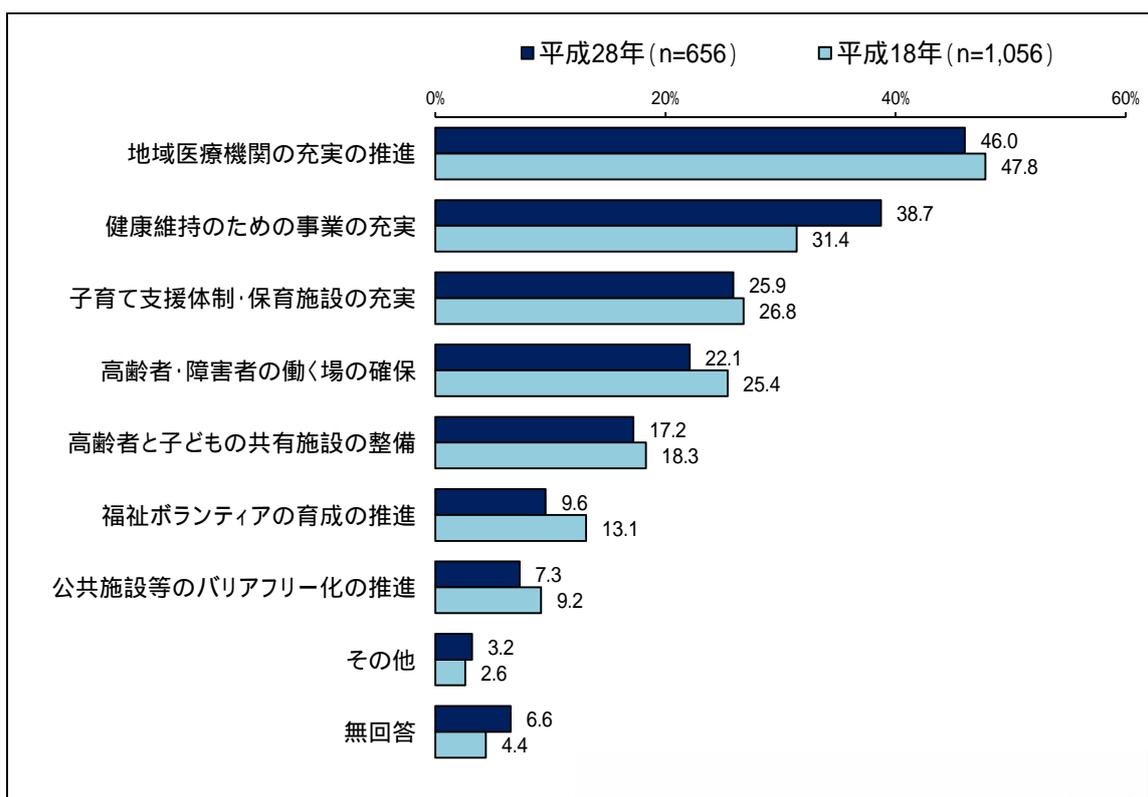
問8. 保健・医療・福祉を充実させるために、今後、特に力を入れるべき事業はなんですか。
(2つまでに)

「地域医療機関の充実の推進」が第1位。次いで「健康維持のための事業の充実」が続く。

保健・医療・福祉を充実させるために、特に力を入れるべき事業について尋ねたところ、「地域医療機関の充実の推進」が46.0%で第1位に挙げられ、次いで「健康維持のための事業の充実」(38.7%)が続き、以下「子育て支援体制・保育施設の充実」(25.9%)、「高齢者・障害者の働く場の確保」(22.1%)等の順となっています。

経年比較でみると、「健康維持のための事業の充実」(38.7%)が平成18年(31.4%)に比べて7.3ポイント増加しています。

保健福祉 / 全体(経年比較)



性別でみると、男性では「子育て支援体制・保育施設の充実」(28.6%)等が女性(23.2%)を上回ります。

年齢別でみると、30歳～39歳では「子育て支援体制・保育施設の充実」(54.8%)、70歳以上では「健康維持のための事業の充実」(46.7%)が他の年齢層に比べて比較的高くなっています。

世帯別でみると、すべての層で「地域医療機関の充実の推進」「健康維持のための事業の充実」が上位に挙げられています。また、三世帯(親・子・孫)では「子育て支援体制・保育施設の充実」(37.8%)が他の世帯に比べて比較的多くなっています。

居住地区別でみると、すべての地区で「地域医療機関の充実の推進」「健康維持のための事業の充実」が上位に挙げられています。

保健福祉/全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位:%)

		n	健康維持のための事業の充実	地域医療機関の充実の推進	高齢者・障害者の働く場の確保	子育て支援体制・保育施設の充実	高齢者と子どもの共有施設の整備	福祉ボランティアの育成の推進	公共施設等のバリアフリー化の推進	その他	無回答
全体		656	38.7	46.0	22.1	25.9	17.2	9.6	7.3	3.2	6.6
性別	男性	259	40.2	45.9	20.1	28.6	18.1	8.9	5.0	4.6	5.0
	女性	276	39.1	43.8	23.9	23.2	19.2	9.8	9.8	2.5	6.5
年齢別	18歳～19歳	14	35.7	28.6	35.7	28.6	7.1	14.3	28.6	7.1	0.0
	20歳～29歳	33	33.3	54.5	24.2	48.5	6.1	6.1	12.1	0.0	3.0
	30歳～39歳	62	27.4	43.5	14.5	54.8	17.7	4.8	8.1	4.8	0.0
	40歳～49歳	80	36.3	51.3	21.3	30.0	22.5	7.5	6.3	5.0	1.3
	50歳～59歳	103	40.8	52.4	34.0	25.2	15.5	9.7	4.9	2.9	1.0
	60歳～69歳	177	39.5	45.2	20.9	22.6	18.6	8.5	5.6	2.8	9.0
	70歳以上	167	46.7	41.9	17.4	11.4	18.0	13.2	8.4	3.0	12.0
世帯別	ひとり暮らし	56	48.2	48.2	23.2	7.1	17.9	12.5	5.4	1.8	12.5
	夫婦	174	43.1	49.4	19.0	21.3	16.7	7.5	9.2	3.4	6.9
	二世帯(親・子)	291	34.0	46.0	26.8	30.2	19.2	7.9	7.6	3.8	4.1
	三世帯(親・子・孫)	74	40.5	39.2	12.2	37.8	17.6	14.9	8.1	1.4	4.1
	その他	42	47.6	45.2	19.0	14.3	9.5	14.3	0.0	2.4	11.9
居住地区別	丹荘小学校区	329	35.6	45.0	21.6	31.0	17.3	7.0	7.6	4.0	7.3
	青柳小学校区	195	45.1	46.2	22.6	21.0	19.5	11.8	7.2	2.1	4.1
	渡瀬小学校区	61	36.1	47.5	29.5	19.7	9.8	14.8	8.2	1.6	4.9
	神泉小学校区	46	47.8	47.8	17.4	17.4	21.7	13.0	4.3	4.3	6.5

網かけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(2) 都市基盤

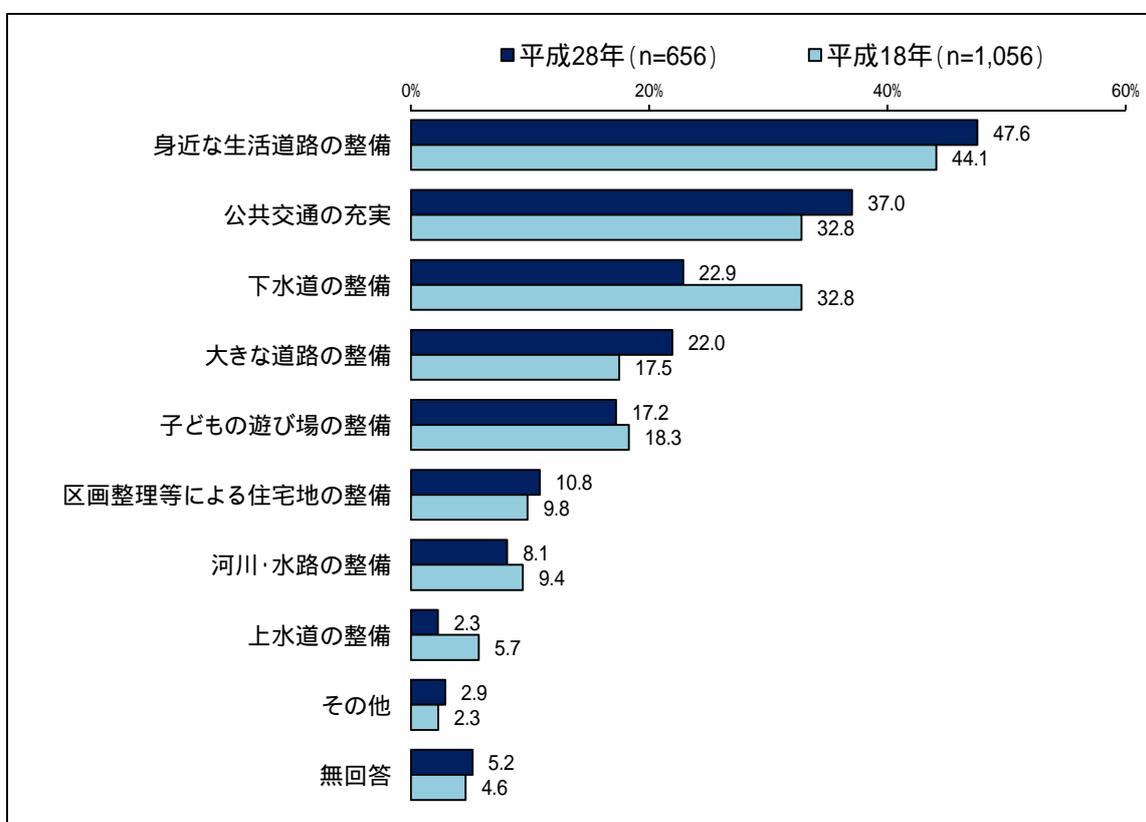
問12. 都市基盤の整備を図るために、今後、特に力を入れるべき事業はなんですか。
(2つまでに)

「身近な生活道路の整備」が第1位。次いで「公共交通の充実」が続く。

都市基盤の整備を図るために、今後、特に力を入れるべき事業について尋ねたところ、「身近な生活道路の整備」が47.6%で第1位に挙げられ、次いで「公共交通の充実」(37.0%)が続き、以下「下水道の整備」(22.9%)、「大きな道路の整備」(22.0%)等の順となっています。

経年比較で上位2項目をみると、平成18年に比べて増加しています。一方、「下水道の整備」(22.9%)が平成18年(32.8%)に比べて9.9ポイント減少しています。

都市基盤 / 全体(経年比較)



性別でみると、男性では「大きな道路の整備」(26.6%)等が女性を上回ります。

年齢別でみると、18歳～19歳・40歳～49歳では「公共交通の充実」(92.9%・52.5%)、30歳～39歳では「子どもの遊び場の整備」(50.0%)、それ以外の年齢層では「身近な生活道路の整備」が第1位に挙げられています。

世帯別でみると、三世帯(親・子・孫)では「公共交通の充実」(41.9%)、それ以外の世帯では「身近な生活道路の整備」が第1位に挙げられています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区・青柳小学校区では「身近な生活道路の整備」(47.7%・52.3%)、渡瀬小学校区・神泉小学校区では「公共交通の充実」(47.5%・56.5%)が第1位に挙げられています。また、丹荘小学校区・青柳小学校区では「下水道の整備」(26.7%・22.1%)、渡瀬小学校区・神泉小学校区では「河川・水路の整備」(16.4%・13.0%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

都市基盤/全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位:%)

		n	大きな道路の整備	身近な生活道路の整備	公共交通の充実	河川水路の整備	下水道の整備	上水道の整備	子どもの遊び場の整備	区画整理等による住宅地の整備	その他	無回答
全体		656	22.0	47.6	37.0	8.1	22.9	2.3	17.2	10.8	2.9	5.2
性別	男性	259	26.6	45.9	34.7	8.1	22.0	1.5	15.8	12.4	3.9	4.6
	女性	276	18.5	51.1	40.6	7.2	24.6	2.5	19.2	7.2	2.5	3.6
年齢別	18歳～19歳	14	14.3	42.9	92.9	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	24.2	54.5	48.5	0.0	12.1	0.0	21.2	3.0	0.0	3.0
	30歳～39歳	62	12.9	38.7	30.6	8.1	19.4	1.6	50.0	9.7	9.7	0.0
	40歳～49歳	80	30.0	41.3	52.5	3.8	17.5	2.5	23.8	8.8	5.0	0.0
	50歳～59歳	103	23.3	49.5	36.9	3.9	27.2	3.9	15.5	16.5	3.9	1.0
	60歳～69歳	177	22.6	47.5	33.3	9.6	23.2	2.3	11.3	10.7	1.7	7.3
	70歳以上	167	21.6	50.9	30.5	12.0	28.7	2.4	7.2	11.4	1.2	9.6
世帯別	ひとり暮らし	56	23.2	44.6	33.9	8.9	23.2	1.8	16.1	14.3	5.4	7.1
	夫婦	174	20.7	52.3	33.3	9.2	26.4	2.9	8.6	12.6	0.6	5.7
	二世帯(親・子)	291	23.0	46.4	39.9	6.5	21.0	2.7	23.4	9.3	4.1	3.8
	三世帯(親・子・孫)	74	20.3	40.5	41.9	9.5	27.0	1.4	16.2	9.5	2.7	4.1
	その他	42	21.4	52.4	38.1	9.5	16.7	0.0	9.5	11.9	2.4	7.1
居住地区別	丹荘小学校区	329	17.0	47.7	37.7	5.2	26.7	2.1	21.0	12.2	2.7	4.0
	青柳小学校区	195	26.7	52.3	31.3	8.2	22.1	1.5	13.3	9.7	4.1	6.2
	渡瀬小学校区	61	31.1	42.6	47.5	16.4	8.2	1.6	14.8	6.6	3.3	4.9
	神泉小学校区	46	26.1	37.0	56.5	13.0	15.2	4.3	10.9	10.9	0.0	2.2

網かけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(3) 生活環境

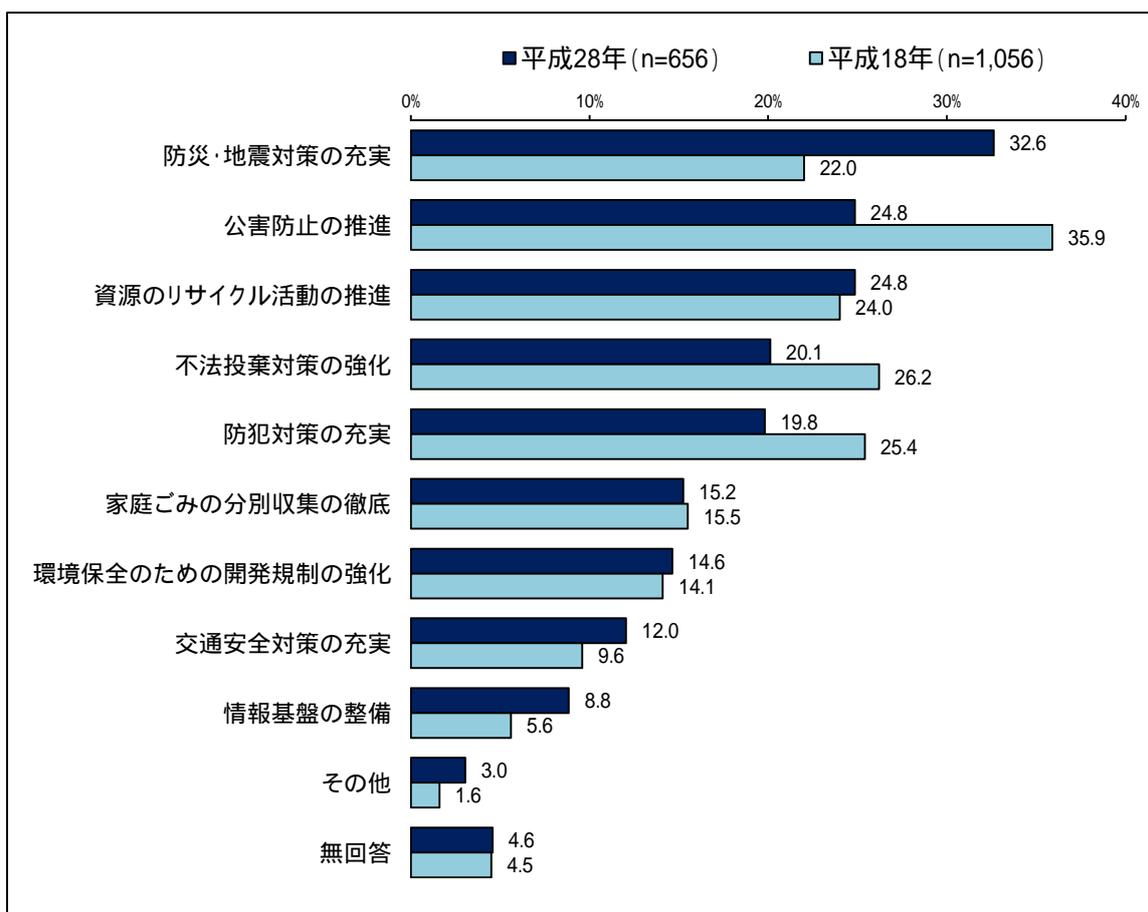
問13. 生活環境の整備を図るために、今後、特に力を入れるべき事業はなんですか。
(2つまでに)

「防災・地震対策の充実」が第1位。

生活環境の整備を図るために、今後、特に力を入れるべき事業について尋ねたところ、「防災・地震対策の充実」が32.6%で第1位に挙げられ、次いで「公害防止の推進」「資源のリサイクル活動の推進」(同率24.8%)が続き、以下「不法投棄対策の強化」(20.1%)、「防犯対策の充実」(19.8%)等の順となっています。

経年比較でみると、「防災・地震対策の充実」(32.6%)が平成18年(22.0%)に比べて10.6ポイント増加しており、東日本大震災の影響の大きさがうかがえます。一方、「公害防止の推進」(24.8%)が平成18年(35.9%)に比べて11.1ポイント減少しています。また、「不法投棄対策の強化」(20.1%)、「防犯対策の充実」(19.8%)等も減少しています。

生活環境 / 全体(経年比較)



性別で見ると、女性では「防災・地震対策の充実」(36.6%)等が男性を上回ります。

年齢別で見ると、20歳～29歳では「防犯対策の充実」(39.4%)、70歳以上では「資源のリサイクル活動の推進」(30.5%)、それ以外の年齢層では「防災・地震対策の充実」が第1位に挙げられています。

世帯別で見ると、夫婦では「公害防止の推進」(28.2%)、それ以外の世帯では「防災・地震対策の充実」が第1位に挙げられています。

居住地区別で見ると、青柳小学校区では「資源のリサイクル活動の推進」(27.2%)、それ以外の地区では「防災・地震対策の充実」が第1位に挙げられています。また、神泉小学校区では「公害防止の推進」(32.6%)、「環境保全のための開発規制の強化」(26.1%)、「防犯対策の充実」(26.1%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

生活環境 / 全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位:%)

		n	家庭ごみの分別収集の徹底	資源のリサイクル活動の推進	不法投棄対策の強化	公害防止の推進	環境保全のための開発規制の強化	情報基盤の整備	防災・地震対策の充実	交通安全対策の充実	防犯対策の充実	その他	無回答
全体		656	15.2	24.8	20.1	24.8	14.6	8.8	32.6	12.0	19.8	3.0	4.6
性別	男性	259	13.1	22.4	21.6	22.4	17.0	12.4	29.3	13.9	21.2	4.2	3.5
	女性	276	17.0	25.0	19.2	29.0	11.2	6.2	36.6	10.5	19.6	1.8	4.3
年齢別	18歳～19歳	14	7.1	21.4	7.1	21.4	14.3	21.4	50.0	21.4	21.4	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	9.1	21.2	9.1	24.2	12.1	24.2	33.3	9.1	39.4	0.0	3.0
	30歳～39歳	62	14.5	17.7	16.1	29.0	16.1	21.0	33.9	12.9	24.2	1.6	0.0
	40歳～49歳	80	13.8	17.5	16.3	26.3	20.0	13.8	38.8	13.8	20.0	3.8	1.3
	50歳～59歳	103	14.6	24.3	23.3	23.3	10.7	11.7	38.8	12.6	19.4	4.9	1.0
	60歳～69歳	177	13.6	27.1	25.4	26.6	14.1	4.5	30.5	11.3	17.5	3.4	4.5
世帯別	70歳以上	167	20.4	30.5	18.6	22.2	16.2	1.8	26.9	12.0	14.4	3.0	9.6
	ひとり暮らし	56	21.4	25.0	17.9	25.0	7.1	10.7	32.1	14.3	12.5	5.4	8.9
	夫婦	174	14.9	26.4	24.1	28.2	17.2	5.2	24.1	12.6	18.4	3.4	4.6
	二世帯(親・子)	291	12.4	24.1	17.9	24.4	16.2	10.7	39.2	12.0	22.3	2.7	2.4
	三世帯(親・子・孫)	74	21.6	27.0	18.9	20.3	12.2	9.5	29.7	13.5	16.2	0.0	5.4
その他	42	11.9	21.4	21.4	21.4	9.5	11.9	33.3	4.8	26.2	4.8	7.1	
居住地区別	丹荘小学校区	329	16.7	25.5	18.2	23.7	12.8	9.7	33.1	13.1	20.1	3.3	3.6
	青柳小学校区	195	14.9	27.2	25.6	25.1	15.4	6.2	25.1	11.8	20.0	2.6	5.1
	渡瀬小学校区	61	13.1	27.9	11.5	23.0	14.8	16.4	42.6	14.8	16.4	0.0	4.9
	神泉小学校区	46	8.7	8.7	19.6	32.6	26.1	8.7	45.7	4.3	26.1	6.5	0.0

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(4) 産業振興

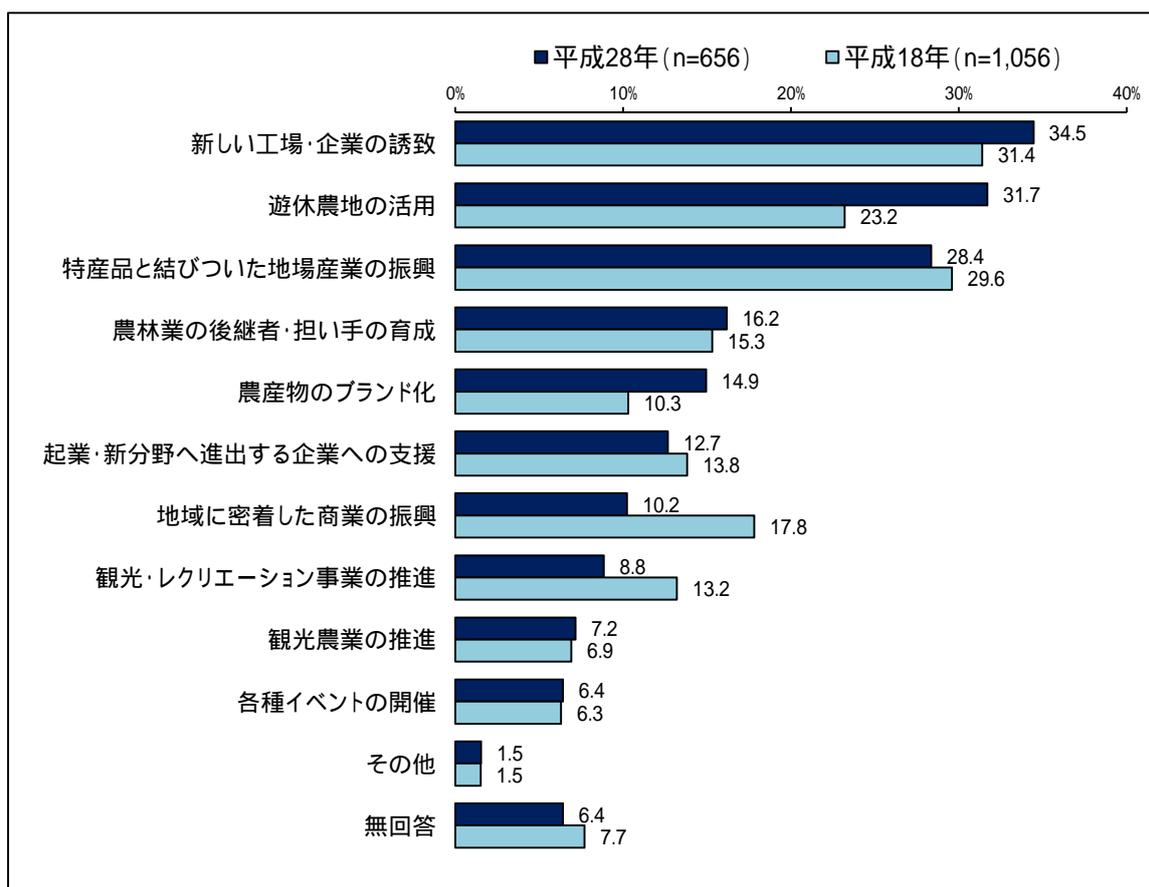
問14. 産業振興を図るために、今後、特に力を入れるべき事業はなんですか。(2つまでに)

「新しい工場・企業の誘致」が第1位。次いで「遊休農地の活用」が続き、以下「特産品と結びついた地場産業の振興」等の順。

産業振興を図るために、今後、特に力を入れるべき事業について尋ねたところ、「新しい工場・企業の誘致」が34.5%で第1位に挙げられ、次いで「遊休農地の活用」(31.7%)が続き、以下「特産品と結びついた地場産業の振興」(28.4%)、「農林業の後継者・担い手の育成」(16.2%)等の順となっています。

経年比較でみると、「遊休農地の活用」(31.7%)が平成18年(23.2%)に比べて8.5ポイント増加しています。一方、「地域に密着した商業の振興」(10.2%)が平成18年(17.8%)に比べて7.6ポイント減少しています。また、「観光・レクリエーション事業の推進」(8.8%)等も減少しています。

産業振興 / 全体(経年比較)



性別で見ると、女性では「遊休農地の活用」(33.7%)、男性では「新しい工場・企業の誘致」(37.8%)が第1位に挙げられています。

年齢別で見ると、50歳～59歳では「新しい工場・企業の誘致」(43.7%)、60歳～69歳・70歳以上では「遊休農地の活用」(35.0%・40.7%)が第1位に挙げられています。

居住地区別で見ると、丹荘小学校区・青柳小学校区では「新しい工場・企業の誘致」(35.3%・34.4%)、渡瀬小学校区では「特産品と結びついた地場産業の振興」(31.1%)、神泉小学校区では「遊休農地の活用」(56.5%)が第1位に挙げられています。

職業別で見ると、農業では「新しい工場・企業の誘致」「特産品と結びついた地場産業の振興」(同率34.5%)、公務員・団体職員では「特産品と結びついた地場産業の振興」(36.7%)、学生では「起業・新分野へ進出する企業への支援」「農産物のブランド化」「観光・レクリエーション事業の推進」(同率26.7%)、家事専念・無職では「遊休農地の活用」(42.3%・40.0%)、それ以外の職業では「新しい工場・企業の誘致」が第1位に挙げられており、仕事をしている人は主に「新しい工場・企業の誘致」を望み、仕事をしていない人は「遊休農地の活用」を望む割合が高いという結果になっています。

産業振興 / 全体、性別、年齢別、居住地区別、職業別

(単位: %)

		n	誘致 新しい工場・企業の 誘致	起業・新分野へ進出 する企業への支援	地場産業の振興	特産品と結びついた 地場産業の振興	農産物の ブランド化	観光農業の推進	農林業の後継者・ 担い手の育成	遊休農地の活用	商業の振興 地域に密着した	観光・レクリエ ーション事業の推進	開催 各種イベントの	その他	無回答
全体		656	34.5	12.7	28.4	14.9	7.2	16.2	31.7	10.2	8.8	6.4	1.5	6.4	
性別	男性	259	37.8	16.2	24.7	17.0	9.3	16.2	31.3	8.9	8.9	5.8	2.7	4.6	
	女性	276	30.1	8.3	32.2	13.0	5.8	17.4	33.7	10.1	10.5	6.5	0.7	6.5	
年齢別	18歳～19歳	14	14.3	21.4	21.4	28.6	21.4	14.3	0.0	7.1	21.4	14.3	7.1	0.0	
	20歳～29歳	33	27.3	12.1	42.4	27.3	0.0	3.0	21.2	15.2	18.2	9.1	0.0	3.0	
	30歳～39歳	62	25.8	6.5	29.0	22.6	4.8	22.6	27.4	9.7	17.7	8.1	3.2	0.0	
	40歳～49歳	80	31.3	7.5	40.0	22.5	11.3	13.8	21.3	11.3	10.0	13.8	1.3	2.5	
	50歳～59歳	103	43.7	15.5	25.2	18.4	9.7	15.5	31.1	9.7	10.7	1.9	2.9	1.0	
	60歳～69歳	177	34.5	17.5	27.1	11.3	6.2	14.1	35.0	9.0	5.6	5.6	1.1	8.5	
	70歳以上	167	35.3	10.8	24.6	7.8	6.6	20.4	40.7	9.0	4.8	4.2	0.6	11.4	
居住地区別	丹荘小学校区	329	35.3	13.4	28.0	16.7	7.0	17.3	28.0	10.0	9.4	5.5	1.8	5.8	
	青柳小学校区	195	34.4	16.4	28.2	12.8	5.6	16.9	33.8	9.7	6.7	6.7	1.0	7.2	
	渡瀬小学校区	61	27.9	4.9	31.1	16.4	11.5	16.4	27.9	9.8	14.8	9.8	1.6	3.3	
	神泉小学校区	46	34.8	8.7	28.3	15.2	8.7	8.7	56.5	6.5	10.9	6.5	0.0	2.2	
職業別	農業	58	34.5	8.6	34.5	10.3	10.3	31.0	32.8	8.6	1.7	0.0	0.0	10.3	
	商工自営業	52	40.4	17.3	28.8	11.5	9.6	13.5	28.8	9.6	9.6	3.8	0.0	7.7	
	会社員	139	34.5	9.4	30.2	21.6	10.1	11.5	28.1	8.6	10.1	10.1	3.6	2.2	
	公務員・団体職員	30	33.3	16.7	36.7	20.0	6.7	16.7	26.7	10.0	23.3	0.0	0.0	0.0	
	その他の職業	14	35.7	7.1	14.3	28.6	7.1	21.4	28.6	21.4	14.3	7.1	0.0	7.1	
	パート・アルバイト・ 内職	105	37.1	18.1	32.4	19.0	3.8	10.5	24.8	7.6	11.4	10.5	0.0	2.9	
	学生	15	20.0	26.7	20.0	26.7	20.0	20.0	0.0	13.3	26.7	6.7	0.0	0.0	
	家事専念	71	29.6	7.0	28.2	7.0	5.6	18.3	42.3	15.5	8.5	5.6	1.4	8.5	
無職	155	32.3	14.2	23.2	9.0	5.2	18.7	40.0	9.0	4.5	5.8	1.9	10.3		

網がけは最も高い項目 18歳～19歳・その他の職業・学生は回答者数が少ないため、有意性は低い

(5) 教育文化

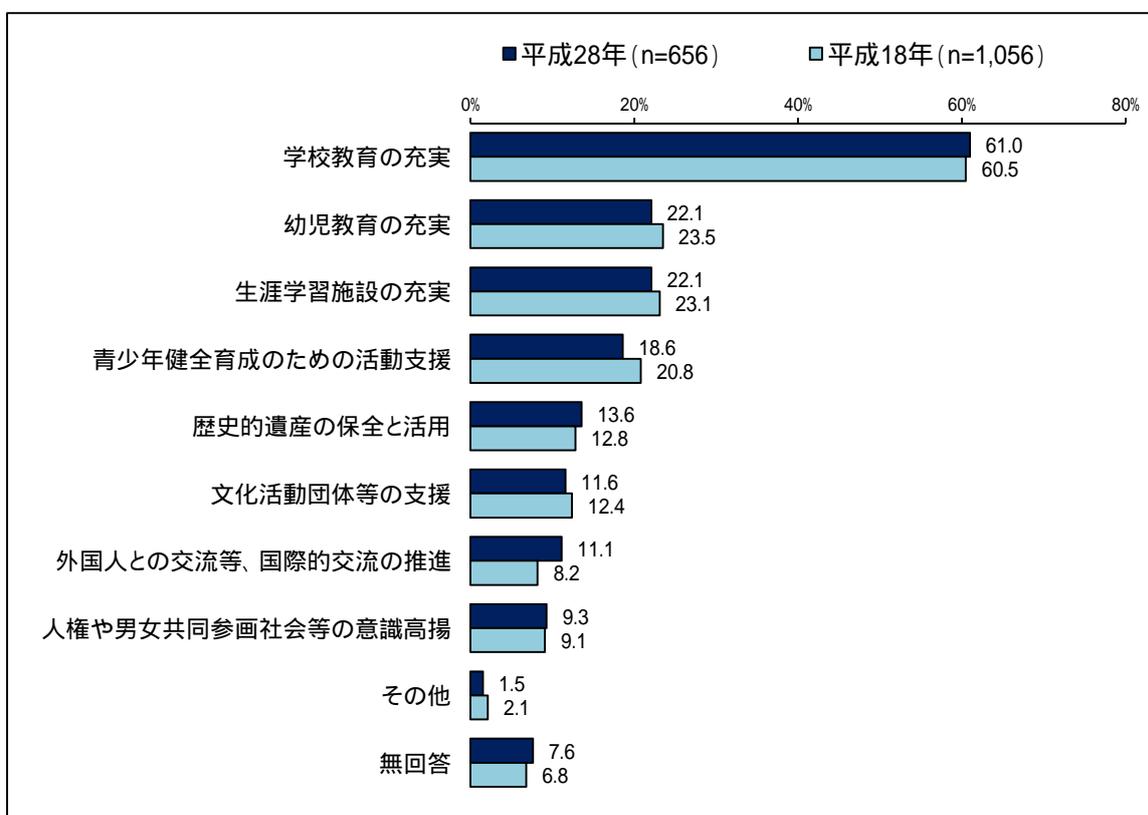
問15. 教育・文化・まちづくりを充実させていくために、今後、特に力を入れるべき事業はなんでしょうか。(2つまでに)

「学校教育の充実」が他を大きく引き離し第1位。

教育・文化・まちづくりを充実させていくために、今後、特に力を入れるべき事業について尋ねたところ、「学校教育の充実」が61.0%で他を大きく引き離し第1位に挙げられ、次いで「幼児教育の充実」「生涯学習施設の充実」(同率22.1%)が続き、以下「青少年健全育成のための活動支援」(18.6%)等の順となっています。

経年比較でみると、平成18年と比べてあまり差はみられません。

教育文化 / 全体(経年比較)



性別・年齢別・居住地区別・家族構成別でみると、すべての層で「学校教育の充実」が最も高くなっています。他の項目をみると、30歳～39歳では「幼児教育の充実」(41.9%)、50歳～59歳・60歳～69歳・70歳以上では「生涯学習施設の充実」(21.4%・27.1%・24.6%)、青柳小学校区・神泉小学校区では「文化活動団体等の支援」(15.9%・19.6%)、小学生未満の子どもがいる家庭では「幼児教育の充実」(52.4%)、小・中学生、高校生・専門校生・大学生・大学院生がいる家庭では「青少年健全育成のための活動支援」(27.4%・36.2%)が他の層に比べて比較的多くなっています。

教育文化 / 全体、性別、年齢別、居住地区別、家族構成別

(単位: %)

		n	学校教育の充実	幼児教育の充実	歴史的遺産の保全と活用	生涯学習施設の充実	青少年健全育成のための活動支援	文化活動団体等の支援	人権や男女共同参画社会等の意識高揚	外国人との交流等 国際的交流の推進	その他	無回答
全体		656	61.0	22.1	13.6	22.1	18.6	11.6	9.3	11.1	1.5	7.6
性別	男性	259	61.8	22.4	15.1	20.8	20.8	12.7	7.7	10.4	2.3	7.3
	女性	276	60.9	21.7	14.1	22.5	17.0	10.1	8.3	12.7	1.4	7.2
年齢別	18歳～19歳	14	57.1	28.6	21.4	7.1	42.9	14.3	7.1	14.3	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	69.7	33.3	9.1	15.2	15.2	15.2	9.1	18.2	0.0	0.0
	30歳～39歳	62	72.6	41.9	6.5	11.3	17.7	11.3	6.5	14.5	3.2	0.0
	40歳～49歳	80	68.8	25.0	18.8	16.3	21.3	7.5	3.8	15.0	1.3	3.8
	50歳～59歳	103	65.0	24.3	11.7	21.4	19.4	4.9	5.8	14.6	1.9	7.8
	60歳～69歳	177	55.9	20.3	12.4	27.1	15.3	15.3	13.0	10.2	0.6	7.9
	70歳以上	167	52.7	12.0	18.0	24.6	20.4	13.8	12.0	5.4	2.4	13.2
居住地区別	丹荘小学校区	329	58.7	23.1	14.0	23.7	19.8	9.7	10.0	11.9	1.5	6.7
	青柳小学校区	195	62.6	21.0	12.3	21.5	17.4	15.9	8.7	7.7	1.0	9.2
	渡瀬小学校区	61	67.2	26.2	13.1	16.4	18.0	4.9	11.5	14.8	0.0	4.9
	神泉小学校区	46	67.4	17.4	15.2	19.6	15.2	19.6	6.5	15.2	4.3	2.2
家族構成別	小学生未満の子どもがいる	63	77.8	52.4	3.2	14.3	15.9	7.9	3.2	11.1	0.0	1.6
	小・中学生がいる	84	76.2	26.2	8.3	15.5	27.4	2.4	6.0	15.5	1.2	4.8
	高校生・専門校生・大学生・大学院生がいる	58	56.9	17.2	17.2	12.1	36.2	8.6	6.9	13.8	0.0	5.2
	別居の小学生未満の子どもか学生がいる	64	60.9	18.8	12.5	29.7	7.8	12.5	7.8	15.6	3.1	10.9
	上記に該当しない	402	58.0	19.4	15.7	23.4	17.4	13.7	11.4	10.4	1.7	7.5

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(6) 男女共同参画

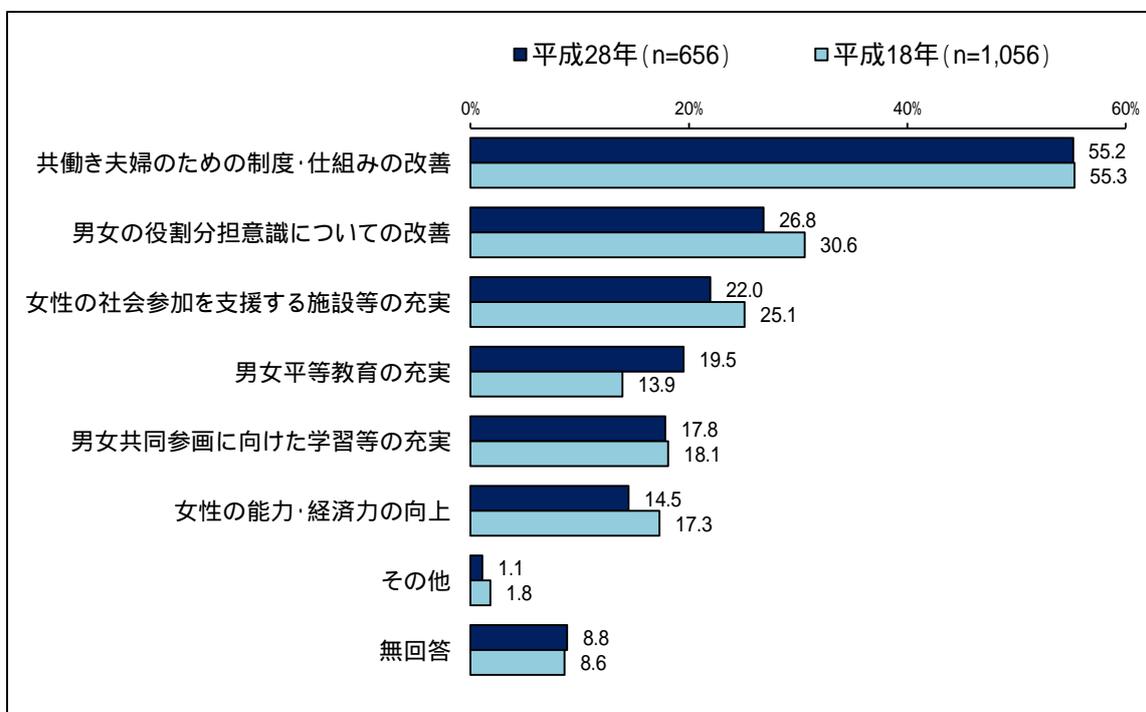
問18. 男女共同参画社会の実現のために、今後、特に力を入れるべき事業はなんですか。
(2つまでに)

「共働き夫婦のための制度・仕組みの改善」が他を大きく引き離し第1位。

男女共同参画の実現のために、今後、特に力を入れるべき事業について尋ねたところ、「共働き夫婦のための制度・仕組みの改善」が55.2%で他を大きく引き離し第1位に挙げられ、次いで「男女の役割分担意識についての改善」(26.8%)が続き、以下「女性の社会参加を支援する施設等の充実」(22.0%)、「男女平等教育の充実」(19.5%)等の順となっています。

経年比較でみると、「男女平等教育の充実」(19.5%)が平成18年(13.9%)に比べて5.6ポイント増加しています。

男女共同参画 / 全体(経年比較)



性別・年齢別・居住地区別でみると、すべての層で「共働き夫婦のための制度・仕組みの改善」が第1位に挙げられています。

性別で他の項目をみると、男性では「女性の社会参加を支援する施設等の充実」(25.9%)が女性(19.9%)を6.0ポイント上回ります。一方、女性では「男女の役割分担意識についての改善」(30.4%)が男性(24.3%)を6.1ポイント上回ります。

年齢別で他の項目をみると、20歳～29歳では「男女の役割分担意識についての改善」(36.4%)、30歳～39歳では「共働き夫婦のための制度・仕組みの改善」(75.8%)が他の年齢層に比べて比較的多くなっています。

居住地区別で他の項目をみると、神泉小学校区では「女性の社会参加を支援する施設等の充実」(39.1%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

男女共同参画 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	男女平等教育の充実	男女共同参画に向けた学習等の充実	女性の能力・経済力の向上	男女の役割分担意識についての改善	女性の社会参加を支援する施設等の充実	共働き夫婦のための制度・仕組みの改善	その他	無回答
全体		656	19.5	17.8	14.5	26.8	22.0	55.2	1.1	8.8
性別	男性	259	20.5	20.5	12.7	24.3	25.9	54.4	1.2	7.7
	女性	276	18.8	16.3	13.8	30.4	19.9	56.9	1.1	8.3
年齢別	18歳～19歳	14	35.7	21.4	7.1	14.3	35.7	64.3	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	21.2	24.2	9.1	36.4	12.1	66.7	3.0	0.0
	30歳～39歳	62	11.3	12.9	17.7	22.6	29.0	75.8	1.6	0.0
	40歳～49歳	80	17.5	8.8	16.3	25.0	37.5	58.8	2.5	6.3
	50歳～59歳	103	23.3	10.7	12.6	26.2	19.4	62.1	0.0	5.8
	60歳～69歳	177	19.8	20.9	11.3	29.4	25.4	46.9	1.1	8.5
	70歳以上	167	19.8	24.0	20.4	26.3	12.0	47.9	0.6	16.2
居住地区別	丹荘小学校区	329	17.0	20.4	13.1	29.8	25.5	53.8	0.9	7.6
	青柳小学校区	195	22.6	17.4	15.4	21.0	16.9	55.4	1.5	10.8
	渡瀬小学校区	61	19.7	14.8	19.7	32.8	13.1	62.3	1.6	6.6
	神泉小学校区	46	28.3	6.5	15.2	26.1	39.1	54.3	0.0	2.2

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(7) 行財政

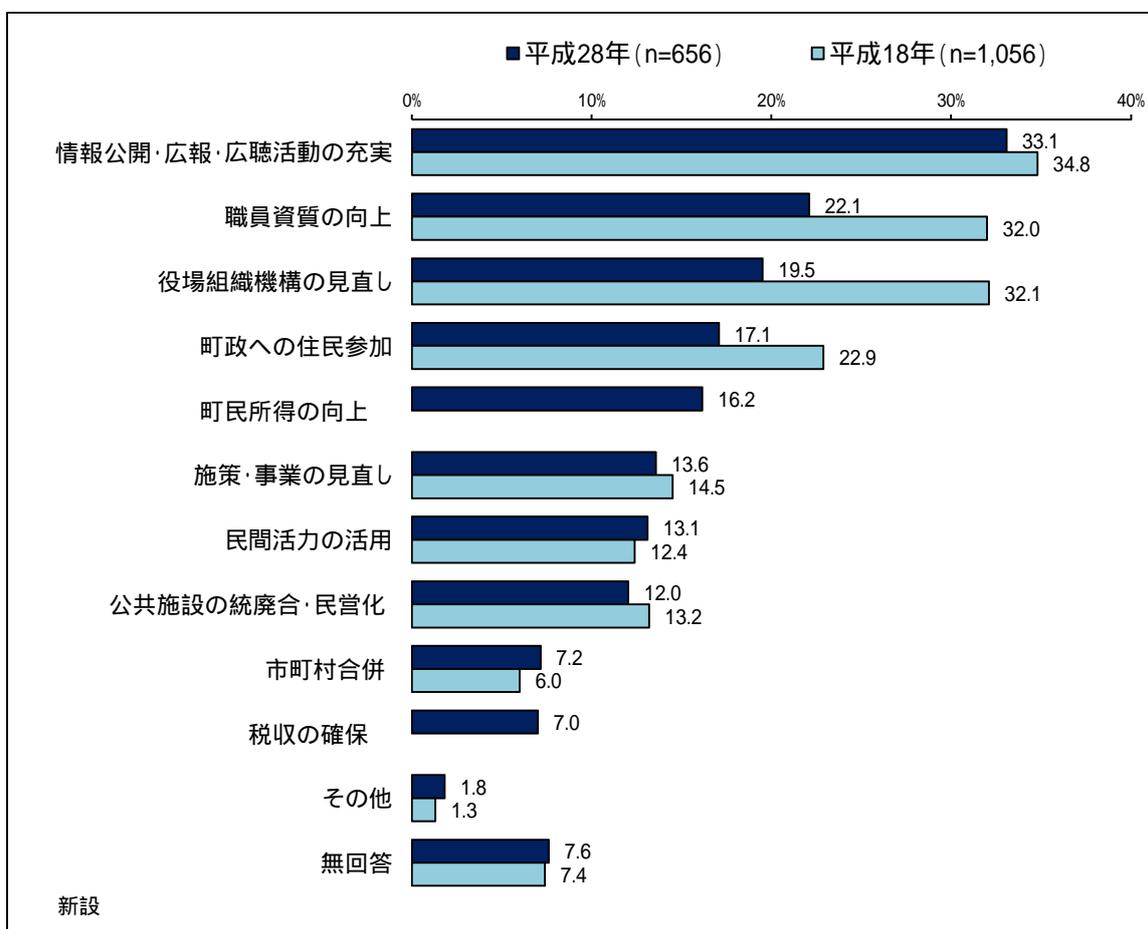
問19. 行財政を充実させていくために、今後、特に力を入れるべきことはなんですか。
(2つまでに)

「情報公開・広報・広聴活動の充実」が第1位。

行財政を充実させていくために、今後、特に力を入れるべきことについて尋ねたところ、「情報公開・広報・広聴活動の充実」が33.1%で第1位に挙げられ、次いで「職員資質の向上」(22.1%)が続き、以下「役場組織機構の見直し」(19.5%)、「町政への住民参加」(17.1%)、「町民所得の向上」(16.2%)等の順となっています。

経年比較でみると、「役場組織機構の見直し」(19.5%)、「職員資質の向上」(22.1%)、「町政への住民参加」(17.1%)等が平成18年に比べて減少しています。

行財政 / 全体(経年比較)



性別で見ると、女性では「役場組織機構の見直し」(22.1%)が男性(15.4%)を6.7ポイント上回ります。

年齢別で見ると、18歳～19歳では「情報公開・広報・広聴活動の充実」「施策・事業の見直し」(同率35.7%)、30歳～39歳では「役場組織機構の見直し」(27.4%)、40歳～49歳では「職員資質の向上」(27.5%)、それ以外の年齢層では「情報公開・広報・広聴活動の充実」が第1位に挙げられています。

居住地区別で見ると、すべての地区で「情報公開・広報・広聴活動の充実」が第1位に挙げられています。

行財政/全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位:%)

		n	情報公開・広報・広聴活動の充実	町政への住民参加	役場組織機構の見直し	施策・事業の見直し	公共施設の統廃合・民営化	民間活力の活用	職員資質の向上	市町村合併	町民所得の向上	税収の確保	その他	無回答
全体		656	33.1	17.1	19.5	13.6	12.0	13.1	22.1	7.2	16.2	7.0	1.8	7.6
性別	男性	259	29.0	18.1	15.4	14.7	11.6	15.4	22.4	10.0	19.3	8.9	1.2	7.3
	女性	276	38.0	15.9	22.1	12.3	12.7	12.7	19.2	5.4	14.1	6.2	2.2	6.5
年齢別	18歳～19歳	14	35.7	28.6	14.3	35.7	14.3	0.0	21.4	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	54.5	15.2	9.1	18.2	3.0	15.2	12.1	18.2	21.2	3.0	0.0	0.0
	30歳～39歳	62	21.0	14.5	27.4	24.2	9.7	11.3	16.1	9.7	21.0	6.5	6.5	1.6
	40歳～49歳	80	25.0	18.8	23.8	12.5	10.0	16.3	27.5	8.8	13.8	11.3	0.0	2.5
	50歳～59歳	103	30.1	7.8	22.3	15.5	14.6	15.5	22.3	4.9	15.5	6.8	1.9	7.8
	60歳～69歳	177	37.3	18.6	16.9	12.4	16.4	16.4	19.2	5.6	13.6	7.9	1.7	6.2
	70歳以上	167	35.9	22.2	16.8	6.6	9.6	9.6	25.7	6.6	18.0	5.4	1.8	14.4
居住地区別	丹荘小学校区	329	31.6	13.7	21.3	15.8	13.7	15.5	20.1	8.5	17.6	7.0	1.2	7.0
	青柳小学校区	195	35.4	22.6	19.0	11.8	11.8	8.7	22.6	7.2	11.8	5.6	2.1	9.2
	渡瀬小学校区	61	34.4	21.3	11.5	6.6	9.8	18.0	23.0	4.9	19.7	9.8	1.6	4.9
	神泉小学校区	46	37.0	19.6	15.2	15.2	4.3	15.2	26.1	4.3	21.7	10.9	4.3	2.2

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

7 重要なこと・優先すべきこと・大切なこと

(1) 教育のあり方

問16. 21世紀を担う子どもたちに対する教育のありかたとして重要なことは何だと思えますか。

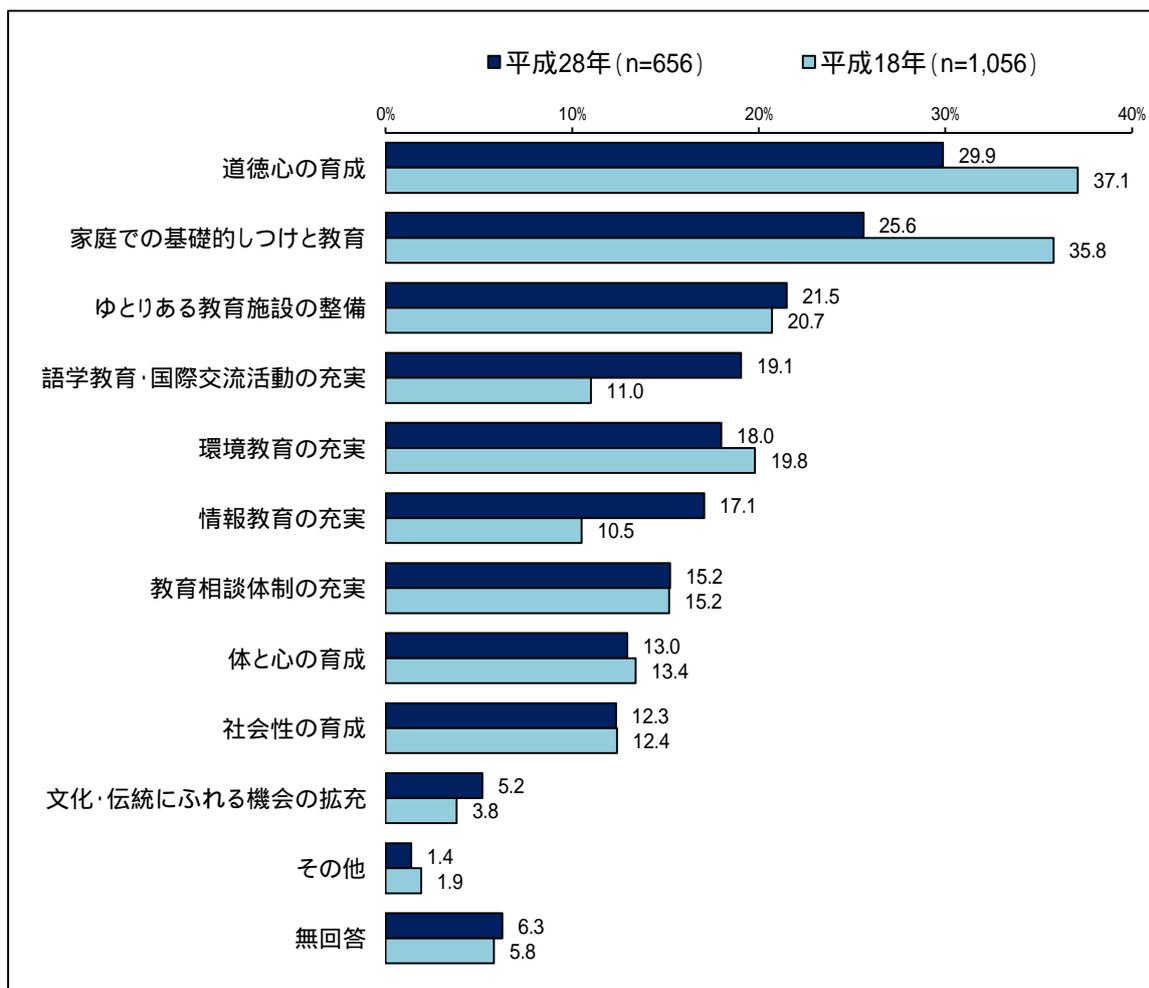
(2つまでに)

「**道德心の育成**」が第1位。次いで「**家庭での基礎的しつけと教育**」が続き、以下「**ゆとりある教育施設の整備**」等の順。

21世紀を担う子どもたちに対する教育のありかたとして重要なことについて尋ねたところ、「**道德心の育成**」が29.9%で第1位に挙げられ、次いで「**家庭での基礎的しつけと教育**」(25.6%)が続き、以下「**ゆとりある教育施設の整備**」(21.5%)、「**語学教育・国際交流活動の充実**」(19.1%)等の順となっています。

経年比較でみると、「**道德心の育成**」(29.9%)、「**家庭での基礎的しつけと教育**」(25.6%)等が平成18年に比べて減少しています。一方、「**語学教育・国際交流活動の充実**」(19.1%)、「**情報教育の充実**」(17.1%)等は平成18年に比べて増加しています。

教育のあり方 / 全体(経年比較)



性別で見ると、女性では「家庭での基礎的しつけと教育」(28.6%)が男性(23.6%)を5.0ポイント上回ります。

年齢別で見ると、18歳～19歳では「ゆとりある教育施設の整備」「体と心の育成」「語学教育・国際交流活動の充実」(同率28.6%)、20歳～29歳では「情報教育の充実」(36.4%)、70歳以上では「家庭での基礎的しつけと教育」(32.3%)、それ以外の年齢層では「道德心の育成」が第1位に挙げられています。

居住地区別で見ると、丹荘小学校区・青柳小学校区では「道德心の育成」(30.7%・31.8%)、渡瀬小学校区では「家庭での基礎的しつけと教育」(31.1%)、神泉小学校区では「ゆとりある教育施設の整備」(30.4%)が第1位に挙げられています。

教育のあり方 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位:%)

		n	ゆとりある教育施設の整備	情報教育の充実	環境教育の充実	社会性の育成	体と心の育成	道德心の育成	文化・伝統にふれる機会の拡充	語学教育・国際交流活動の充実	家庭での基礎的しつけと教育	教育相談体制の充実	その他	無回答
全体		656	21.5	17.1	18.0	12.3	13.0	29.9	5.2	19.1	25.6	15.2	1.4	6.3
性別	男性	259	22.4	16.6	17.8	15.1	13.1	31.3	5.0	18.1	23.6	15.4	1.9	5.4
	女性	276	18.5	15.9	18.5	11.6	12.0	30.8	5.4	19.9	28.6	16.3	1.1	5.8
年齢別	18歳～19歳	14	28.6	7.1	21.4	14.3	28.6	14.3	7.1	28.6	21.4	21.4	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	21.2	36.4	12.1	18.2	9.1	33.3	9.1	21.2	12.1	18.2	0.0	0.0
	30歳～39歳	62	21.0	24.2	11.3	8.1	17.7	27.4	9.7	22.6	25.8	21.0	1.6	0.0
	40歳～49歳	80	15.0	18.8	20.0	11.3	11.3	32.5	6.3	22.5	27.5	16.3	0.0	5.0
	50歳～59歳	103	17.5	22.3	14.6	15.5	10.7	26.2	4.9	21.4	19.4	19.4	2.9	5.8
	60歳～69歳	177	24.3	16.9	20.9	13.6	9.0	31.1	4.5	19.2	24.3	14.7	1.7	5.6
	70歳以上	167	24.0	7.2	21.6	11.4	16.8	31.1	3.6	12.0	32.3	9.6	1.2	10.8
居住地区別	丹荘小学校区	329	21.3	20.7	18.2	10.3	12.5	30.7	5.5	19.1	26.1	14.6	1.2	4.9
	青柳小学校区	195	18.5	12.8	19.5	17.9	15.4	31.8	4.1	16.9	21.0	16.4	0.5	8.7
	渡瀬小学校区	61	24.6	13.1	18.0	14.8	16.4	21.3	6.6	21.3	31.1	13.1	1.6	1.6
	神泉小学校区	46	30.4	17.4	13.0	6.5	6.5	28.3	8.7	28.3	28.3	15.2	4.3	2.2

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(2) 生涯学習

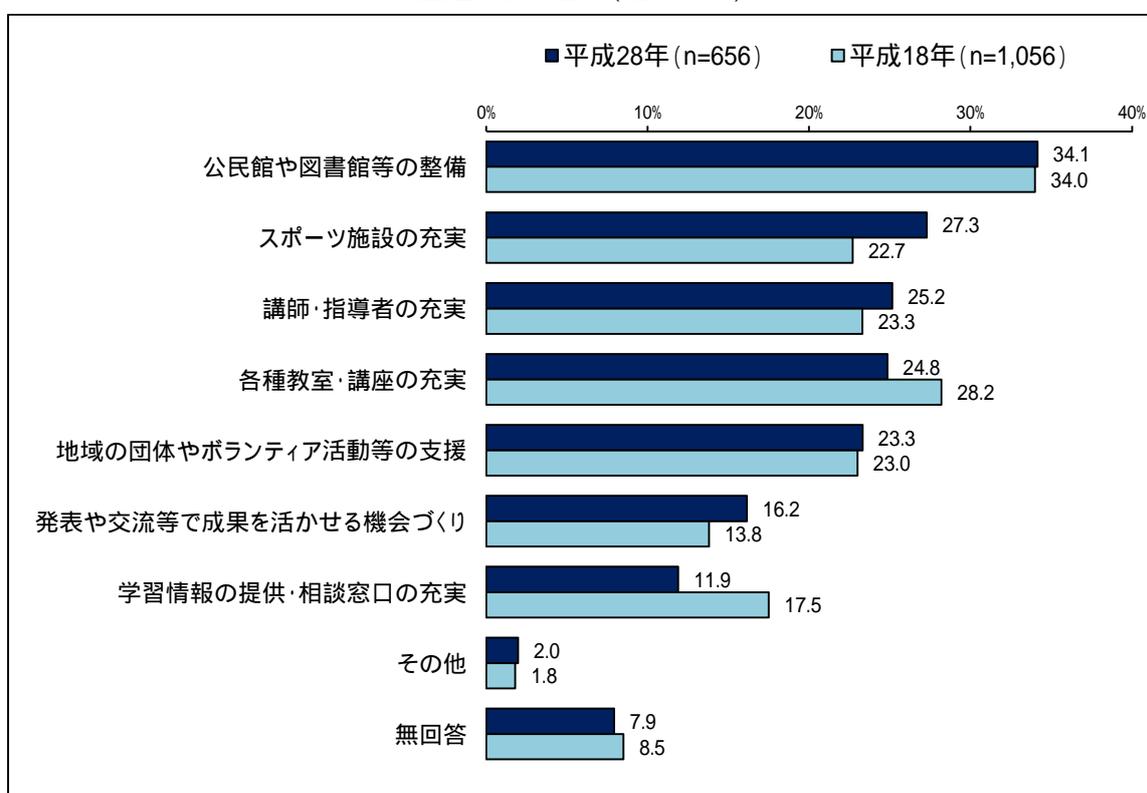
問17. 生涯学習を支援していくうえで何を優先すべきだと思いますか。(2つまでに)

「公民館や図書館等の整備」が第1位。

生涯学習を支援していくうえで優先すべきことについて尋ねたところ、「公民館や図書館等の整備」が34.1%で第1位に挙げられ、次いで「スポーツ施設の充実」(27.3%)が続き、以下「講師・指導者の充実」(25.2%)、「各種教室・講座の充実」(24.8%)、「地域の団体やボランティア活動等の支援」(23.3%)等の順となっています。

経年比較でみると、「スポーツ施設の充実」(27.3%)等が平成18年に比べて増加しています。一方、「学習情報の提供・相談窓口の充実」(11.9%)等が平成18年に比べて減少しています。

生涯学習 / 全体(経年比較)



性別でみると、男性では「地域の団体やボランティア活動等の支援」(29.3%)が女性(19.6%)を9.7ポイント上回ります。一方、女性では「公民館や図書館等の整備」(36.2%)等が男性を上回ります。

年齢別でみると、18歳～19歳・30歳～39歳では「スポーツ施設の充実」(64.3%・43.5%)、70歳以上では「地域の団体やボランティア活動等の支援」(32.3%)、それ以外の年齢層では「公民館や図書館等の整備」が第1位に挙げられています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では「講師・指導者の充実」(37.7%)、それ以外の地区では「公民館や図書館等の整備」が第1位に挙げられています。

生涯学習 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	公民館や図書館等の整備	スポーツ施設の充実	各種教室講座の充実	講師指導者の充実	地域の団体やボランティア活動等の支援	発表や交流等で成果を活かせる機会づくり	学習情報の提供 相談窓口の充実	その他	無回答
全体		656	34.1	27.3	24.8	25.2	23.3	16.2	11.9	2.0	7.9
性別	男性	259	31.3	29.3	24.7	23.2	29.3	17.0	11.2	1.9	6.9
	女性	276	36.2	26.8	23.2	27.5	19.6	16.3	12.0	2.9	7.6
年齢別	18歳～19歳	14	57.1	64.3	7.1	21.4	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	45.5	33.3	24.2	27.3	12.1	24.2	21.2	0.0	0.0
	30歳～39歳	62	33.9	43.5	21.0	22.6	19.4	14.5	19.4	3.2	0.0
	40歳～49歳	80	41.3	40.0	31.3	26.3	12.5	10.0	11.3	2.5	5.0
	50歳～59歳	103	34.0	29.1	32.0	24.3	20.4	9.7	11.7	2.9	7.8
	60歳～69歳	177	30.5	19.2	26.6	28.2	24.3	18.1	10.7	1.1	7.9
	70歳以上	167	31.7	16.8	21.0	23.4	32.3	20.4	9.0	2.4	13.8
居住地区別	丹荘小学校区	329	35.9	26.7	26.7	25.5	20.7	15.5	12.5	1.5	7.0
	青柳小学校区	195	33.8	27.7	24.1	20.0	28.7	14.4	12.8	1.0	9.7
	渡瀬小学校区	61	29.5	27.9	23.0	37.7	23.0	23.0	3.3	3.3	1.6
	神泉小学校区	46	37.0	26.1	26.1	32.6	19.6	15.2	15.2	6.5	4.3

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(3) 少子化対策、子育て支援

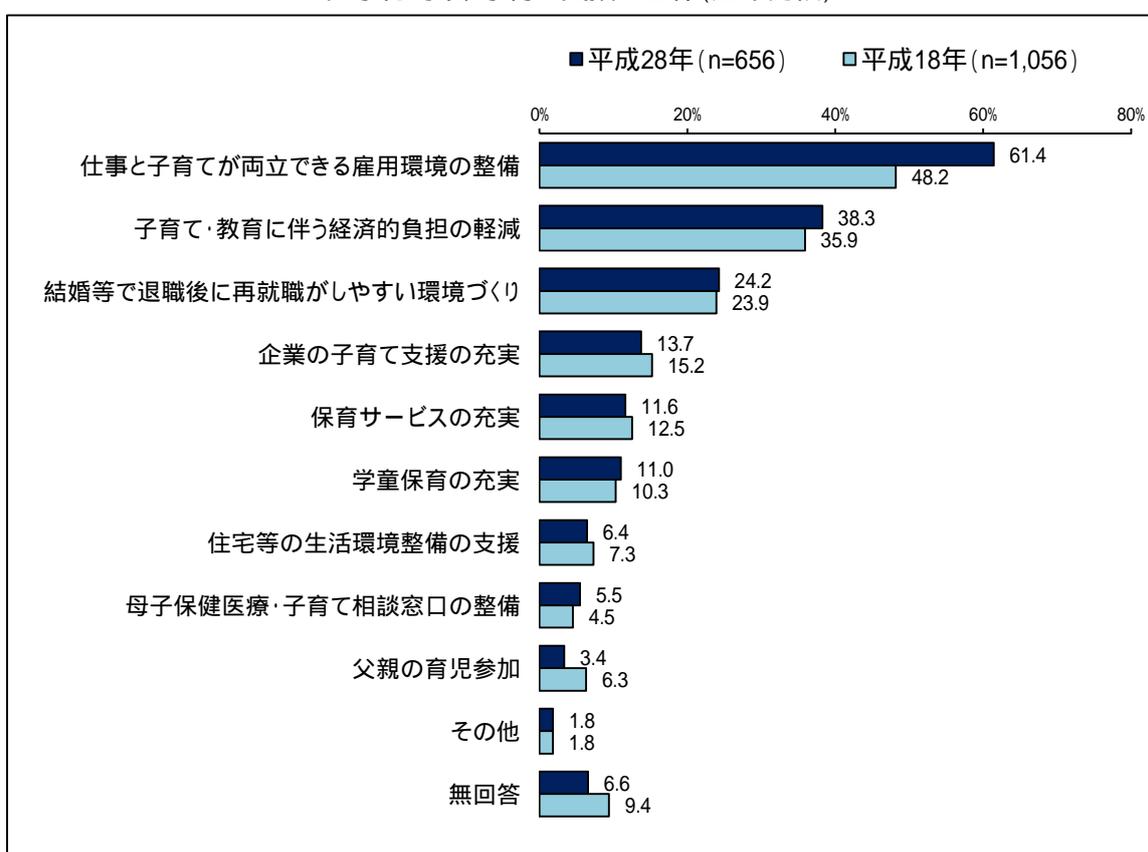
問11. 少子化対策、子育て支援としてどのような点が最も大切だと思いますか。(2つまでに)

「仕事と子育てが両立できる雇用環境の整備」が第1位。

少子化対策、子育て支援として最も大切な点について尋ねたところ、「仕事と子育てが両立できる雇用環境の整備」が61.4%で第1位に挙げられ、次いで「子育て・教育に伴う経済的負担の軽減」(38.3%)が続き、以下「結婚等で退職後に再就職がしやすい環境づくり」(24.2%)、「企業の子育て支援の充実」(13.7%)等の順となっています。

経年比較でみると、「仕事と子育てが両立できる雇用環境の整備」(61.4%)が平成18年(48.2%)に比べて13.2ポイント増加しており、早急な対策が望まれます。

少子化対策、子育て支援 / 全体(経年比較)



性別でみると、全体と同様の傾向となっており、あまり差はみられません。

年齢別でみると、30歳～39歳では「子育て・教育に伴う経済的負担の軽減」(59.7%)、40歳～49歳では「仕事と子育てが両立できる雇用環境の整備」「子育て・教育に伴う経済的負担の軽減」(同率55.0%)、それ以外の年齢層では「仕事と子育てが両立できる雇用環境の整備」が第1位に挙げられています。

居住地区別でみると、すべての地区で「仕事と子育てが両立できる雇用環境の整備」が第1位に挙げられています。他の項目をみると、丹荘小学校区では「子育て・教育に伴う経済的負担の軽減」(41.6%)、渡瀬小学校区では「企業の子育て支援の充実」(27.9%)、神泉小学校区では「子育て・教育に伴う経済的負担の軽減」(45.7%)、「学童保育の充実」(26.1%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

少子化対策、子育て支援 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	仕事と子育てが両立できる雇用環境の整備	結婚等で退職後に再就職がしやすい環境づくり	企業の子育て支援の充実	父親の育児参加	母子保健医療・子育て相談窓口の整備	子育て教育に伴う経済的負担の軽減	住宅等の生活環境整備の支援	保育サービスの充実	学童保育の充実	その他	無回答
全体		656	61.4	24.2	13.7	3.4	5.5	38.3	6.4	11.6	11.0	1.8	6.6
性別	男性	259	63.3	22.4	15.1	2.7	5.0	38.2	6.9	11.6	11.2	1.9	5.0
	女性	276	61.2	22.5	13.8	3.6	5.4	39.9	6.2	12.7	9.4	2.2	7.2
年齢別	18歳～19歳	14	64.3	14.3	0.0	7.1	0.0	57.1	7.1	21.4	21.4	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	51.5	39.4	18.2	6.1	12.1	42.4	0.0	9.1	6.1	0.0	6.1
	30歳～39歳	62	43.5	24.2	12.9	4.8	4.8	59.7	8.1	21.0	11.3	3.2	0.0
	40歳～49歳	80	55.0	20.0	8.8	3.8	7.5	55.0	12.5	15.0	12.5	1.3	1.3
	50歳～59歳	103	68.0	19.4	16.5	1.9	5.8	41.7	11.7	10.7	10.7	2.9	1.0
	60歳～69歳	177	67.2	23.2	14.7	3.4	4.5	33.3	4.5	7.9	13.6	1.7	7.3
	70歳以上	167	64.1	27.5	15.0	2.4	5.4	24.0	3.6	9.0	8.4	1.8	13.2
居住地区別	丹荘小学校区	329	62.6	25.2	11.6	2.7	4.9	41.6	5.2	14.3	9.1	1.8	5.8
	青柳小学校区	195	60.0	27.7	14.9	4.1	4.6	32.8	7.7	9.2	10.8	2.6	7.2
	渡瀬小学校区	61	68.9	18.0	27.9	6.6	8.2	32.8	3.3	4.9	11.5	0.0	4.9
	神泉小学校区	46	58.7	10.9	8.7	2.2	13.0	45.7	13.0	10.9	26.1	0.0	0.0

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(4) 住民参加

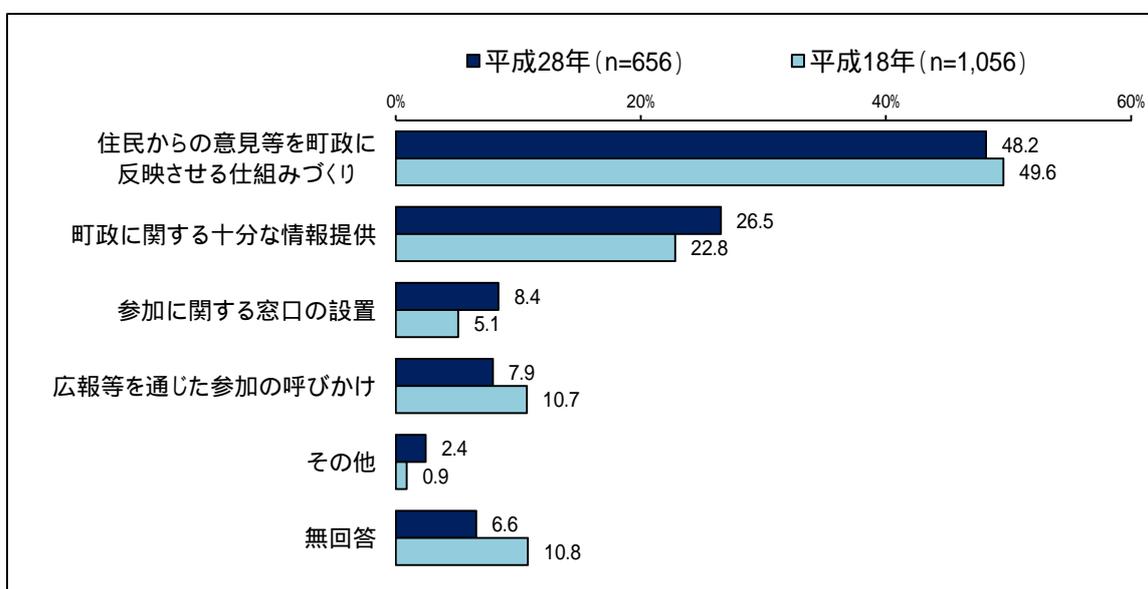
問20. あなたは、今後、町政への住民参加を進めていくには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(1つに)

「住民からの意見等を町政に反映させる仕組みづくり」が4割以上を占める。

今後、町政への住民参加を進めていくために必要な取り組みについて尋ねたところ、「住民からの意見等を町政に反映させる仕組みづくり」が48.2%で最も多く、次いで「町政に関する十分な情報提供」(26.5%)が続き、以下「参加に関する窓口の設置」(8.4%)、「広報等を通じた参加の呼びかけ」(7.9%)等の順となっています。

経年比較でみると、「町政に関する十分な情報提供」(26.5%)等が平成18年に比べて増加しています。

住民参加 / 全体(経年比較)



性別でみると、全体と同様の傾向となっており、あまり差はみられません。

年齢別でみると、18歳～19歳では「住民からの意見等を町政に反映させる仕組みづくり」(71.4%)が7割以上を占めます。

居住地区別でみると、神泉小学校区では「町政に関する十分な情報提供」(34.8%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

住民参加 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	町政に関する十分な情報提供	参加に関する窓口の設置	住民からの意見等を町政に反映させる仕組みづくり	広報等を通じた参加の呼びかけ	その他	無回答
全体		656	26.5	8.4	48.2	7.9	2.4	6.6
性別	男性	259	27.4	9.3	48.3	6.6	2.7	5.8
	女性	276	24.6	7.2	51.1	8.7	2.2	6.2
年齢別	18歳～19歳	14	21.4	0.0	71.4	7.1	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	30.3	9.1	54.5	6.1	0.0	0.0
	30歳～39歳	62	19.4	6.5	61.3	6.5	6.5	0.0
	40歳～49歳	80	28.8	7.5	53.8	2.5	3.8	3.8
	50歳～59歳	103	26.2	9.7	51.5	4.9	1.9	5.8
	60歳～69歳	177	26.6	7.9	44.6	13.6	1.7	5.6
	70歳以上	167	26.9	10.2	39.5	8.4	2.4	12.6
居住地区別	丹荘小学校区	329	26.1	7.0	52.6	8.2	0.9	5.2
	青柳小学校区	195	25.1	8.7	45.1	8.2	4.1	8.7
	渡瀬小学校区	61	27.9	8.2	50.8	3.3	3.3	6.6
	神泉小学校区	46	34.8	13.0	34.8	10.9	6.5	0.0

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

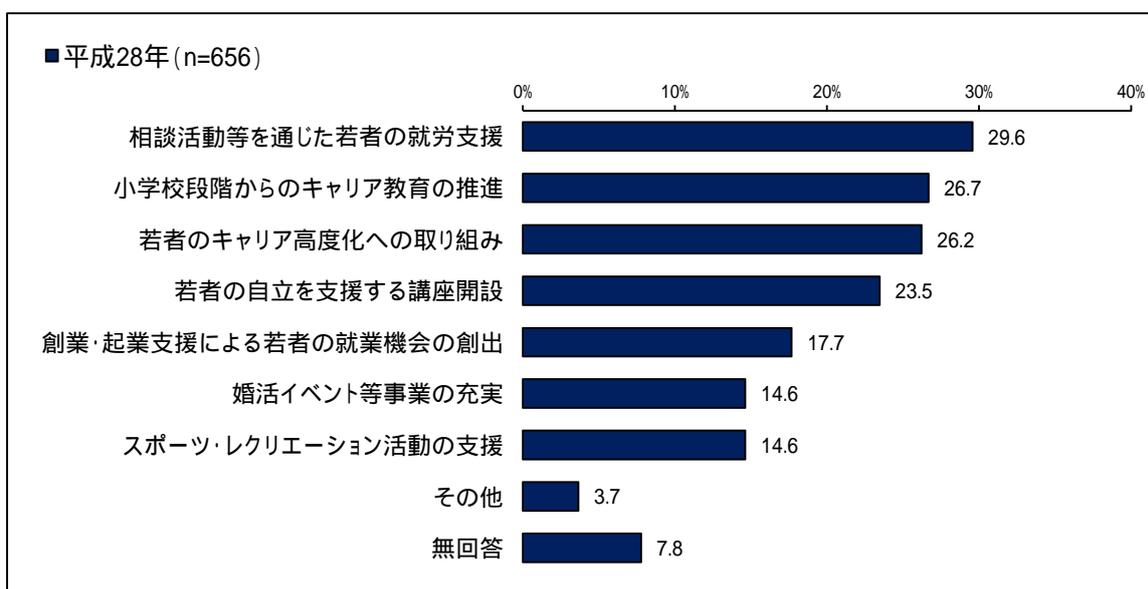
(5) 若者支援

問10. 若者支援のありかたとして重要なことは何だと思えますか。(2つまでに)

「相談活動等を通じた若者の就労支援」が第1位。次いで「小学校段階からのキャリア教育の推進」が続き、以下「若者のキャリア高度化への取り組み」等の順。

若者支援のありかたとして重要なことについて尋ねたところ、「相談活動等を通じた若者の就労支援」が29.6%で第1位に挙げられ、次いで「小学校段階からのキャリア教育の推進」(26.7%)が続き、以下「若者のキャリア高度化への取り組み」(26.2%)、「若者の自立を支援する講座開設」(23.5%)等の順となっています。

若者支援 / 全体



性別でみると、男性では「婚活イベント等事業の充実」(17.4%)「スポーツ・レクリエーション活動の支援」(18.9%)等が女性を上回ります。一方、女性では「若者のキャリア高度化への取り組み」(29.7%)等が男性を上回ります。

年齢別でみると、18歳～19歳では「スポーツ・レクリエーション活動の支援」(42.9%)、50歳～59歳では「若者のキャリア高度化への取り組み」「相談活動等を通じた若者の就労支援」(同率35.0%)、60歳～69歳では「相談活動等を通じた若者の就労支援」(27.7%)、70歳以上では「若者の自立を支援する講座開設」(28.1%)、それ以外の年齢層では「小学校段階からのキャリア教育の推進」が第1位に挙げられています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区では「小学校段階からのキャリア教育の推進」「相談活動等を通じた若者の就労支援」(同率28.9%)、青柳小学校区では「相談活動等を通じた若者の就労支援」(31.3%)、渡瀬小学校区では「若者のキャリア高度化への取り組み」(32.8%)、神泉小学校区では「小学校段階からのキャリア教育の推進」「相談活動等を通じた若者の就労支援」(同率30.4%)が第1位に挙げられています。

若者支援 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	小学校段階からのキャリア教育の推進	若者のキャリア高度化への取り組み	若者の自立を支援する講座開設	相談活動等を通じた若者の就労支援	創業・起業支援による若者の就業機会の創出	婚活イベント等事業の充実	スポーツ・レクリエーション活動の支援	その他	無回答
全体		656	26.7	26.2	23.5	29.6	17.7	14.6	14.6	3.7	7.8
性別	男性	259	23.6	22.4	25.5	29.0	18.9	17.4	18.9	3.9	6.9
	女性	276	28.6	29.7	24.3	30.1	18.1	10.5	11.2	3.6	8.0
年齢別	18歳～19歳	14	28.6	35.7	0.0	28.6	21.4	0.0	42.9	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	42.4	33.3	27.3	24.2	9.1	15.2	12.1	0.0	3.0
	30歳～39歳	62	38.7	21.0	14.5	29.0	17.7	19.4	24.2	6.5	1.6
	40歳～49歳	80	36.3	25.0	18.8	32.5	21.3	6.3	16.3	5.0	2.5
	50歳～59歳	103	26.2	35.0	27.2	35.0	20.4	14.6	10.7	3.9	1.0
	60歳～69歳	177	22.0	26.6	24.3	27.7	18.6	14.1	13.0	5.1	9.0
	70歳以上	167	19.8	20.4	28.1	26.3	14.4	19.2	12.6	1.8	16.2
居住地区別	丹荘小学校区	329	28.9	26.4	22.8	28.9	17.9	13.4	16.1	2.7	6.4
	青柳小学校区	195	23.1	27.2	25.6	31.3	17.9	15.4	11.3	3.6	8.7
	渡瀬小学校区	61	31.1	32.8	23.0	27.9	16.4	13.1	16.4	4.9	4.9
	神泉小学校区	46	30.4	17.4	23.9	30.4	17.4	17.4	15.2	8.7	4.3

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

8 自慢できるもの

(1) 自慢できるもの

問22. 神川町で自慢できるものは何ですか。(3つまでに)

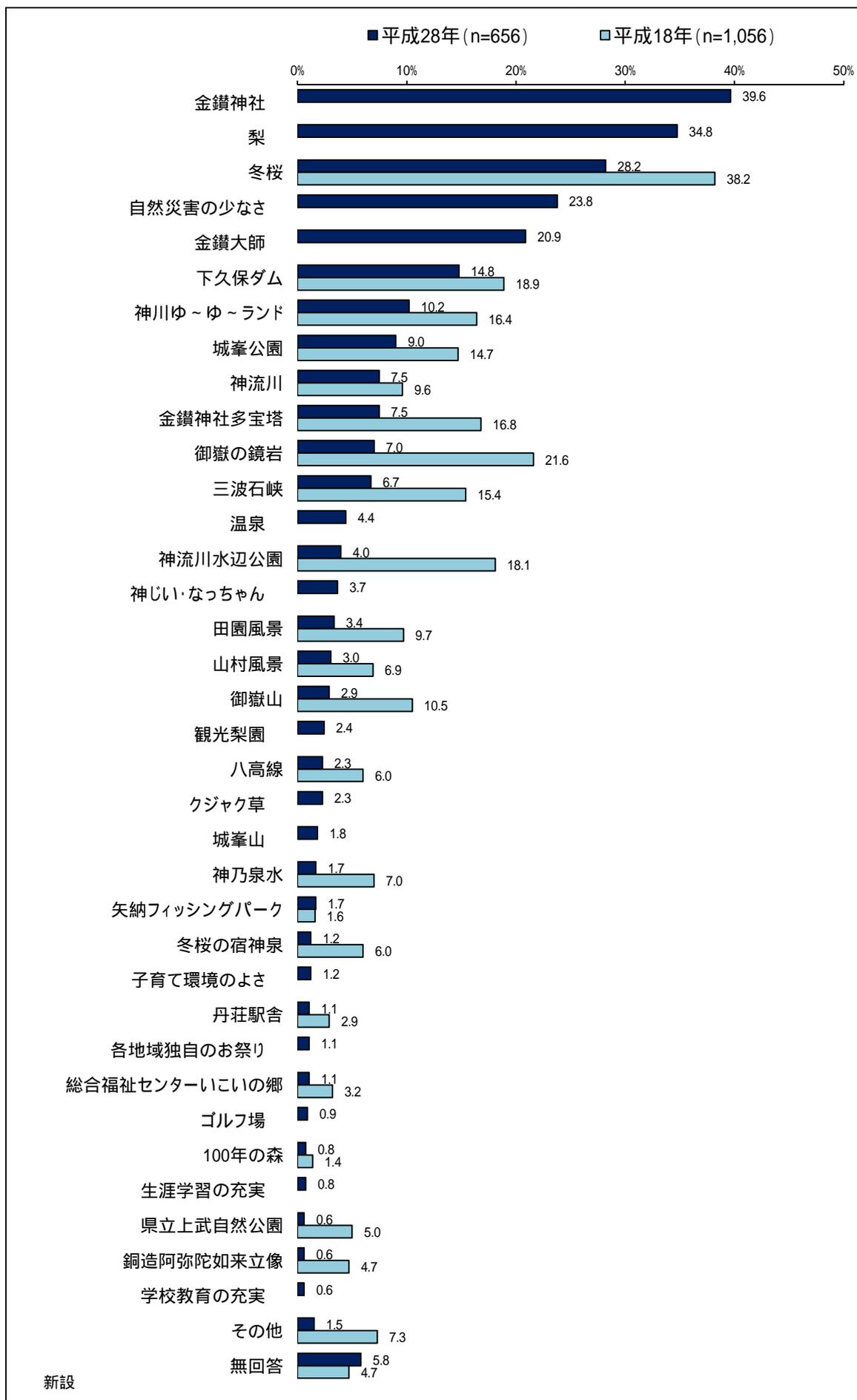
「金鑽神社」が第1位。次いで「梨」が続き、以下「冬桜」が続く。

神川町で自慢できるものについて尋ねたところ、「金鑽神社」が39.6%で第1位に挙げられ、次いで「梨」(34.8%)が続き、以下「冬桜」(28.2%)、「自然災害の少なさ」(23.8%)、「金鑽大師」(20.9%)等の順となっています。

経年比較でみると、ほとんどすべての項目で平成18年より減少しています。



自慢できるもの / 全体(経年比較)



新設

性別で上位5項目をみると、女性では「冬桜」(32.2%)が男性(25.1%)に比べて7.1ポイント上回ります。

年齢別で上位5項目をみると、18歳～19歳・20歳～29歳では「神川ゆ～ゆ～ランド」(21.4%・15.2%)、70歳以上では「下久保ダム」(21.0%)等が上位に挙げられています。

居住地区別で上位5項目をみると、神泉小学校区では「下久保ダム」(21.7%)等が上位に挙げられています。

自慢できるもの / 全体、性別、年齢別、居住地区別(上位5位)

(単位:%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=656)		金鑽神社 39.6	梨 34.8	冬桜 28.2	自然災害の少なさ 23.8	金鑽大師 20.9
性別	男性 (n=259)	金鑽神社 40.2	梨 34.4	冬桜 / 自然災害の少なさ 25.1		金鑽大師 17.8
	女性 (n=276)	金鑽神社 41.3	梨 36.2	冬桜 32.2	金鑽大師 24.6	自然災害の少なさ 21.0
年齢別	18歳～19歳 (n=14)	金鑽神社 / 梨 57.1		冬桜 35.7	金鑽大師 / 神川ゆ～ゆ～ランド / 金鑽神社多宝塔 21.4	
	20歳～29歳 (n=33)	梨 54.5	金鑽神社 36.4	冬桜 / 金鑽大師 27.3	自然災害の少なさ / 神川ゆ～ゆ～ランド 15.2	
	30歳～39歳 (n=62)	梨 56.5	金鑽神社 45.2	自然災害の少なさ 22.6	冬桜 21.0	金鑽大師 17.7
	40歳～49歳 (n=80)	金鑽神社 50.0	梨 48.8	冬桜 25.0	自然災害の少なさ / 金鑽大師 21.3	
	50歳～59歳 (n=103)	梨 50.5	金鑽神社 45.6	冬桜 32.0	金鑽大師 19.4	自然災害の少なさ 17.5
	60歳～69歳 (n=177)	金鑽神社 38.4	自然災害の少なさ 28.2	冬桜 27.1	梨 22.6	金鑽大師 20.3
	70歳以上 (n=167)	冬桜 32.3	金鑽神社 30.5	自然災害の少なさ 27.5	金鑽大師 / 下久保ダム 21.0	
居住地区別	丹荘小学校区 (n=329)	梨 44.1	金鑽神社 38.9	冬桜 29.5	自然災害の少なさ 24.9	金鑽大師 15.2
	青柳小学校区 (n=195)	金鑽神社 44.1	金鑽大師 30.3	梨 26.7	冬桜 26.2	自然災害の少なさ 19.0
	渡瀬小学校区 (n=61)	金鑽神社 36.1	自然災害の少なさ / 金鑽大師 31.1		梨 26.2	冬桜 19.7
	神泉小学校区 (n=46)	冬桜 43.5	金鑽神社 28.3	自然災害の少なさ 26.1	梨 23.9	下久保ダム 21.7

18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

9 行政について

(1) サービスと住民負担

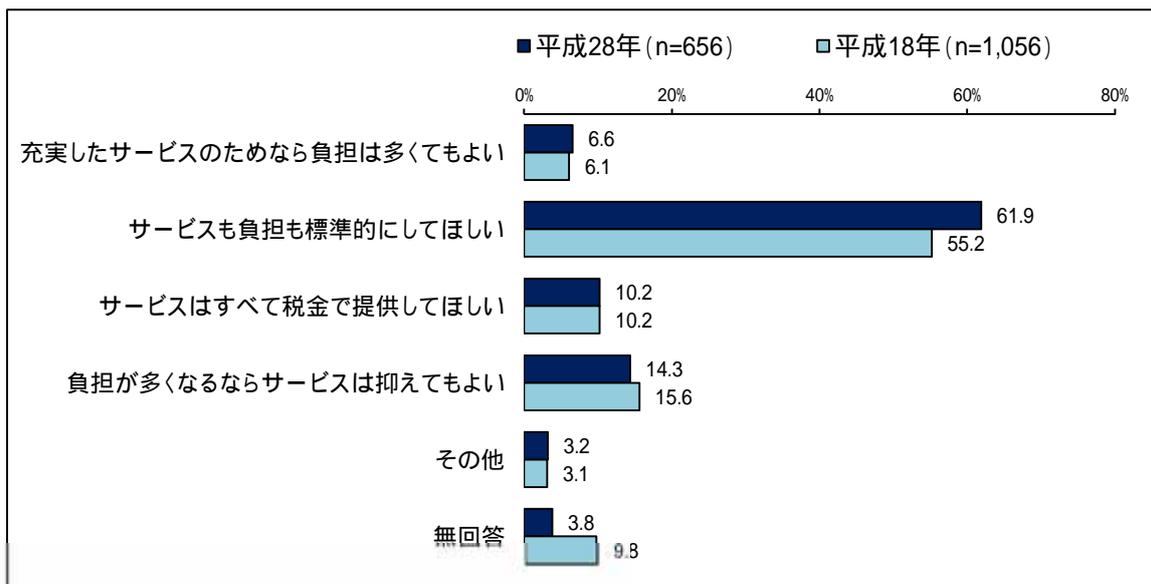
問9. 町が提供するサービス（介護、福祉、保育等）と住民負担のあり方について、どのようにお考えですか。（1つに ）

「サービスも負担も標準的にしてほしい」が6割以上を占める。

サービスと住民負担のあり方について尋ねたところ、「サービスも負担も標準的にしてほしい」が61.9%で最も多く、次いで「負担が多くなるならサービスは抑えてもよい」（14.3%）が続き、以下「サービスはすべて税金で提供してほしい」（10.2%）、「充実したサービスのためなら負担は多くてもよい」（6.6%）等の順となっています。

経年比較でみると、「サービスも負担も標準的にしてほしい」（61.9%）が平成18年（55.2%）に比べて6.7ポイント増加しています。

サービスと住民負担 / 全体（経年比較）



性別でみると、男性では「負担が多くなるならサービスは抑えてもよい」(16.2%)が女性(12.3%)をやや上回ります。一方、女性では「サービスはすべて税金で提供してほしい」(12.3%)が男性(8.1%)をやや上回ります。

年齢別でみると、18歳～19歳では「サービスも負担も標準的にしてほしい」(92.9%)が9割以上を占めます。30歳～39歳・60歳～69歳では「負担が多くなるならサービスは抑えてもよい」(21.0%・19.8%)が他の年齢層に比べて比較的多くなっています。

居住地区別でみると、青柳小学校区では「充実したサービスのためなら負担は多くてもよい」(10.3%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

サービスと住民負担 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	充実したサービスのためなら負担は多くてもよい	サービスも負担も標準的にしてほしい	サービスはすべて税金で提供してほしい	負担が多くなるならサービスは抑えてもよい	その他	無回答
全体		656	6.6	61.9	10.2	14.3	3.2	3.8
性別	男性	259	8.1	61.4	8.1	16.2	2.3	3.9
	女性	276	6.2	62.3	12.3	12.3	3.6	3.3
年齢別	18歳～19歳	14	0.0	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	33	6.1	69.7	3.0	15.2	3.0	3.0
	30歳～39歳	62	8.1	59.7	6.5	21.0	4.8	0.0
	40歳～49歳	80	7.5	63.8	13.8	10.0	5.0	0.0
	50歳～59歳	103	3.9	71.8	8.7	11.7	1.9	1.9
	60歳～69歳	177	6.8	53.1	12.4	19.8	3.4	4.5
	70歳以上	167	7.8	60.5	10.2	12.0	3.0	6.6
居住地区別	丹荘小学校区	329	5.2	62.3	9.4	16.7	3.3	3.0
	青柳小学校区	195	10.3	60.0	8.7	11.3	4.6	5.1
	渡瀬小学校区	61	3.3	65.6	14.8	14.8	0.0	1.6
	神泉小学校区	46	4.3	63.0	17.4	13.0	2.2	0.0

網かけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(2) まちづくりで参加したい活動

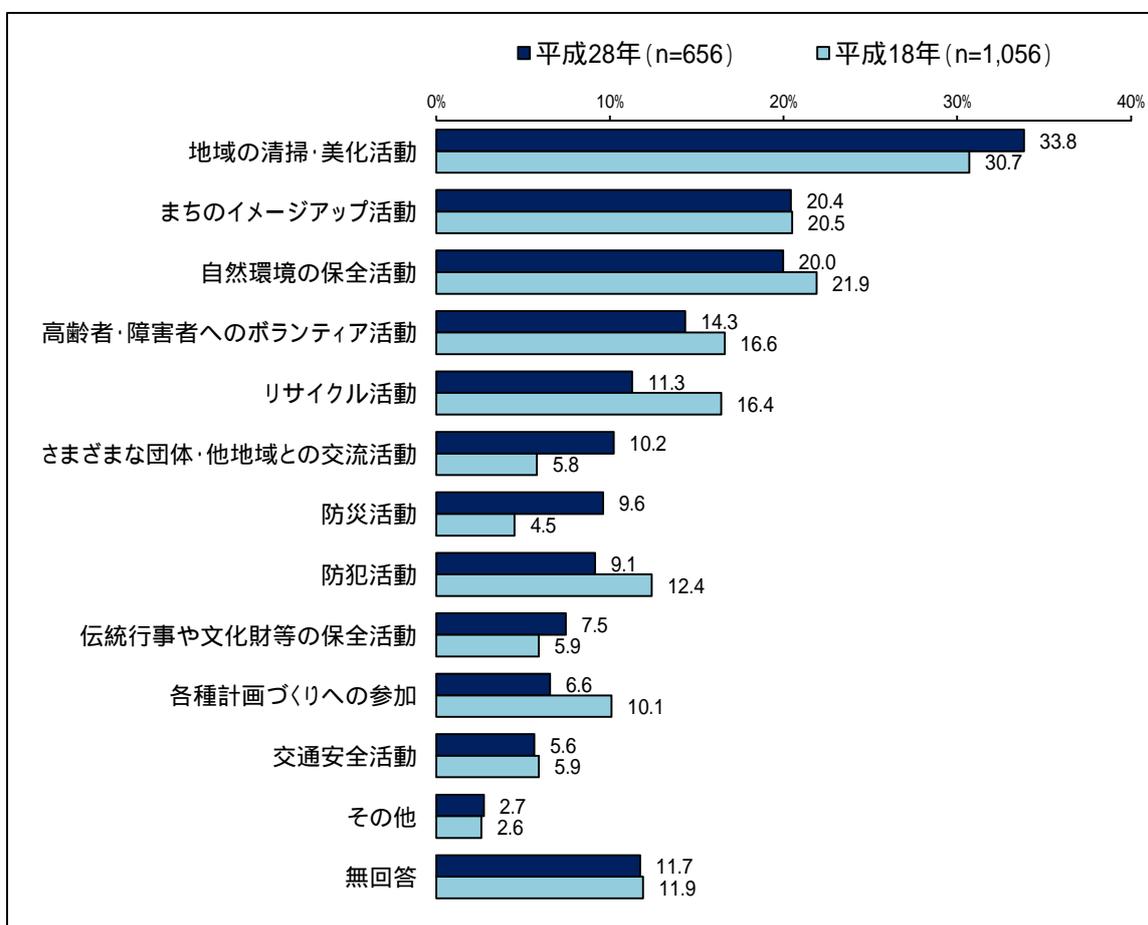
問21. 住民同士が支えあう住みよいまちづくりを進めていくために、あなたが参加してもよいと思う活動がありますか。(2つまでに)

「地域の清掃・美化活動」が第1位。

まちづくりで参加したい活動について尋ねたところ、「地域の清掃・美化活動」が33.8%で第1位に挙げられ、次いで「まちのイメージアップ活動」(20.4%)が続き、以下「自然環境の保全活動」(20.0%)、「高齢者・障害者へのボランティア活動」(14.3%)等の順となっています。

経年比較でみると、「防災活動」(9.6%)等が平成18年に比べて増加しています。一方、「リサイクル活動」(11.3%)等が平成18年に比べて減少しています。

まちづくりで参加したい活動 / 全体(経年比較)



性別でみると、男性では「自然環境の保全活動」(26.6%)が女性(15.9%)を10.7ポイント上回ります。一方、女性では「高齢者・障害者へのボランティア活動」(20.7%)が男性(9.3%)を11.4ポイント上回ります。

年齢別でみると、18歳~19歳・30歳~39歳では「まちのイメージアップ活動」(57.1%・29.0%)、それ以外の年齢層では「地域の清掃・美化活動」が第1位に挙げられています。

居住地区別でみると、すべての地区で「地域の清掃・美化活動」が第1位に挙げられています。

まちづくりで参加したい活動 / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	自然環境の 保全活動	地域の清掃・ 美化活動	高齢者・障害者への ボランティア活動	リサイクル活動	防犯活動	防災活動	交通安全活動
全体		656	20.0	33.8	14.3	11.3	9.1	9.6	5.6
性別	男性	259	26.6	34.4	9.3	9.7	12.4	9.3	6.6
	女性	276	15.9	32.6	20.7	11.6	7.6	11.2	5.8
年齢別	18歳～19歳	14	21.4	35.7	21.4	0.0	7.1	14.3	14.3
	20歳～29歳	33	21.2	30.3	9.1	12.1	24.2	21.2	3.0
	30歳～39歳	62	9.7	27.4	9.7	9.7	12.9	14.5	6.5
	40歳～49歳	80	16.3	30.0	21.3	11.3	10.0	13.8	6.3
	50歳～59歳	103	21.4	38.8	14.6	14.6	11.7	9.7	2.9
	60歳～69歳	177	20.9	34.5	10.2	10.2	7.3	8.5	7.3
	70歳以上	167	23.4	35.9	16.8	12.0	4.8	4.8	5.4
居住地区別	丹荘小学校区	329	20.7	32.8	14.0	10.0	9.1	9.7	5.5
	青柳小学校区	195	23.1	36.9	14.4	12.8	8.2	9.2	8.2
	渡瀬小学校区	61	13.1	29.5	14.8	13.1	13.1	11.5	3.3
	神泉小学校区	46	17.4	34.8	15.2	10.9	6.5	10.9	2.2

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(単位: %)

		n	まちのイメージ アップ活動	文化財等の 保全活動	伝統行事や 交流活動	さまざまな 団体・他地域との 交流活動	各種計画づくり への参加	その他	無回答
全体		656	20.4	7.5	10.2	6.6	2.7	11.7	
性別	男性	259	23.2	8.5	11.2	8.5	2.7	8.5	
	女性	276	19.2	6.2	10.1	4.0	2.9	12.7	
年齢別	18歳～19歳	14	57.1	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	
	20歳～29歳	33	21.2	6.1	3.0	9.1	0.0	9.1	
	30歳～39歳	62	29.0	6.5	9.7	12.9	6.5	6.5	
	40歳～49歳	80	28.8	5.0	6.3	7.5	2.5	7.5	
	50歳～59歳	103	28.2	4.9	6.8	7.8	2.9	4.9	
	60歳～69歳	177	17.5	6.8	13.6	6.2	2.8	14.7	
	70歳以上	167	9.0	12.6	12.6	3.6	2.4	16.2	
居住地区別	丹荘小学校区	329	22.5	6.1	10.9	7.0	2.1	12.2	
	青柳小学校区	195	17.4	7.7	8.2	7.2	3.1	9.7	
	渡瀬小学校区	61	23.0	11.5	11.5	1.6	4.9	9.8	
	神泉小学校区	46	26.1	10.9	8.7	10.9	2.2	8.7	

網がけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

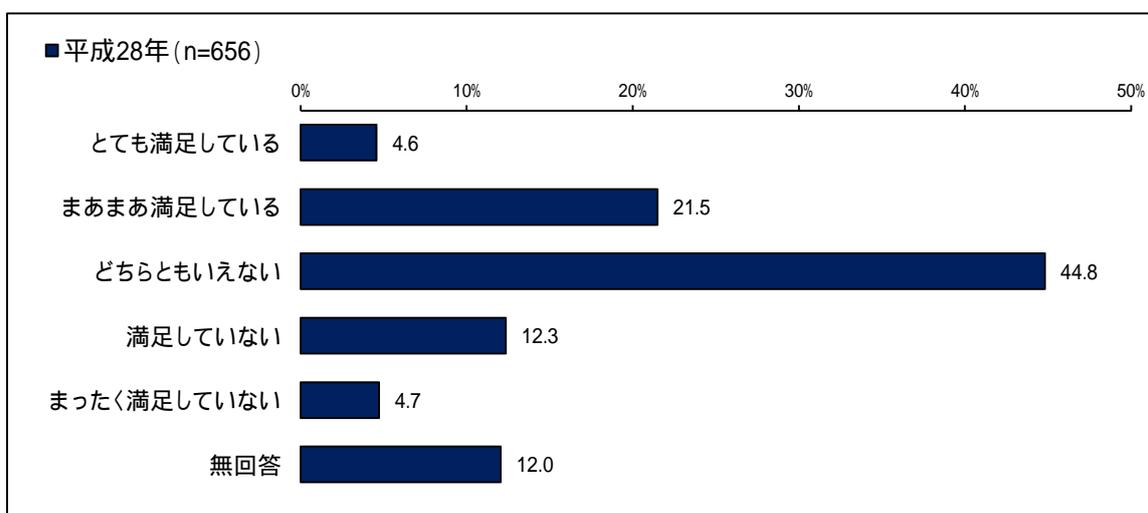
(3) 合併についての満足度

問23. 平成18年における合併についての感想を教えてください。(1つに)

『満足』が26.1%。一方、『不満』は17.0%。
神泉小学校区では『不満』が4割を超える。

平成18年における合併について尋ねたところ、「どちらともいえない」が44.8%で最も多く、次いで「まあまあ満足している」(21.5%)が続き、それに「とても満足している」(4.6%)を合わせた『満足』が26.1%となっています。一方、『不満』(「満足していない」12.3%及び「まったく満足していない」4.7%の合計)は17.0%となっています。

合併についての満足度 / 全体

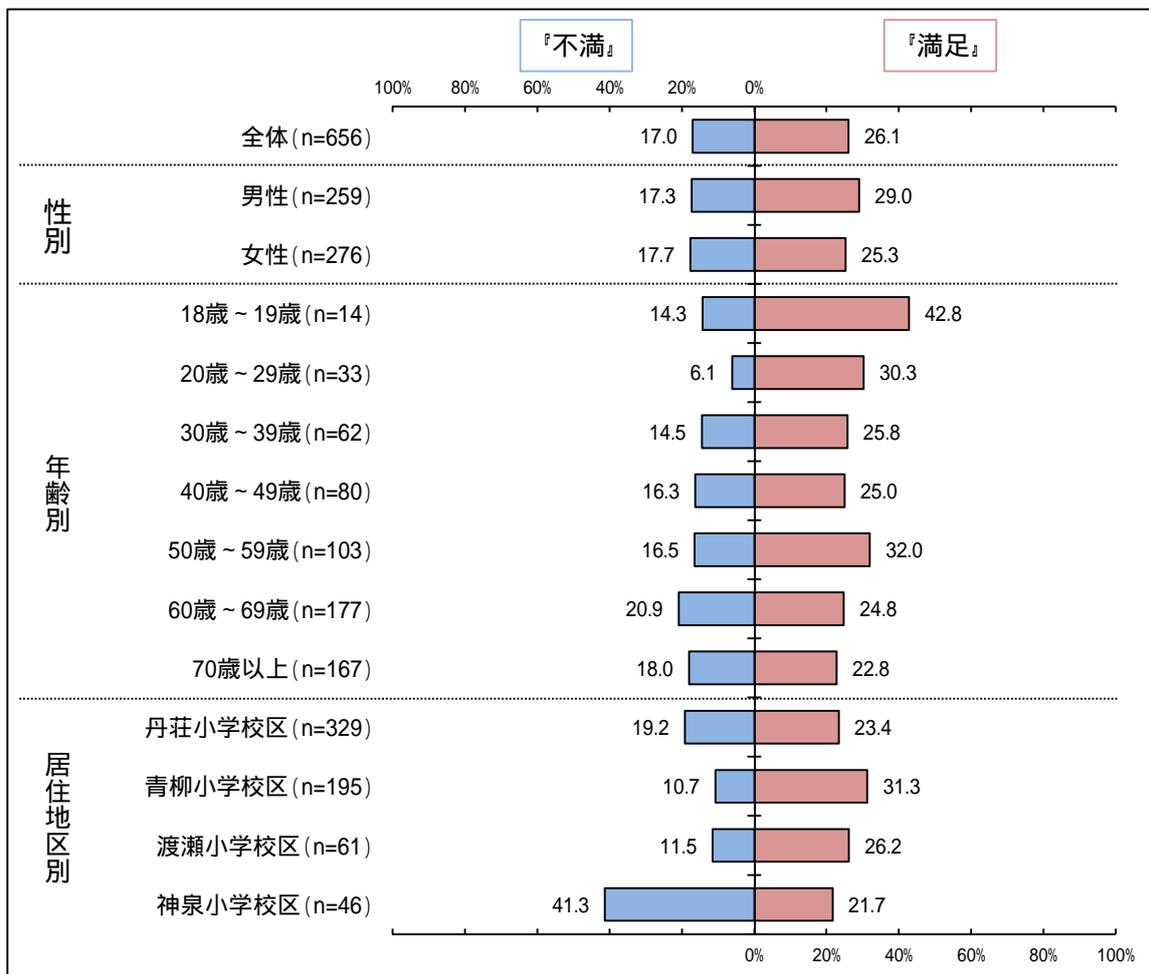


性別で『満足』をみると、男性（29.0%）が女性（25.3%）をやや上回ります。

年齢別で『満足』をみると、18歳～19歳（42.8%）が比較的高くなっています。一方、『不満』をみると、20歳～29歳（6.1%）が比較的低くなっています。

居住地区別で『不満』をみると、神泉小学校区（41.3%）では4割を超えます。

合併についての満足度 / 全体、性別、年齢別、居住地区別
 (『満足』と『不満』の比較)



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

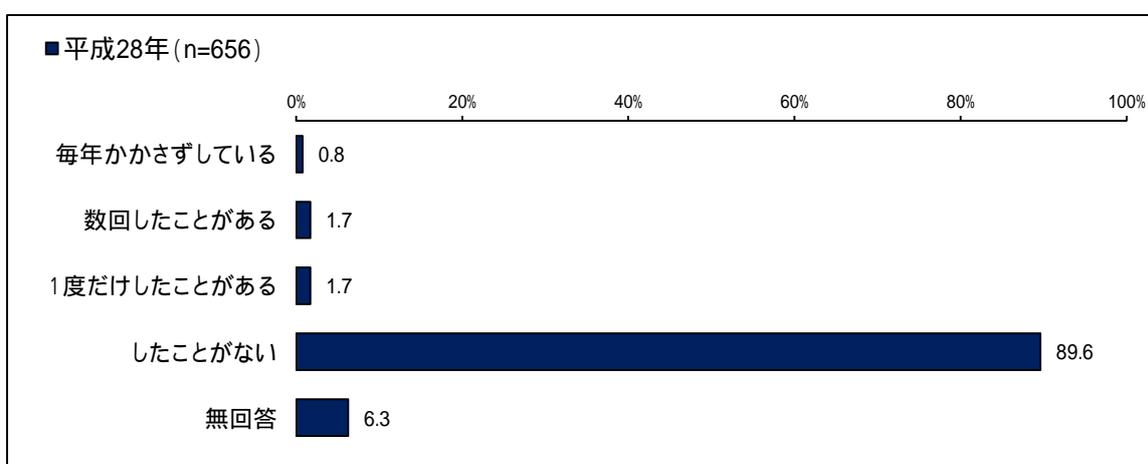
(4) 他市区町村への「ふるさと納税」について

問24. 神川町以外の市区町村に「ふるさと納税」をしたことがありますか。(1つに)
ふるさと納税とは、自治体への寄附金のことです。
実質今収めている道府県民税・市町村民税の一部を任意の自治体へ移転できる制度です。

「したことがない」が約9割を占める。

神川町以外の市区町村への「ふるさと納税」について尋ねたところ、「したことがない」が89.6%で最も多く、次いで「数回したことがある」「1度だけしたことがある」(同率1.7%)が続き、以下「毎年かかさずしている」(0.8%)の順となっています。

他市区町村への「ふるさと納税」について / 全体



性別・年齢別・居住地区別でみると、すべての層で「したことがない」が8割を超えています。

他市区町村への「ふるさと納税」について / 全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位: %)

		n	毎年かかさずしている	数回したことがある	1度だけしたことがある	したことがない	無回答
全体		656	0.8	1.7	1.7	89.6	6.3
性別	男性	259	1.5	0.8	1.5	90.7	5.4
	女性	276	0.0	1.8	1.8	90.9	5.4
年齢別	18歳～19歳	14	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	20歳～29歳	33	0.0	0.0	0.0	97.0	3.0
	30歳～39歳	62	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40歳～49歳	80	0.0	2.5	5.0	91.3	1.3
	50歳～59歳	103	0.0	1.0	1.9	96.1	1.0
	60歳～69歳	177	0.0	3.4	2.3	84.7	9.6
	70歳以上	167	3.0	0.6	0.6	85.6	10.2
居住地区別	丹荘小学校区	329	0.6	0.9	0.9	92.1	5.5
	青柳小学校区	195	0.5	2.1	2.6	88.7	6.2
	渡瀬小学校区	61	1.6	4.9	4.9	83.6	4.9
	神泉小学校区	46	0.0	0.0	0.0	93.5	6.5

網かけは最も高い項目 18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(5) 役所の仕事ぶり

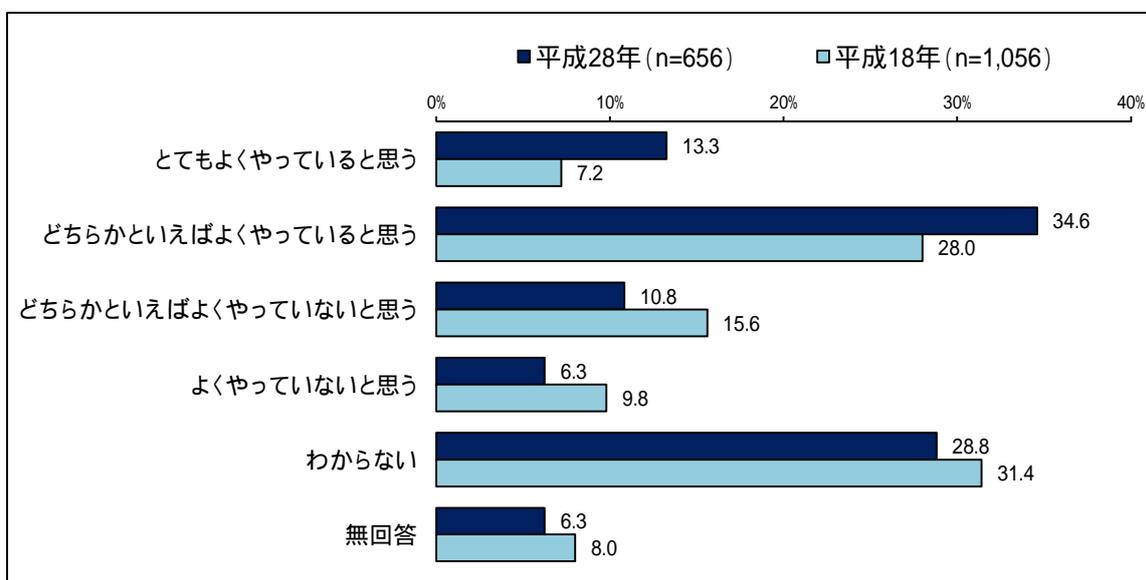
問25. 役場職員の仕事ぶりをどのように感じていますか。(1つに)

『よくやっている』は47.9%。一方、『よくやっていない』は17.1%

役場職員の仕事ぶりについて尋ねたところ、「どちらかといえばよくやっていると思う」が34.6%で最も多く、これに「とてもよくやっていると思う」(13.3%)を合わせた『よくやっている』は47.9%となっています。一方、『よくやっていない』(「どちらかといえばよくやっていないと思う」10.8%及び「よくやっていないと思う」6.3%の合計)は17.1%となっています。なお、「わからない」は28.8%でした。

経年比較で『よくやっている』をみると、平成18年(35.2%)に比べて12.7ポイント増加しており、町民の役場職員への評価は上がっています。

役所の仕事ぶり / 全体(経年比較)

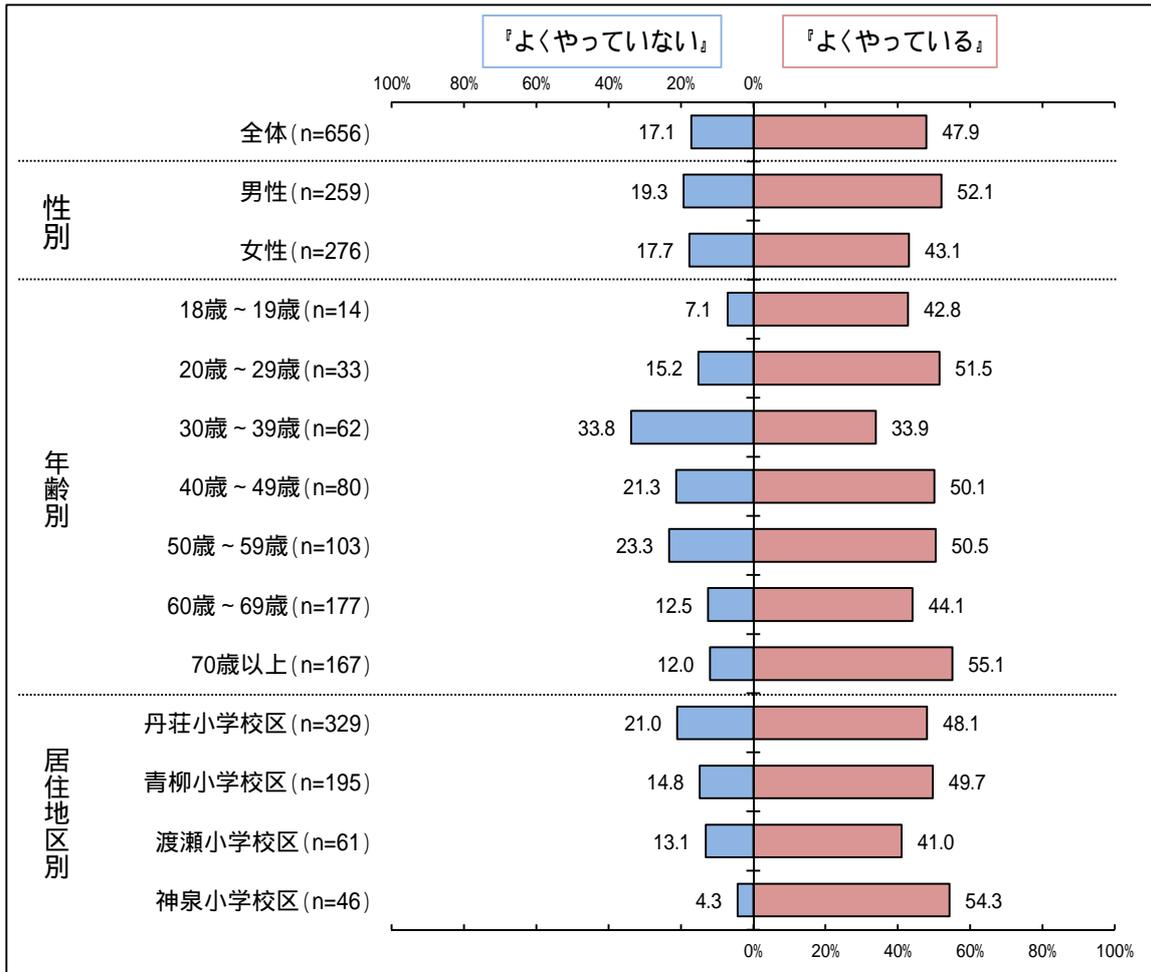


性別で『よくやっている』をみると、男性（52.1%）が女性（43.1%）を9.0ポイント上回ります。

年齢別で『よくやっていない』をみると、30歳～39歳（33.8%）が他の年齢層に比べて比較的高くなっています。

居住地区別で『よくやっている』をみると、神泉小学校区（54.3%）が他の地区に比べて比較的高くなっています。一方、『よくやっていない』をみると、丹荘小学校区（21.0%）が比較的高くなっています。

役所の仕事ぶり / 全体、性別、年齢別、居住地区別



18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

10 自由回答

回答者の記載内容を尊重し、極力原文のまま掲載しておりますが、個人が特定できるような内容に関しましては掲載しておりません。

【保健・医療・福祉・介護】

< 医療 >

- ・今よりもっと住みよいまちだと自慢できるようなまちにするために、少子化問題と医療に取り組んでほしい。不妊治療の補助があまりにも旧態のままなので、もう少し今の現実に沿ったものにしてほしい。入院等受け入れてくれる病院が少なく、介護の問題も深刻である。何らかの神川町独自の取り組み、補助を考えてほしい。
- ・耳鼻咽喉科、眼科が神川町にあればよいと思う。
- ・住民健診の診察は形式的すぎてあまり必要ないように思う。
- ・小児科を増やしてほしい。医療費無料の年齢を、高校生までにしてほしい。
- ・大きい病院がほしい。
- ・大人の医療費を免除してほしい。生活が厳しいため、医者もろくに行けない。
- ・病気になった時、交通が不便なので、高齢等の理由で自分で通院できない場合どうすればよいか。タクシーを頼もうと電話をしても出ない。救急車を頼むほどでもなければどうすればよいのか。まちの方でどうにかしてもらえないだろうか。

< 高齢者支援 >

- ・これから高齢者が増える中で、ささやかな年金から介護保険料をたくさんとられることに驚いた。国民年金だけで生活している人はどうやって支払っていけばよいのか。高齢者で働けない人の現状をなんとかしてほしい。
- ・介護保険料が高すぎる。介護施設のまちへの導入は、年金生活者に対して負担が大きすぎるのではないか。
- ・高齢者が安心して住める福祉と環境づくり。
- ・高齢者が働きたいという気持ちがあるのに、働く場所がない。
- ・高齢者に対するサポートの強化。
- ・独居高齢者への支援。
- ・年金の分配額が下がるので、今後の生活が心配である。
- ・老人ホームはいたるところにあるが、値段が高くて町民が入れそうなところがない。高齢者でも働ける場所をつくる必要があると思う。

< 障害者支援 >

- ・障害者に対するサポートの強化。
- ・障害者に働く場所を用意してほしい。

< 若者支援 >

- ・若者が働ける場所を町内につくる。
- ・若者が住み続けていける神川町を望む。
- ・若者が都会で働く今、都会へのアクセスを向上させることで、まちが維持できると思う。優先すべきは若者支援である。投資は若者に向けるべきである。
- ・人口を増やすために若者を増やす。そのためには、大学の誘致、鉄道の複線化が必要である。
- ・緑が多く自然はとてもよいが、活気がないので、若者が多く活躍できるまちになったらよいと思う。

<子育て支援>

- ・子育て支援の充実。(同様4件)
- ・これから子育てする親は神川町に帰りたがらない。長い目で見るのもよいが、早めの対応も必要だと思う。
- ・今の切実な願いは、子どもたちの遊び場である。安全な遊び場を増やしてほしい。
- ・子どもたちが安心して生活できる新しい施設を早急に建ててほしい。どこの市町村も保育や教育等の施設は新しいものが多く、遊具もきちんと設置されている。子育て環境が悪いと思う。
- ・子育て世代に安定した収入がなければ、未来に希望は持てない。子どもは大きな宝である。若者が結婚して子どもを育てられる世の中にならないと、神川町も発展できない。できるだけ支援を希望する。心も体も健全な子どもが育ち、大人になり、親になる神川町を望む。
- ・室内プール等、子どもが遊べる施設がない。
- ・若者を集めるためには、子育てが充実していることが大事である。保育料が安く学費の負担がある等、他市町と比べて移動する。
- ・少子化対策。少人数ならではの生かして、魅力ある教育環境をつくってほしい。メディアで紹介されているような人気の教育方法等を取り入れ、子どもの増加に努めてほしい。親世代が居住地区を考える時に重要視するのは、仕事と子どもの教育環境だと思う。
- ・認定こども園の設置の予定。
- ・保育士の人材育成。
- ・母親学級や両親学級等があればよい。

【生活環境】

<公園>

- ・子どもたちが遊べる遊具のたくさんある公園をつくってほしい。(同様3件)
- ・近所に安心して親子で楽しく遊べる充実した公園をつくってほしい。
- ・子どもから高齢者まで楽しめるような、木陰の多い遊具のある公園をつくってほしい。
- ・役場の近くに公園らしい公園がない。

<道路整備>

- ・とにかくまちが暗い。道路脇に反射板もなく、夜は歩道がわかりにくい。
- ・住宅地の道路に側溝をつけてほしい。
- ・住宅地内の道路整備をしっかりとしてほしい。数年前隣家が全焼したが、道が狭くて消防車が入れず見ているだけだった。
- ・小学生の通学路の脇に、私有地から飛び出している植木がとても迷惑である。
- ・雪が降った翌日、凍結している道路が多すぎる。
- ・大雪等の災害時に早めに道路を整備してほしい。
- ・町道の草刈り、側溝の土砂上げ。
- ・歩道の整備。高齢者が安心して散歩できるような遊歩道がほしい。
- ・毎年1回歩道の側溝の清掃。つまっているところだけ見直してほしい。
- ・毎年夏になると道路に雑草が生えて狭くなり、見通しも悪くなる。まちの印象をよくするよう、早めに対策をしてほしい。
- ・遊歩道の無駄な植木は取り除き、きれいにしてほしい。

<上水道>

- ・水がまずい。
- ・水道代が高い。

<汚水処理>

- ・下水道がほしい。(同様2件)
- ・下水道にふたがなく、臭い。ボウフラもわいている。下水道にはふたをしてほしい。つまって流れなくなりそうな場所は、つくる前に予想できるのだから、きちんと対処してほしい。とにかく蚊が多すぎる。広報等で不要な水たまりをなくすように呼びかけてほしい。
- ・下水道の整備。
- ・浄化槽管理を怠り、汚水を流す家庭に徹底指導をしてほしい。悪臭に困っている。

<ごみ収集・処理>

- ・ごみの出し方がかなりいい加減である。
- ・ごみ置き場の徹底。
- ・ダンボールは資源なのに、なぜ手間をかけて処分しなくてはならないのか。電話で問い合わせると、「決まりなので」の一点張りで、神川は資源についてどう考えているのだろうか。
- ・資源ごみの収集を徹底して、まちの収入とするべきだと思う。

<公害防止>

- ・悪臭の対策をしてほしい。神川町に入った途端、臭いと言われることもある。
- ・悪臭レベルの確認と消毒時間の調整。
- ・町道に土砂を積んだ多数のダンプカーが往来し、土砂を処理する土地があり、トラックのタイヤに付いた土がほこりとして舞っている。ダンプカーのエンジン音でテレビの電波障害が時々起きる。ダンプカーがセンターラインを越えて走行し、時間帯によっては普通車よりもダンプカーの方が多く走行している。これは公害である。役場が電波障害や危険走行等の実態を調査し、業者への改善指導をおこなうよう要望する。
- ・有害物を燃やす煙と悪臭の改善を望む。

<防災>

- ・金鑽川の河川内に、土砂やコンクリート片、雑草等が堆積しているところが多数あるので、大雨時に流水が堤防を越えることが予想される。対策をしてほしい。
- ・災害時の対策が十分であるか心配である。
- ・神川町でも災害に力をいれ、災害に対応できる資格を持つ人のネットワーク等、住民が安心して生活できるシステムを作成されることを希望する。
- ・防災神川をたくさん利用してほしい。子どもたちの資源ごみ回収の中止等、わからないことがあるので利用してほしい。
- ・埼玉県は災害のないところで住みやすいと思う。これからもお世話になりたい。

<住宅環境>

- ・スーパーを増やしてほしい。(同様3件)
- ・ごみや枝等を自宅で燃やしている家が多く、朝洗濯物を外に干す時点で、煙がくることもある。匂いがつくし、健康面も心配である。若い世代を呼び寄せるには、そういった慣習も見直していかないと、定住に結びつかないと思う。
- ・まわりが自然に囲まれて住みやすく日々充実している。
- ・一部の地域で特定のテレビ局の電波が入らないのでどうにかしてほしい。
- ・河川の汚れの整備。

- ・休耕地が太陽光パネルで埋め尽くされているのがとても残念である。
- ・高齢化が進みひとり暮らしの人が増えていると思うので、子どもも昼間一緒に遊べるシェアハウスの施設があればよいと思う。
- ・使用していない土地の草木がのびほうだいで、空き家等があり、虫がとても多くて困る。
- ・神川町には銀行が1つもない。眼科医がない。歯科は充実している。
- ・神川町新里に住んでいるが、住宅地の前の田畑に牛ふん、けいふんをまく人がいる。臭くて窓も開けられない。年に2～3回まき、臭い日が続く。
- ・他の市町まで買い物に行かなくてもよい環境。
- ・大木などの消毒をしてほしい。
- ・町営住宅の入居者のモラルの低さに大変迷惑している。職員の働きかけのおかげでかなり改善されたが、まだ困ることがある。自然環境に恵まれて暮らしやすいまちだが、住宅のモラルが高まればよりよくなるのではないだろうか。
- ・買い物が不便なのでスーパーをつくってほしい。
- ・高齢者の意見としては、緑豊かで買い物が便利だとよい。住宅も公共であるとよいと思う。

<交通>

- ・交通の便が悪く、車がないとどこへも行けない。(同様5件)
- ・八高線の本数が少ない。(同様2件)
- ・午前と午後に循環バスが出るとよい。週に2回くらいでもよいと思う。
- ・交通量の多い通学路の安全の確保。
- ・高齢者の交通手段。
- ・子どもが高校へ通うのに、交通の便が悪くとっても困る。バス代もとても高いし、何本も通ってないのでとても困る。
- ・車を運転できない高齢者のために、月に何回か神泉役場からバスを出してほしい。
- ・電車・バスが不便に感じることがあるので、もう少し本数を増やしてほしい。
- ・八高線とバスの接続が悪いのは致命的だと思う。
- ・本庄早稲田駅と工業団地から丹荘駅に接続してほしい。

<その他>

- ・外灯の増設。(同様3件)
- ・ほたるがいるきれいな水が流れる川がほしい。
- ・スクールゾーンであっても草木がのびほうだいで、子どもたちの下校時の防犯がされていないように思う。まちでも防犯カメラの設置を増やすべきだと思う。

【産業振興】

- ・神川町の農産物の梨を大いにPRすべきだと思う。(同様2件)
- ・神川町は梨が有名だが、後を継ぐ人がいないため、梨をつくる人が減っているのが心配である。(同様2件)
- ・お店を増やしてほしい。活気がない。
- ・クラフトフェアやファーマーズマーケット等、人を呼べるイベントを定期的に関き、他県からの集客を目的に交通を充実させてはどうか。
- ・ご当地アイドルは必要ない。
- ・デパートがほしい。
- ・まちの中が活気がなくて、将来が心配である。人が集まりたくなることを考えてほしい。農産物を利用して、観光なり、産業なりの売り出し方をしたらどうだろうか。

- ・ 駅周辺の近代化と神川町ならではの産業や観光開発、町外からのアクセスを充実させるための公共投資として、農工商の後継者への支援充実。
- ・ 何か1つ、他の市町村に自慢できるものがほしい。
- ・ 今後は休耕田が増えると思う。協同作業を徹底し、その中から自家用として配分し、残りを販売する大型農業を提案したい。農業に携わる若者も将来の希望が見出せる世の中であってほしい。
- ・ 自然というすばらしい恵みがあるのだから、それを生かした特産物や公共施設の活用、観光施設等で、神川町を他の県や市町村の人たちに知ってもらえたらと思う。
- ・ 若者の活動を身近に感じている。更なる企業誘致を進め、雇用の創出、税収増加を視野に、今まで以上に活動を広げてほしい。
- ・ 住民が、これが自慢だとはっきり言えるようなまちにしたい。それにはしっかりとまちのすみずみまで見つめ、どんなよいことがあるか拾い出すことだと思う。
- ・ 神川町が昔どのような場所であったのか、資料館等あればよいと思う。
- ・ 神川町にはたくさんの観光資源があると思う。カタクリの花や冬桜等、他県から観光客を呼ぶようなツアーがあればよいと思う。梨園もたくさんあるが、手土産としてあげるときは袋か梨にシールを貼る等した方がよいと思う。
- ・ 神川町は全体的進歩というものがない。農村としての自覚が足りないのではないか。次世代の交替で後を継ぐ人がいない。自分の農地とはいえ、安易に太陽光発電設備の場として使用している。伝統である農業である以上、大農業地帯として一か所にまとめて、近代設備を備え、共同経営で新しいブランドをつくり、海外に輸出してはどうだろうか。
- ・ 他市町から集客できる何かを考えてほしい。
- ・ 知名度の上昇。埼玉県民、群馬県民、どちらにも知られていない気がする。
- ・ 特産物・特産品があり、他の市町村からの集客があれば活気ある神川町になると思う。
- ・ 農業・商業・町政がタッグを組んで「観光立町」を目指す道が望ましい。特出した農産物や大きな工場が少ないので、町外から集客し豊かになるように工夫する必要がある。町内の力を集めて、どうにか振興していく道を探した方がよいと思う。
- ・ 農業の高齢化が大変進んできている。まちで助成して神川の農業を守ってもらいたいと思う。
- ・ 名産品をもっとアピールして、若者が農業で生計がたてられるようになるとよいと思う。

【教育・文化】

- ・ まちにプールをつくってほしい。
- ・ 英語教育に力を入れてほしい。
- ・ 教育面に力を入れてほしい。「切磋琢磨」という言葉を用いて、多人数にこだわっているように感じるが、現状は琢磨されているようには思えない。目が届いていないと思う。
- ・ 児玉・神川地区にプールが1つもないのはいかなものか。夏の間だけでも設置してほしい。阿久原・渡瀬地区をウォーキングしている人が多いので、ウォーキングコースを整備して、年1回ウォーキング教室を開催してほしい。
- ・ 小さい子どもたちが思いやりの心を持って社会へ旅立てるよう、あたたかい教育をあたえられるまちになってほしい。
- ・ 神川町の学校施設は立派だが、具体的な数値はあまりよくないと思う。まずは教育だと思う。
- ・ 神川幼稚園、保育園に採用された職員には、教育者としての研修を受けてほしい。教育公務員としてあるまじき態度の人がいる。よく見て採用してほしい。
- ・ 神泉小学校・渡瀬小学校・青柳小学校の統合の推進。
- ・ 大学がほしい。

- ・大人は子どもに尊敬されるようにする。しつけは家庭の義務である。学校教育は知性と学力向上に努める。
- ・難関大学進学を目指せる小・中・高一貫教育ができる学校設立、私立校の誘致が必要だと思う。

【行財政・まちづくり】

< 財政 >

- ・各種保険料・税金が高すぎる。(同様4件)
- ・一時的でも住人が増えるような環境を整え、まちの税収につなげてほしい。
- ・国内の生産経済活動は、税金によっておこなわれていると思うので、国内すべての市町村の行財政も税金でおこなわれていると思う。公平に合法的に民主的に使われるべきであると思う。
- ・財政においては今後の税収の見込み、国県等からの収入状況の分析、それをどのように諸施策に反映させていくか、なるべくわかりやすく計画を作成してほしい。
- ・財政の健全化を望む。次世代行政マンの国内留学等を通して、他行政レベル、企業の処理・運営を体験させるべきである。
- ・税金が高くて払うために働きたいが、前年度の給料によって決まるので納めるのが大変である。
- ・税金を納めていても、まったく恩恵が感じられない。
- ・昔ヨーロッパ研修をした職員がいるが、それが何のための研修だったのか疑問である。
- ・大変な思いで支払っている税金が無駄なく使用されることを望む。昔からのやり方を変更せずにやっていこうとせず、新しい考えを持った人員を入れてまちづくりをしてほしい。
- ・年に数回しか使用しない集会所の水道代はいくらかかっているのか。
- ・無駄な道路工事を減らしてほしい。税金をもっと大切に使うしてほしい。
- ・予算を使い何か成果を出しているのか。

< 広報・広聴 >

- ・FM局に反対する。(同様3件)
- ・「広報かみかわ」「お知らせ版」はまとめたらいいと思う。
- ・神川町がどのようなまちづくりをしているのかわかるように、神川町にあるコンビニにチラシを貼る等、SNS以外でも情報を得られるようにしてほしい。
- ・神川町を住みよいまちにするために、情報がほしい。
- ・町議会の質疑応答の広報がわかりづらいので、質問と答えを表のようにして簡単にわかるようにしてほしい。
- ・夜中の火事の放送を、どうしてあんな夜中にするのか。次の日辛くて仕方なかった。

< アンケートについて >

- ・アンケートは将来を見据えた政策の根幹を問うものにしてほしい。
- ・アンケート調査をしたところで、その結果が今後きちんと生かされるのか。今までに回答したことがあるが、何が変わったのかわからない。
- ・このアンケートをどのように使って、どう役立てられるのかが問題である。よく考えて集計して役立ててほしい。
- ・このようなアンケートでも、町政・まちづくりに対して興味関心を持つきっかけになると思う。今後は広報等、まちからの情報発信に注視していこうと思う。

- ・このようなアンケートは一部を除き、どの市町村でも使える一般的なものである。結果を総合施策に反映すべく多面的な分析をお願いしたい。
- ・この調査をもとに行政をいくつかかかげ、それを分析して内容を解説してほしい。
- ・まちをよくする目的でこのようなアンケートをおこなってくれてありがたい。
- ・質問の設定・意義・行政に寄与すべきレベル等の内容に、整然とした一貫性がない。
- ・若者にこそこのアンケートの実施をお願いしたい。

<行政>

- ・役場職員の対応がよかった。（同様2件）
- ・役場職員の態度が悪い。（同様2件）
- ・「人材育成」を中心とした施策の展開を期待する。
- ・このようなアンケートも大切だが、本来は町民の代表の議員が丁寧にそれぞれ研究していくべきものである。議員一人ひとりが何をすべきか自ら考え、研究して答えてほしい。町民の要望を聞き、自らの公約・政治信条としてまちを改革してほしい。
- ・どのようなまちを目指しているのか理解できない。しっかりしたビジョンを示してほしい。この土地・地域だからこそ目指す特徴を持つべきと考える。
- ・以前住んでいた市では、証明書自動交付機で住民票等発行できて便利だった。神川町にはないので、あれば便利だと思う。
- ・過疎地帯を優遇してほしい。
- ・議員の質の向上を望む。もっと勉強してほしい。将来の右肩下がりの人口構成の変化に具体的にどう対処すべきか、ビジョンにどう肉付けしていったらいいのか、まちの職員たちとも真剣に話し合っ建設的な議論をしてほしい。他市町と交流して、よいところを取り入れていく努力も必要だと思う。
- ・議員の定数を10人くらいにして、議員の質の向上を希望する。
- ・区長、自治会長等の自治会役員の負担が多すぎると思う。
- ・公平公正な町政を望む。
- ・合併して企業や商業を誘致して若者の住めるまちにしてほしい。
- ・今こそまちが中心となって、農業・観光・企業誘致に取り組むべきだと思う。そのために、役場内の思い切った組織改革も必要だと思う。
- ・在住者で優秀な若者がたくさんいるのに、まちではそれらの若者を探そうとしない。机の前の仕事だけでなく、外に足を運び地域の住民の声を聞き、若者を探す工夫をした方が神川の文化の発展につながると思う。
- ・市町村合併すべきだと思う。神川町だけでいろいろな政策を考えても、施設や規模的に限られてしまう。群馬県藤岡市と合併し、将来は高崎市として群馬県南となることを望む。
- ・支援センターの広場にエアコンを設置してほしい。
- ・若者の意見を重視したまちの発展を期待する。
- ・書類の配布が遅い。役場に問い合わせると、担当者がいないのでわからないと言われることがあるが、担当者を増やす等の対応をした方がよいと思う。
- ・少子化対策を早急に考えてほしい。子育て家庭には最大限の支援をしてほしい。日本国内でもよい結果が出ているまちがある。企業誘致を進め、雇用を増やし、税収を上げる。そして高齢者が老後の生活を保障されるようになれば、お金を使うようになると思う。まちにお金を落とすアイデアを考えることが大事だと思う。
- ・職員の仕事以外での負担が大きい。以前は町内の若者の参加が見られたように思う。

- ・神川町の全体人口の減少。人口構成のアンバランス。収支のアンバランス。晩婚化、非婚化。若年層のまち離れ。税収の落ち込み。工業団地の企業の海外シフト化。非正規・派遣社員の増加。2025年問題。10年後はこれらがさらに問題となっていると思われる。神川町の状況を分析・検討して、町民に可視化できるような総合施策をつくってほしい。
- ・選挙や検診等、参加したごほうびやポイントカード等の物品で促すようなことをする必要はないと思う。
- ・町議会議員にもっと頑張ってほしい。議会質問を便りで読んでいて、残念に思う。まちを本当によくしたいのか疑問に思う質問もある。もっと町民の声に耳を傾けたり、現場に足を運んだりして質問内容を挙げるべきだと思う。
- ・町職員の半分はスペシャリストにしてほしい。それぞれの分野で知識・技術で卓越した能力を持つよう準備し、町民の要求に対応できるようになってほしい。
- ・本庁に草がいっぱい生えていてがっかりした。神川町の顔だから、外観で内容が駄目に思われるし、職員全体のだらしなさも問われると思う。挨拶もできない職員もいる。議員にも気付けてほしい。
- ・役場にエレベーターを取り付けてほしい。高齢化に伴った施設の整備。
- ・役場の職員にこんなまちにするというビジョンが感じられない。
- ・役場の職員も一町民であることを忘れないでほしい。
- ・役場の雰囲気がよくないと思う。笑顔であいさつしてほしい。誰でも入りやすい役場になってほしい。
- ・役場を土日どちらか開けてほしい。
- ・有識者の意見をもとにまちの事業計画を進めてほしい。

<土地利用>

- ・空き地・空き家の整備・有効活用。（同様4件）
- ・20数年前よりは一体感のあるまちになりつつあるが、農地転用等の規制の見直しも必要だと思う。実状にあった規制がよいと思われる。
- ・休耕地や空き地で草丈が高くなったり、道路にはみ出していて視野が妨害されているところがあるので、管理が必要だと思う。
- ・空いている田畑が、どんどん太陽光発電の黒っぽい土地に変わっていくのが残念である。公園等の緑に変えられないものかと思う。
- ・空き家や耕作放棄地の解消。
- ・使っていない田畑の有効活用。
- ・子ども園をつくる話が出ているが、場所や大きさ、駐車場等不便にならないようにつくってほしい。
- ・周辺の農地等について、耕作放棄地が増加している。高齢者事業により草刈りを進める方向で景観を保てるよう指導してほしい。地主の負担はやむを得ないと思う。

<住民参加>

- ・60歳以上の人たちでボランティア集団をつくり、その能力や活力等を上手に生かす。
- ・まちの職員関係者がボランティア活動のリーダー役として積極的に参加すべきである。
- ・住民として協力するので、役場職員にはさらに頑張ってほしい。
- ・小さな市町村でも、アイデアとリーダーの実行力があれば、いくらでも潤うことができる。実行するのであればぜひ協力したい。
- ・町政のことはよくわからず難しいが、今後自分の意見が言えるように知識を得たいと思う。

<まちづくり>

- ・ 明るいまちづくり。（同様2件）
- ・ これからも新たな神川町の基本理念を心がけ、住民一人ひとりが自然豊かな暮らしやすいまちづくりに取り組み続けていってほしい。
- ・ まちづくりに関する会合を多く持ち、みんなで作くりあげるまちにしてほしい。
- ・ 安心して住めるまちづくり。
- ・ 企業の誘致等を積極的におこない、雇用を拡大し、税収・観光を増やして、全国に知られるまちづくりをしてほしい。
- ・ 企業誘致をして交通整備をおこない、商業施設を活性化させ、昔ながらの悪いしきたりを整備すれば、若者が出ていかないまちづくりができると思う。
- ・ 教育・就業環境を整備し、進学率の向上を図るとともに、地元で働ける仕組みをつくる。子育て世代と高齢者が働けるまちづくりをお願いしたい。
- ・ 近所同士で子育てできるような、アットホームなまちになってほしい。
- ・ 高齢者が住みやすいまちづくり。
- ・ 高齢者にとっては静かで環境がよく住みやすいが、若者が安心して働ける希望の持てるまちづくりをしてほしい。
- ・ 国が推進している「地方創成加速化交付金」を有効活用し、町民が期待できるあたらしい魅力ある「まちづくり」の早期策定と実施を要望する。
- ・ 今後も緑豊かな神川町で、子どもたちが安心して住めるまちづくり。
- ・ 市町村合併をおこない、大企業や大学等を誘致して若者が住みたいと思えるまちづくりをする。
- ・ 自然豊かで、きれいなまちにしてほしい。
- ・ 若者が住み続けたいと思うまちづくり。
- ・ 住みやすい環境と子育て・教育が安心できるまちにすることが大切であると考え。合併等を考え、住居に適したまち、職場に適したまちの色分けができるとして、神川町は安全安心な住みやすいまちを目指したらよいと思う。
- ・ 住みよいまちにしてほしい。
- ・ 将来的に若者が出ていくまちではなく、若者が集まって来るような魅力あるまちになってほしい。
- ・ 小さくも輝くまちにしたい。
- ・ 神川町は商業施設もなく、交通機関も整備されていないので非常に不便である。車がないと生活できない。学生にとってはまったく魅力がないまちだと思う。
- ・ 神川町は色々なイベントを活発にやっていると他地域の人たちから聞く。今後ともこのような活動を推し進める団体の力を活用すれば、活力あふれるまちづくりができると思う。
- ・ 生まれ育った神川町なので、とても住みやすいと思っている。これからのどかで空気のきれいなまちであってほしいと望む。
- ・ 田園地帯として、文化的で高齢者に便利で子育てしやすく、周辺に生活できる賃金収入があり、働く場所もあるまちづくり。
- ・ 農業する人も歳をとり、後継者不足で休耕地が増え、まちはどうするのか。また、外来種動物についてどう考えているのか。これらもまちづくりに関係すると思う。
- ・ 美化活動が十分で、健康的なまちが望ましい。このまちにいと歳をとっても健康になる、そんなまちなら住みたい。
- ・ 明るいまちづくり。住人の豊かな生活ができる神川町を目指す。

- ・緑が豊かで、とても住みやすいよいまちであると思う。その反面、防犯面と交通安全面での不安が目立つ。家の前の狭い道での自動車の過速度通過が気になる。小学生や中学生もよく通る道であり、交通安全面での対策の強化が必要だと思う。大好きなまちにずっと住みたいので、安心して住めるまちづくりに期待する。
- ・老後も安心して住めるまちづくり。
- ・高齢者・子どもが住みよいまちづくりを望む。

<その他>

- ・これ以上の市町村合併は必要ない。今ある農産物や環境の財産をよく知り、充実させる。自力でまちの財産を保てる方法を探す。
- ・外国人を対象にした日本語講座を開設してほしい。
- ・公共の施設内の大木を切ってほしい。
- ・私の家では部屋によってインターネットの無線LANが飛ばない場所がある。家の建っている場所の問題だと思うが不便である。
- ・図書館の本がきれいにならべられていない。やぶれた本をそのまま貸し出す等、本の管理ができていないように感じる。本の整理や修理等、子どもたちにボランティアの一環としてやらせてみたらどうか。

【その他の回答】

- ・最近のご近所でも高齢者が多くなり、50歳代が若い方だと思うと、不安に思う気持ちもあり、子どもたち夫婦のところに移転も考えている。
- ・神じいとなっちゃんのクリアファイルはワンポイントくらいにして、クリアな方が実用的でよいと思う。
- ・正午の時報の音楽がもの悲しい。ハンドベル演奏の「エーデルワイス」にしてほしい。
- ・長く住み続けたいと思っている。



神川町まちづくりアンケート 調査報告書

編集・発行：神川町役場 総合政策課
〒367-0292 埼玉県児玉郡神川町大字植竹 909
電話：0495-77-0701
F A X：0495-77-3915